

オーストリアの憤懣

オーストリアの要求

セルビアの拒絶とオーストリアの強硬態度

たため、その憤懣が爆発したものであることはいふまでもない。

しかしながらこれは重大事件であつた。オーストリア政府のみならず國民もまたセルビア青年の背後には秘密團のあることを探知し、皇太子の復讐をはかると共に兩國間の禍根を絶滅するため、セルビアを膺懲すべしとの論が盛となつた。オーストリア外相ベルヒトールド (Berchtold) はやがて駐獨オーストリア大使をしてポツダム宮殿に獨帝ウィリヤム二世に謁見せしめたが、カイゼルはセルビアの暗殺行爲を怒り、オーストリアに對してセルビアへの自由行動を許した。茲に於てオーストリアは七月二十三日セルビアに對して最後通牒を發し、セルビアは今回の兇變に對して遺憾の意を表すること、排塊主義の宣傳を禁止し、且つ秘密結社を即時解散せしむること、サライェヴォ兇變の關係者審理にはオーストリア代表者を参加せしむること等強硬なる要求をなし、而も期限を四十八時間に限定した。これはセルビアにとつて峻烈なる要求であり、殊に兇行者審理にオーストリア代表者を参加せしむることは内政に外國の干涉監視を受くることとなつて、獨立國としての體面を喪失する所以となり、而も連累者にセルビア文武官の名を出す時は、致命的打撃を受くるが故に、他の要求は多く許諾して誠意を示しながら、この條項のみは回避した。しかしながらオーストリア政府は太子暗殺の根本事件解決に關して、セルビアが回避したるものなる故勿論この回答には満足せず、二十五日には大使を引上げ二十八日には宣戰を布告して敵對行動をとるに至つた。

イギリスの調停とドイツの拒絶

ドイツの和平調停

列國の態度

この間に列國の調停運動が幾度か試みられた。イギリスの外相グレーはこの問題を露塊間に於て解決せしめんとしたが、ロシアはオーストリアを批難し、フランスは協商國側とオーストリアとの妥協を喜ばずして成功せず、更にオーストリアの最後通牒に當つてロンドンに露・佛・獨・英の四國會議を開かんとしたが、ドイツは協商國側に拘束せらるることを虞れて拒絶した。この拒絶はドイツにオーストリアを援けて列國と交戦する程の重大決意があつてのことではなかつたかも知れない。けれども既にオーストリア大使がポツダム宮殿に訪れた時、重臣・首相參謀總長・實業家等を招いて御前會議を開き、戦備の整へるか否かを問ひ糺し開戰を議したといふ風評が一般に信ぜられ、従つて協商國側は愈々ドイツの態度を猜疑するに至つたのである。

けれどもドイツはこの時(七月廿八日オーストリア宣戰布告の日)宰相ベートマンホルウエヒをしてオーストリアに對してロシアと直接交渉を開くこと、及びその進軍を敵國首府までにて中止することを勸告し、露帝に對してもまた親電を送つて兩國が互に善處するやう調停せられんことを懇請してゐる。けれどもオーストリアの態度は頗る強硬でドイツの勸告をも退け、セルビアに向つて盛に進軍を續けることとなつた。これは時勢の赴くところまた止むを得なかつたことであらう。

露・獨・佛・英の宣戰 オーストリアからの攻撃をうけたセルビアは對等に防禦し得るだけの兵力は初から持ち合せてゐない。従つてセルビアは當然ロシアの援助を乞はなければ勝算はないのである。

ロシアの動員

ロシアもまたセルビアを見殺にするときは獨・塊の勢力がバルカンに進出して總スラヴ主義の破滅を來すものであるから當然これを援助すべきである。従つて七月二十六日(オーストリアが對セルビに最後通牒を送りし日)には國境要塞に戒嚴令を布いてオーストリアを牽制したが、更に三十日(オーストリア對セルビヤ宣戰の翌々日)にはオーストリアに對してのみ動員を行はんとする政府案を排してドイツをも含む總動員を行はんとする參謀本部案を決定し、獨・塊國境に向つて極秘裡に總動員令が通達せらるるに至つた。これは事態の急迫を憂慮したると部分的動員は戰略上不可能なりしによるといはれてゐる。

獨・塊本部の對策

ドイツの參謀總長モルトケ(Moltke, 普佛戰役等に活躍せしモルトケ將軍の甥)は、政府が和平調停に努力する間にも列國の軍事行動に留意し、常に機先を制して戰機を有利に捉へんとし、七月二十九日には一部を動員して國境警備の任に當らせ、更にオーストリア軍部に對しても對露動員を勧め、自國首相ホルウエツヒにも對露最後通牒を發せんことを勧め、三十一日正午までに決定することとした。然るに三十一日午前十一時四十分駐露大使から「三十日既にロシアは動員せり」との急報が達した。茲に於てドイツ政府は何等の躊躇するところもなくロシアに對して十二時間以内に動員を解除すべきことを要求する最後通牒を發し、自國內には直ちに總動員令を發することとなつた。かくて翌八月一日にはロシアに宣戰を布告し、オーストリアもまたこれに倣つて八月五日對露宣戰を布告した。

獨・塊の對露宣戰

フランスは既にロシアとの間に露佛同盟のみならず軍事協約(これは極秘に附せられ、一九一八年ロシアの帝政が顛覆した時フランス政府から始められた)を結び、露佛兩國は獨・塊よりの攻撃に對して全力をあげて援助する旨を約してゐた。而も

フランスの態度

一九一二年よりは反獨親露派のボアンカレーが大統領たり、駐佛ロシア大使イスヴォルスキーとは密接なる提携を保ち、サライェヴォ兇變の直後は英露海軍協定の成立を斡旋するため露都に滞在してゐた。従つて獨・塊に對する共同戰線は既定の事實と見てよい程である。かくして彼は七月二十九日フランスに歸國して直ちに閣議を開き、對露提携を決定し、翌日秘密裡に軍隊を國境に送り、イギリスにはカンボン大使に訓令を發して軍事的援助を乞はしめ、かくてドイツが對露宣戰を布告せし翌日(八月三日)動員令を下し、八月三日ドイツも對佛宣戰を布告して遂に獨・塊は露佛を敵として戰ふこととなつたのである。イギリスは獨軍がベルギーに進軍してその中立を犯すを見て八月四日ドイツに宣戰を布告した。世界政策に關する強敵ドイツをこの擧に於て粉碎せんとし且つはイギリス海峡前面にドイツ軍の跳梁することを虞れたがためである。オーストリアがセルビアに最後通牒を發してより(七月二十三日)イギリスの參戰まで僅かに十日を経過するのみである。

フランスの動員と宣戰

イギリスの宣戰

ドイツの既以前參謀總長シュリーフェン(Schlieffen, 1891—1905 在任)の時、露佛二國を敵とする作戰計畫を決定してゐた。それによれば各個擊破と即戰即決を二大原則とし、交通機關不備にして動員の遅鈍なるロシアを後にし、最初に全力をあげてフランスを擊破し、迅速にパリを陥れて後ロシアに轉じ、これを粉碎せんとした。従つて對佛作戰に於ても守備の嚴

シュリーフェン作戰計畫

第四章 世界大戦

重なる南方の獨・佛國境を避けて中立國たるベルギーを通過しフランスの東北國境より優勢なる兵力を以て南下し、右翼旋回の機動作戦を以てパリを攻略せんとするものであつた。

この作戦は極めて巧妙なものであり、優秀なる兵器と強力なる軍隊と卓拔せる將校とを有するドイツ軍にとつては最も適應せるものであつた。けれどもこの作戦は武力の徹底的勝利を必要とし、且つ迅速なる決戦を必要とし、若しその何れかが不完全なる時は、腹背に敵を受けて被包圍戦を免れない。のみならず現代の戦争が武力戦のみならずして經濟・外交・文化等の國家總力戦であるとするなら、武力を主としたる作戦には多くの危険が潜在することを考へなければならぬ。これに反して佛・英等は持久戦をとつた。巧みに敵の鋭鋒を避けて時日を遷延し、機を見ては反撃を加へながらドイツの經濟的・國民的消耗と軍隊の疲弊とを待つた。かくして世界大戰はその作戦に於てドイツの武力的即決主義が勝つか總力的持久主義が勝つかの爭覇戦であつたといつてよい。

戰況

西部戰線 ドイツ軍は既にフランスに宣戦する以前八月二日第四軍は早くもルクセンブルグを占領し、第五軍はフランスのヴェルダン (Verdun) 要塞に向つて進發し、第一・第二・第三軍の大部隊をベルギー國境に集結して一舉に佛軍粉碎の態勢をとつた。

ベルギー攻略

これに對してベルギー國王アルバート (Albert) は、既に今日あるを豫想して國內諸所に堅固な

英・佛軍の略

る城塞を築造し、七月三十一日には動員令を下して各部署に就かしめたので、ドイツが國內の軍隊通過を要求せし時も國際條約の蹂躪であるとして拒絶し、英佛二國に援助を求めた。かくてドイツ軍の侵入に對する抵抗は極めて頑強に、リエージュ (Liège) 要塞は十日を経過するも陥落せず、漸く四十二瓏重砲を集中して二週間にこれを陥れ、ブリュッセル (Brussels)・ナミュール (Namur) を占領してフランス國境に出づるに開戦當初より數へて三週間に要した。これはドイツ軍作戦の最初の蹉跌であつたといつてよい。この間に英佛軍は戦備を整へて佛・白國境を防備することが出來た。しかし英佛軍の指揮官ジョッフル (Joffre) はドイツ軍の鋭鋒を避くる意味に於て斷然全軍に退却を命じた。特に中央部に於て速かに退却し敵の主力をパリとヴェルダンの間に引きよせ、更にマルヌ (Marne) 川以南にまで退却して敵主力を包圍せんとする態勢をとつた。茲に於てドイツ軍は最右翼(即ち佛軍の左翼にて最西部)より強壓を加へ敵をパリ以北に包圍して殲滅せんとする最初の作戦を捨て、勝に乗じて佛軍の中央部に多く進出し却つて敵の包圍陣形中に陥つたのである。ジョッフルはこの有利なる態勢に於て九月五日全線一齊に反撃を加ふべく強硬なる命令を出した。兩軍火花を散らして戦つたが、中にもフランス左翼より獨軍の右翼を強襲して包圍を完成せんとする英佛軍の猛襲は最も激烈を極め、獨軍は漸くにしてこれを喰ひ止められども、そのため第一・第二軍の間に兵力なき空隙を生じ、その地點より敵の進撃するを虞れて全軍に互り總退却を執行することとなり、九月十

マルヌ河畔の會戰

英・佛軍大勝

二日エーヌ (Aisne) 河畔に陣地を後退せしむることとなつた。かくしてフランス軍の隱忍自重と反撃の強襲により、一週間に互るマルヌ河畔の大戦は、大勝利を占め、バリーの危急を救つてフランスの安泰を保ち得たのみならず、獨軍の鋭鋒を挫いてその作戰計畫を齟齬せしめ、而も各個撃破と即戦即決を不可能にして持久戦に入らしむることとなつた。これは英・佛軍の最初に於ける成功であるといつてよい。かくて西部戦線は塹壕戦に入ることとなつた。

ロシアの進出

東部戦線 東部戦線に於けるロシアの動員は案外に早く行はれて二手に分れ、一はオーストリアの國境ガリチャ方面に、他は東プロシヤ方面に進撃し、八月中旬にはドイツ國境が危殆に瀕した。茲に於て參謀本部は急遽西部戦線より二箇軍團を送つて防備に當らしめたが、更にヒンデンブルグ (Hindenburg) を司令官としルーデンドルフ (Ludendorff) を參謀長として頽勢を挽回せしむることとした。かくてヒンデンブルグは作戰上更に獨軍を東プロシヤ内に退却せしめてロシアの大軍四箇軍團をこの方面に誘致し、沼湖多く活動に不便なるタンネンベルグ (Tannenberg) に於てこれを包圍し、二箇軍團を殲滅せしめ、捕虜九萬と砲三百五十門を鹵獲して大勝利を博した(八月二、九日)。しかしながら異民族を含むオーストリア軍は弱く、チエック軍の如きは銃を捨ててロシア軍に降るもの續出し、全軍も退却の止むなきに至つた。されば戦勝のヒンデンブルグ軍がこれを助け、次第にポーランドを東方に向つて戦果を擴大し、翌年にはワルソー (Warsaw) を領有することとなつた。

タンネンベルグの會戦

特に一九一五年七月より十一月にかけての進出は極めて顯著なものあり、戦線はリガ (Riga) よりピンスク (Pinsk) を經てチェルノウヰツ (Zernowitz) に達した。

トルコの参戦

トルコ・イタリアの参戦 一九一四年十月トルコが獨・塹側に味方した。これは獨・塹側にとつて非常な強味であつた。即ちバルカン半島に於ける諸小國を挾撃して勢力を張る上に於ても、ダーダネルス海峡を通ずる露・佛・英關係を中絶せしむる上に於ても、また殆ど北海及び西歐を封鎖された獨・塹がただ一つ東方に於て世界に出口を求め外界との接觸と外資の輸入をなすこと等極めて意義深きものがあつた。従つて聯合側は直ちに宣戦してトルコを攻撃し始めた。これはトルコを屈服せしむることによりバルカンに優勢を示すと共に、東方に於ける露・佛・英の聯絡を緊密にし、且つ獨・塹側と外部との接觸を斷つことが出来るからである。かくて一九一五年二月より英・佛聯合艦隊はダーダネルス海峡を攻撃したが、トルコ要塞よりの砲撃に遭つて成功せず、陸軍のガリポリ (Gallipoli) 半島敵前上陸も失敗してしまつた。かくてバルカンに於ける獨・塹側は勢力強く、更に一九一五年秋にはブルガリヤがセルビア及びロシアに宣戦したので、獨・塹とトルコ間の完全なる聯絡が保てることとなり、獨・塹側の非常な強味となつた。

英・佛軍のトルコ攻撃

ブルガリヤの参戦

イタリアの参戦

また一九一五年五月にはイタリアが英・佛側に參加した。イタリアは三國同盟の一員たると共にロシアにも好意を示し形勢を觀望して中立を宣言したが、一九一五年にはオーストリアに對し、中

立維持の代償としてアドリヤ海沿岸を要求して拒絶され、英佛側がこれを保證したので遂に三國同盟を破棄してオーストリアに宣戦し、イソンゾ川 (Isone) 及びトリエスト (Triest) 方面を攻撃したので、獨逸側の東部ロシア戦線は牽制をうくることとなつた。

大戦三年目の形勢

ヴェルダン要塞戦 一九一六年にはヴェルダン要塞戦が最も壯烈に展開された。既に大戦は第三年目を迎へたけれども、東部戦線の決勝に比して西部線の斬壕戦は膠着状態にあり、且つ英佛の海上封鎖によつて國內の經濟情勢も次第に悪化し來つたので、茲に一大決戦を行つて戦局の展開を行はんとするに至つた。その目標となつたのがヴェルダン要塞である。この要塞が頑強なるために西部戦線は進捗せず、パリも攻略する能はず、西部戦線の勝敗は一に懸つてこの要塞の攻略にあつた。従つてドイツは斷乎たる決心を固め、莫大なる犠牲を覺悟して東部戦線の兵をも輸送し大部隊を用意して一九一六年二月より攻撃を始めた。城將ペタン (Petain) 將軍はこの城塞がフランスの運命を左右するものなるため文字通り奮戦死守した。ゾーモン堡壘 (Douaumont)・ヴォー堡壘 (Vaux)・死人丘 (Mort Homme) は激戦の中心であり、獨軍の歩兵大部隊が巨砲の掩護射撃により一大集團となつて突撃また突撃を繰り返しながら幾度か全滅し、幾度か占領してはまた奪ひ返され、附近は死骸の山、彈痕の谷をつくつた。かくて幾度か兩軍の死闘によりて爭奪を繰り返し、勝敗は容易に決しなかつたが、漸く四月頃より獨軍の攻勢が衰へ始めた。ドイツ軍は五十萬の犠牲を

ヴェルダン要塞戦

英・佛側勝利の兆

拂つたといはれ、この二箇月に互る兩軍の肉弾戦は蓋し大戦中最も壯烈なものといはれてゐる。かくて六月頃より東部戦線にロシアの進出あり、同月末頃より西部戦線にも英佛軍の進出があつて獨軍はヴェルダンに専念する能はず、十二月に至つて全く佛軍の優勢裡に鎮靜に歸した。この間佛軍は十箇月に互つて悪戦苦闘を續けたが、この死闘死守によつて西部戦線の優勢を確保し獨軍の進出を阻止し得たので、茲に戦局は次第に英佛側に好轉の兆を示し、ドイツの作戦はまた次第に齟齬しゆくこととなつたのである。

ドイツ海軍の作戦

奇襲戦法

海上の戦況 開戦當初に於てドイツの海軍力は英佛の約六割を所有するに過ぎなかつたといはれてゐる。従つてドイツの海軍作戦は一先づ決戦を避けて主力艦をキール軍港に蟄伏せしめ、以て海上を敵の封鎖に委すると共に、巡洋艦・驅逐艦・潜水艇等の快速小艦艇を以て敵艦を奇襲し一つ一つこれを撃沈して海軍力を漸減せしめ、また敵海岸及び敵艦を襲撃して脅威を與へ、然る後兩海軍力の近似する時出でて一大決戦を試みんとするものであつた。そのため開戦後は敵海軍が直ちに北海を封鎖し、海外に於けるドイツ植民地は無援孤立となつて敵軍の占領するところとなり、非常なる打撃を被るに至つた。けれども巡洋艦・驅逐艦・潜水艇等の奇襲は大いに效を奏し、イギリス軍艦の沈没せしものも少からず、ヘリゴランド沖(一九一四年八月)・ドッガーバンク(一九一五年一月)には巡洋艦が出勤して小海戦をなしたることもあり、またドイツは特に潜水艇を重用して嚴重なる敵の封鎖線を突破し敵

東洋艦隊の活躍

ニュートランド沖海戦

國海岸の軍事據點や商船を攻撃して敵艦を寒からしめ非常な脅威を與へた。

また膠州灣を根據としてゐたドイツの東洋艦隊はスベール (Spee) 提督司令の下に戦備を整へ寡少なる兵力(裝甲巡洋艦二隻、輕巡洋艦三隻、假裝巡洋艦一隻)を以てチリ沖にイギリス艦隊を撃破したが、フォークランド沖 (Falkland) にてイギリス艦隊のため全滅した(一九一四年一月)。またこの艦隊に屬せし輕巡洋艦エムデン (Emden 三六〇〇噸、四吋砲十門) は南洋・印度洋方面に於て敵國の軍艦二隻・商船十九隻を撃沈し世界の航海業者を戦慄せしめたが、遂にスマトラ島の西方ココス島にて英艦のため擱坐自沈した(一九一四年一月)。

しかしこれらは勿論大局を左右するものではなかつた。のみならず海軍作戦の奇襲戦法もその効果は著しからず、封鎖は次第に嚴重となつてドイツの經濟・軍需を益、困窮せしむることとなつた。そのため海軍の消極戦法を批難する聲が起つた。かくて一九一六年一月にはドイツ艦隊司令長官の更迭が行はれてシェール (Scheer) が新任され、愈、出動してイギリス艦隊に大打撃を與ふべき作戦をたてた。シェールは五月に全艦隊に出動を命じて北海に出で、ユトランド沖 (Jutland) に於て沈した時(三十一日午、後四時頃)、恰かも索敵行動中なりし敵の巡洋艦隊(ビーティール提督)に遭遇し、その三隻を撃沈して大いに優勢を示した。イギリス艦隊はその快速を利用して敵の退路を遮り勇敢に應戦する一方、更に主力艦隊(ジェニコ提督)に急を告げた。イギリス本艦隊は午後六時頃到着し、これより一大決戦に移らんとしたが、ドイツ海軍は優勢なる敵の兵力を見て南方に退却し、濃霧と煙幕とを利して

イギリスの海上権動かす

潜水艇戦

無制限潜水艇戦

戦闘圏外に逸出した。イギリスは長蛇を逸しドイツは巧みにその銳鋒を避けたわけである。しかしながらこの後ドイツ艦隊は再び北海に現はれず、イギリスの海上權と封鎖は愈、確乎不動のものとなつた。かくて陸戦のみに専念して海戦を疎かにし、嚴重なる海上封鎖にあつて經濟・軍需に困窮せしめらるることとなつたドイツの戦時企畫には確かに大きな缺陷があつたといつてよい。

ユトランド沖海戦の結果、ドイツに對する海上封鎖は益、嚴重となつたので、その對策として潜水艇戦を強化することとなつた。そのため行動半徑五千哩に達する優秀な潜水艇をもつて敵國の海岸・商船を攻撃したから、英佛もまた大いに危険を感じ、ドイツと同様の海上封鎖的結果をうくるに至つた。特にイギリスに於ける穀物の輸入杜絶と商船の不安とは最も大きな痛手であつた。しかしドイツの潜水艇戦は中立國の船舶を撃沈する場合もあり、また無警告襲撃を行つて國際法規に觸る場合も少くなかつた。英船ルシタニヤ (Lusitania 三、一五〇〇噸、乗客一二〇〇名、死、うち米人乗客一三〇名餘死亡) の撃沈は世界の耳目を聳動せしめ、最も多く米國人の批難を被つた。ドイツは幾度かアメリカの抗議に遭つてこれを停止したが、遂に一九一七年二月に至り新局面を展開して徹底的に英佛の經濟・軍需・貿易に打撃を與へんとし、地中海及び北海方面に於て各國の商船をすべて無差別・無制限に襲撃すべく發表した。これは英佛側の最も苦痛とするところであり、それより一箇年後の一九一八年一月までに撃沈されたる商船二千百八十萬噸に上り、イギリスが最も多く損害を被つた。しかしながらこのことのため

アメリカの参戦

にまたアメリカ合衆國が英・佛側に加はり(一九一七年二月三日)、ドイツは戦略上非常な痛手を被ることとなつた。蓋し止むを得ざることといつてよいであらう。

國家總力戦

國家總動員體制

かくの如く戦争が長期に亘り且つ近代戦が國家總力戦であるに鑑み、各國に於ては國家總動員の態勢が愈、強化されることとなつた。即ち近代戦は單なる武力戦に止まらずして

ドイツの戦時體制

政治外交・經濟・文化等國家機關・國民生活すべてをあげての總力戦であり、即ち外交戦・宣傳戦・經濟戦・科學戦・思想戦等を包含するものであり、就中國民全般の戦争に對する熱意と堅實なる思想、犧牲的奉公の精神及び國民生活と國民産業の戦時體制化を必要とするのである。従つて交戦各國に於ては何れも國家總動員の體制をとり、國民の熱心なる協力を得て戦争目的のために邁進することとなつた。中にもドイツは早くより國家總動員の研究を怠らなかつたから、開戦と同時に周密なる企畫と整然たるドイツ的組織及び一絲亂れざる統制力をもつて國民生活を戦時體制に改めて日常生活の緊縮と消費節約及び配給統制を斷行し、商工業等の經濟組織を國家が管理・統制・企畫・指導して平和産業よりも軍需工業を重んじ、これに伴ふ労働者・職工等の救済・轉業等にも留意し、また金融統制・物價統制にも乗り出して賣買價格の制定、暴利暴騰の抑制等も行つた。のみならず海上封鎖の影響をうけて食料品の輸入に困難を來したるがため、國民の困窮甚だしく、そのため政府は主要食料品を管理して帝國配給局を設け、パン等は切符制度によつて分配し、また盛に代用食の研究に没頭した。工業に於ても鐵・石炭は自給し得ても從來外國よりの輸入を仰ぎたるもの例へば棉花・チリ硝石等は極端なる不足をつげ、そのため木材による代用衣服をつくり、また空中窒素の固定工業法(Haber-Bosch)に成功して無限の火薬を製造することが出來た。軍需工業に關しては特にラーテナウ(Walker Lathenau)が戦時原料局を設けて軍需工業の隆盛、軍需品の使用制限及び禁止、代用品工業の奨励を行ひ偉大な功績をたてた。かくしてドイツは外に英・佛・露の強大國を相手として戦ひながら、特に國內に於ける國家總動員體制を完備してその企畫統制に盡したため、海上封鎖と列國包圍のため開戦數箇月ならずしてドイツは飢餓に瀕し經濟的破綻を來して内部より崩壊するであらうと噂されたのであつたが、國民の士氣旺盛にしてよく政府の命に服し、銃後奉公の完璧を期して産業報國・生活奉仕のため努力したのである。これは前線に於けるドイツ軍の武勇と共に銃後に於ける偉大なる活躍といつてよく、世界の大国を相手として四箇年餘の戦闘を續け得た原因の一を茲に求めてよいと考へる。

諸種の統制

代用品工業の發達

長期戦に堪ふ

目 ロシヤの革命と大戦の終局

ロシヤ革命

ロシヤの革命と講和

一九一七年二月三日アメリカ合衆國が宣戦を布告してドイツに大打撃を與へた直後、三月には露都に革命が起つてロマノフ王統が倒れ聯合側の強大なる一角が崩壊したので大勢は再びドイツに有利となつた。ロシヤは極端なる専制主義の國であり、國民の不平を強力な

國內の不安と親獨派

革命起る

新政府の出現

る軍隊によつて壓服し、漸く平和を保つてゐた國である。従つて既に虚無黨の暗躍が絶えなかつたが、また過激なる共產共和思想も蔓延してゐた。然るに大戦勃發以來その準備不完全のため、戦場の兵士を困窮せしむること多く、且つ宮廷内にはドイツ貴族の出身たる皇后アレクサンドラ (Alexandra)・怪僧ラスプーチン (Rasputin) 等を中心とする親獨派ありて、機密が漏洩し、ために戦線に於て敗北を被ること多く、著しく國民の憤懣を買つた。のみならず宮廷貴族階級の豪奢に拘らず、戦争のため一般物資の供給は不足して下層民を益々困窮せしめ、特に都市の労働者に不稔の空氣が漲つた。かくて一九一七年三月首府ベトログラードにて暴動起り、軍隊もこれに加はつて假政府が現はれ、ニコラス二世は退位を宣言するに至つた。革命政府はルヴォフ (Lvov) 等が首班となり、尙戦争を繼續したが、海外(スウ)に亡命してゐた過激派のレーニン (Lenin) 等がドイツを通過して歸國しトロツキー (Trotsky) 等と共に労働者に宣傳して勢力を得、遂に十一月には過激社会主義の政府を組織し、而も列國に三箇月の休戦を提議した。

ロシアの革命と休戦提議とは大いに交戦國を驚愕せしめたが、英佛は断然これを拒絶し、ドイツは更に講和談判を開いて翌一九一八年三月三日ブレスト・リトウスク (Brest-Litvsk) に單獨講和條約を締結した。この條約に於てロシアはポーランド・ウクライナ・フィンランドの獨立及びバルチック海沿岸のリトワニヤ・リヴォニヤ・エストニア諸州の分離とドイツ支配を承認したが、この休戦講和の結

聯合軍の新陣容

獨軍總兵力を西部戦線に集む

果ドイツは大部分の兵力を西部戦線に送つて一大決戦を行ふべき機会を得るに至つた。

最後の西部戦線 この頃イギリスには温厚なる首相アスキスが退いて自由黨の閣士ロイド・ジョージ (Lloyd George, 1916—22 在任) が首相となり断乎としてドイツ屈服の大方針に邁進し、フランスにては「猛虎」といはれたクレマンソー (Clemenceau, 1917 就任) が首相となり、國內の安協平和論を排してドイツ膺懲の徹底を期した。かくて西部戦線に於てはイギリスのヘーグ (Haig)・フランスのフオッシュ (Foch) が最高指揮官として自國の精銳を統率したが、アメリカ合衆國大統領ウィルソンもまたフランスの請を容れて百數十萬の兵を送り、フランス將校の訓練をうけて戦場に現はるることとなつた。

ドイツはかねて飛行機を以て偵察・爆撃・戦闘等を行ひ、壯烈な空中戦によつて敵艦を寒からしめ、ツェッペリン飛行船を建造してロンドン(飛行機によつて五十七回、飛行船によつて五十一回)・パリ(飛行機によつて五十七回、死者二六六人)等の空襲・夜間爆撃を行つて民心を恐怖せしめたが、愈々東部戦線も一段落となつたため、茲に西部戦線に於て一大決戦を行はんと決心するに至つた。この度は必勝を期して多量の軍需品を準備し、實戦の經驗による新兵器と新戦法を用ひ、參謀總長ヒンデンブルグが秘策をめぐらして愈々總攻撃が一九一八年三月二十一日から決行せられた。これに對して聯合軍は佛軍が右翼、英軍が左翼を守つたが、從來ともその指揮命令は自國の司令官によつて爲されたがために、

獨軍の猛撃進出

時には統一を缺き聯絡を失ふ場合が少くなかつた。ドイツ軍はこの弱點に乘じ英佛兩軍の聯絡點たるサン・カンタン (St. Quentin) 附近に攻撃を集中したので戰果は大いに擴大され、その進出は幅七十五軒深さ六十軒の廣範圍に及んだ。茲に於て聯合軍はフランスのフォッシュ元帥を總司令官に戴き、その作戰指揮を統一して、漸く四月六日に至りこれを喰ひ止むることが出來た。しかし五月二十七日より六月二日にかけてドイツ軍は第二回の總攻撃をなし、聯合軍の中央突破を試みんとしてソアソン (Soissons)・ランス (Reims) 附近に攻撃を集中し、更に六月九日より十三日にかけてはロンビエヌ (Compiègne) 方面、七月十五日より十七日にかけてはマルヌ河畔 (Marne) に猛烈果敢なる攻撃を繼續した。これはドイツ軍の最も壯烈なる攻撃であり、飛行機毒瓦斯手榴彈機關銃重砲等あらゆる最新兵器を用ひての科學戰であり、盛に後續部隊を繰り出して大集團を以てする肉弾戰に次ぐ肉弾戰を以てしての白兵戰であつた。従つてフランス兵も次第に退却して再びマルヌ川南岸に陣地を布くの止むなきに至つた。けれども猛り立つ敵の強襲に對して何等の破綻をも見せず、これを防ぎ通してドイツ軍の兵力を消耗し盡さしめたところにフォッシュ元帥の作戰の最後の勝利があつた。

肉弾戰

聯合軍の反擊戰

ドイツの兵力が使ひ盡されたと見たる聯合軍は七月十八日から逆襲に轉じた。全線に互る佛英米軍の進出は次第に顯著となり、八月八日聯合軍の第二回總進撃は益々著しくドイツ軍を撃退し、遂

獨軍總退却

に再びドイツ軍は立ち上るべき英氣もなく、その後方軍需もまた缺乏を告げた。従つて八月十四日スバ (Spa) の大本營に於けるドイツ最高首腦部の御前會議には最早戰爭による勝利の見込なしとて和平交渉の開始が決定されたといはれてゐる。かくてドイツ軍は總退却の態勢となり、十一月には獨佛國境に近く退却するに至つた。大勢は茲に決したのである。

獨・奥國內の混亂

休戰 國運を賭して戰つた西部戰線に失敗したので、獨・奥側は勝利の望を全然喪失した。而も國內に於ける食糧は缺乏して下層民の困窮は著しく、オーストリア・ハンガリア國にはチェッコスロヴァキヤ・ユーゴスラヴィヤ・ハンガリア等の異民族自立の運動が起り、ドイツには社會主義者の暗躍や労働者の暴動が起つた。かくてオーストリア・ハンガリア國は十一月四日聯合國と單獨休戰條約を結んだ。ドイツは政府が和平交渉をなす間にも國內の騷擾著しく、十一月三日革命が勃發してバウァリア・プロシヤ共に共和制をしき、皇帝ウイリヤム二世は九日オランダに蒙塵し、ベルリンには社會主義の假政府が現はれ、十一月十一日にはフランスのロンビエヌ (Compiègne) にて休戰條約を締結した。この條約により獨軍は一箇月後にライン右岸に撤退すること、大砲五千門、機關銃二萬五千挺、爆彈發射砲三千門、高射砲一千七百門、機關車五千臺、貨車十五萬臺、貨物自動車五千臺を引渡すこと、また軍艦七十四隻その他を引き渡すこと等が決定せられた。

休戰條約

オーストリア
休戰
ドイツ革命

かくて聯合國の代表者フランスのクレマンソー、イギリスのロイド・ジョージ、アメリカのウィルソン

講和條約成る

ン、日本の西園寺公望、イタリヤのオルランド等がヴェルサイユ宮殿に會議してドイツとヴェルサイユ講和條約を決定し(一九一九年六月二十八日)、ついでオーストリヤとサンゼルマンの講和條約を結び(一九一九年九月十日)その他の各國とも相ついで調印を了した。開戦以來四箇年半を経過し、ドイツ・オーストリヤ・ブルガリヤ・トルコの四箇國に對して日・英・佛・露・米・伊・白その他二十八箇國が干戈をとり、六千八百萬の兵員と三千七百餘億圓の戦費を投じ、三千三百餘萬の犠牲者を出した世界未曾有の大戦も茲に終を告ぐることとなつたのである。

第五章 大戦後の世界

國家の改造

【教授要項】 大戦後ヴェルサイユ條約によつて民族主義を基調とする多くの新興國家が現はれ、戦敗國並びに新興國は多く共和制をとり自由主義全盛となつたが、同時にまた國家主義が高調せられて國家の發展と國力の充實とが企圖せられた。

國際關係

國際關係に於ては、新たに國際聯盟が成立して國際的紛争を處理し世界の平和を保障することとなり、また戦後の歐洲外交關係を調整するため、ロカルノ會議が開かれ、列國の軍備擴張競争に對しては數回に亙り軍縮會議が開かれて一先づ平穩となつた。

經濟的危機

しかし世界大戦の各國に及ぼした影響は極めて深刻なものがあつた。各國ともに經濟的危機に直面し、政治上・社會上・思想上等の動搖紛亂止む時なく、何れも全力をあげて調整に努め、一九三〇年頃までには各國とも舊態に復し、再び新銳の意氣を以て國運の隆昌をはかることとなつた。特に各國の戦後經營に就いては大いに吾人の注目せざるべからざる點が多い。

【參考書目】 バリーの平和會議に關しては、

平和會議に就
52

① H. Temperley, History of the Peace Conference of Paris. 6 vols. 1920—24. London.

R. Lansing, Peace Negotiations, a Personal Narratives. 1921. Boston.

R. Lansing, Big Four and Others of the Peace Conference. 1921. Boston.

H. W. Harris, Peace in the Making. 1920. London.

Peace Conference of Paris, Regulations Governing the Work of the Conference.

1919. Paris.

A. Tardieu, La Paix. 1921. Paris.

G. Hanotaux, La traité de Versailles du 28 juin 1919: l'Allemagne et l'Europe.

1919. Paris.

國際聯盟に就いては、

第五章 大戦後の世界

國際聯盟と就
SP

- ② C. H. Ellis, *The Origin, Structure and Working of the League of Nations*. 1928. London.
- R. Williams, *Leagues of Nations To-day, its Growth, Record and Relations to Britain Foreign Policy*. 1923. London.
- Philip Baker, *Leagues of Nations at Work*. 1926. London.
- J. S. Bassett, *League of Nations: a Chapter in World Politics*. 1928. New York.

大戦後の歴史及び各國事情に就いては、

- ③ A. J. Toynbee, *World after the Peace Conference*. 1925. London.
- A. J. Toynbee, *Survey of International Affairs*. 1925—26. London.
- H. B. Gibbins, *Europe since 1918*. 1923. London.
- R. L. Buell, *Europe, a History of Ten Years*. 1928. New York.
- C. D. Burns, 1918—1928: *A Short History of the World*. 1928. London.
- E. Lemonon, *La nouvelle Europe centrale et son bilan économique, 1919—1930*. 1931. Paris.
- E. Lemonon, *La nouvelle Europe et son bilan économique*. 1926. Paris.

大戦後の歴史

- C. G. Picavet, *L'Europe politique de 1919 à 1929*. 1931. Paris.
- Kjellén-Haushoffer, *Die Grossmächte vor und nach dem Weltkrieg*. 1930. Berlin.
- G. Noske, *Von Kiel bis Kapp: zur Geschichte der Deutschen Revolution*. 1920. Berlin.
- R. H. Lutz, *German Revolution, 1918—1919*. 1922. Stanford University.
- G. P. Gooch, *Germany*. 1925. London.
- E. Luehr, *New German Republic*. 1929. New York.
- J. W. Angell, *Recovery of Germany*. 1929. New Heaven.
- R. Lote, *L'Allemagne d'après-guerre*. 1928. Paris.
- L. Diel, *Das Fascistische Italien*. 1934. Berlin.
- G. Salvemini, *The Fascist Dictatorship*. 1929. London.
- L. Sturzo, *Italy and Fascismo*. 1926. London.
- M. Rocca, *Le Fascisme et l'anti-fascisme en Italie*. 1930. Paris.
- C. Bastide, *L'Angleterre nouvelle*. 1929. Paris.
- A. Siegfried, *La crise britannique au xx siècle*. 1931. Paris.

- A. Siegfried, L'Angleterre d'aujourd'hui, son évolution économique et politique. 1926. Paris.
- J. Mavor, The Russian Revolution. 1928. London.
- J. Lyon, La Russie soviétique. 1927. Paris.
- C. and M. Beard, Rise of American Civilization. 1927. New York.
- A. Siegfried, Les Etats-Unis d'aujourd'hui. 1925. Paris.

世界の改造

準備會議

パリ會議 一九一九年一月から五月始までパリに於て豫備的平和會議 (Preliminary Peace Conference) が行はれ、日英米佛伊の五大國 (Big Five 時には英・米・佛・伊の四が大國たりしことあり) が「すべての點に於て利害關係を有する交戰國」として凡ての會合及び委員會に出席することとなり、ベルギー・ポルトガル・ルーマニア・セルビアその他は「特殊な利害關係を有する交戰國」として各國の關係ある會議のみ出席することとなつた。會議は主として四巨頭會議 (Council of Four)・五頭會議 (Council of Five) によつて決せられたが、重要問題としては (一) 國際聯盟案、(二) ドイツ軍備縮小問題、(三) ライン左岸問題、(四) 賠償問題、(五) 獨植民地問題、(六) 各地歸屬問題等があつた。國際聯盟案はウィルソンの提案にかかり、討議の結果これを成立組織せしめて平和條約中に規定することとなり、軍備縮小

重要問題

ライン左岸問題

問題は世界大戰の元兇としてドイツを再び立つ能はざらしむるは列國の望むところとして異議なく決定されたが、ライン左岸問題は最も議論のあるところであつた。即ちフランスがアルサス・ローレン兩州を取戻すことは何人も賛成するところであつたが、更にクレマンソーはライン川を兩國の自然的境界としてザール川流域の炭田と絶好の防禦地帯をも獲得せんと熱心に主張せることに關してロイド・ジョージは「第二のアルサス・ローレンを作る」として反對し、ウィルソンもまたこれに賛意を表して意見の對立を見、一時は會議決裂が傳へられ、ウィルソンはパリ引揚を決したともいはれた。従つてクレマンソーも讓歩の色を示してその要求を捨て改めてライン左岸十五箇年間占領の保障條約を提議して漸く英米の同意するところとなつた。しかしフランスのフォッシュ元帥は飽くまでこれに反對して「五年の後ドイツは復興して國境は脅威をうけ、十五年の後はあらゆる保障條約は何等効果なきに至るであらう」といつた。賠償問題はロイド・ジョージ・クレマンソーが極力これを主張し、ウィルソンは極力反對したが、英・佛の經濟的打撃が甚大なりしたため、痛烈なる要求をなして遂に決定された。而して英・佛はドイツより支拂ひ得る限りの高額を支拂はしめんとしてその金額を決定しなかつたが、これが戦後に大きな禍根をのこすこととなつた。植民地は戰勝國が戰敗國の土地を併合することを認めざりしたため、これを委任統治として各國が分割統治することに異議がなかつた。また各地の新興國または異民族雜居地に於てはその境界問題・歸屬問題について多くの紛議を起し

賠償問題

植民地問題

民族自決主義

たが、多くは民族自決主義に則つて人民投票によりその所屬を決定し、または民族居住地によつて境界を定めた。ポーランド・オーストリア・ハンガリー・ルーマニアの諸小國は多くこの主義に基づいて決定せられたが、中には不完全なものもあつて後の禍根となつた。

條約調印

かくて五月六日ドイツに對する浩翰なる講和條約文が成立して總會に提出され、大多數の賛成を得、直ちにドイツに交付された。ドイツはその苛酷なる點に關して緩和を申請したが許されず、六月二十八日ヴェルサイユ宮殿鏡の間に於て調印した。ついでオーストリアとの間にサンジェルマン (St. Germain) の近郊 (バリー) 條約 (九月十日)、ブルガリアとはニューイイ (Neuilly) の近郊 (バリー) 條約 (十一月二日)、ハンガリーとはトリヤノン (Trianon) の近郊 (ウエネサイユ) 條約 (一九二〇年六月四日)、トルコとはセーヴル (Sevres) の近郊 (バリー) 條約 (一九二〇年八月十日) が締結され、茲に大戰は全く終了するに至つた。

ドイツ

領土割讓

講和條項の主要點

(一) 領土割讓 (A) フランスに對してはエルザス・ロートリンゲンを還附し、(B) ザール地方を十五年間國際聯盟が管理し、その後は住民の人民投票によつて所屬を決定する。(C) ベルギーにはオイベン (Eupen)・モルネー (Moresnet)・マルメディー (Malmédy) を割讓すること。(D) ポーランドには西プロシヤ及びポーゼン (West Prussia und Posen)・シレシヤの一部を讓り、ダンチヒ (Danzig) を自由市として國際聯盟が管理し、メーメル (Memel) 地方をリトワニアに讓つた。

軍備制限

従つてドイツは東部に東プロシヤを孤立せしむることとなつた。(E) デンマークにはまたシュレスウィグ (Schleswig) を割讓した。かくてドイツは領土の一三パーセント、人口の一〇パーセントを喪失するに至つた。また海外の植民地は、獨領東部アフリカはイギリスへ、西南アフリカは南阿聯邦へ、トーゴ・カメルンは英・佛二國へ、赤道以北の南洋諸島は日本へ、赤道以南はオーストラリアへ各、委任統治せられ、日本は更に山東省の利権と膠州灣を得た。

(二) 軍備制限 陸軍は歩兵七箇師團、騎兵三箇師團以下、兵數は十萬、將校四千、義務制を廢して志願制となし、兵器の製造使用を制限し、ライン東岸五〇浬以内の軍事設備を撤廢せられた。海軍は兵員一萬五千、將校千五百以下とし、小型戰艦六、輕巡洋艦六、驅逐艦・水雷艇各一二隻といふ艦艇の制限をうけ、潛水艇・軍用飛行機は禁止せられた。

賠償金

(三) 賠償金 その總額は後日の決定とし、差當り (A) 一九二一年四月までに金貨物・船舶等にて二百億金マルクを支拂ふこと。(B) 擊沈したると同噸數の船舶を各國に賠償すること。(C) 十年間にフランスに七百萬噸、ベルギー・イタリアに各、八百萬噸の石炭を支拂ふこと等が規定せられた。

オーストリアの解體

オーストリアは (一) チェコスロヴァキヤ國とユーゴスラヴィヤ國との獨立を認め、(二) イタリアにチロル (Tiro)・トリエスト (Triest) を、ユーゴスラヴィヤにダルマチヤ (Dalmatia) を、チェコスロヴァキヤにボヘミア (Bohemia) を、ルーマニアにブコヴィナ (Bukovina) を割讓

し、(三)兵数を三萬に限定され、賠償金を出すこととなつた。ホングリヤもまたルーマニヤにトランスシルヴァニア (Transilvania) とバナート (Banat) の一部を、チェコスロヴァキヤにカルパチヤ山脈の南を、ユーゴスラヴィヤにはボスニヤ・ヘルツェゴヴィナ・クロアチヤ・スラヴォニア及びバナートの大部を割譲した。

トルコは、(一)ボスフォラス・ダーダネルス海峡を列國に開放し、(二)ギリシヤにスミルナ (Smyrna) 及びトラキヤ (Thracia) の大部を譲り、イタリヤにローズス (Rhodes) 島を、フランスにはシリヤの大部を委任統治に、バレスチナはイギリスの保護下にユダヤ人の王國となし、メソポタミヤのイラク國 (Iraq) はイギリスが委任統治した。(三)またメッカ・メヂナを含むヘヂャス王國 (Hejaz) の獨立を認めた。かくてトルコ帝國は四分五裂となつてしまつた。

その他従來ロシア領たりし地にフィンランド (Finland)・エストニア (Estonia)・ラトヴィヤ (Latvia)・リトワニヤ (Lithuania)・ポーランド (Poland)・ウクライナ (Ukraina) 等の大小國家が簇出することとなつた。

新國境の出現 平和條約締結の結果ドイツ・オーストリヤ・ホングリヤ・トルコ・ロシア等が縮小解體して、ヨーロッパに新興國家が出現し、戦前に於けるヨーロッパ地圖が一變するに至つた。かかる新興國家出現の根本思想は民族主義であつたといつてよい。

民族主義による新興國

この民族主義はその根柢を必ずしも血族關係におくもののみとは限らない。歴史的に同一地方に住んで言語・風俗・習慣・思想・感情等を共通にして同一民族または同一國民たるの觀念強く、社會的・經濟的・政治的の生活を共にして而も共通の生存に關する運命を等しくするもの、即ち國民または民族と稱せらるるものを主として國家を形成せしめんとした。かくしてオーストリヤ・ホングリヤ國の跡にはオーストリヤ・ホングリヤ・チェコスロヴァキヤ・ユーゴスラヴィヤの諸國が、ロシア領内にはフィンランド・エストニア・ラトヴィヤ・リトワニヤ・ポーランドの諸國が、トルコ帝國內にはイラク・ヘヂャス・ネヂドその他の小國家が出現することとなつたのである。

新國家體制

ところがこれらの新興國及び舊戰敗國には一般に自由思想・民主思想が旺盛であつた。ロシア・ドイツ・オーストリヤ等に於て大戰を起したるは國王とその一派の野心によるもので、戦争による困苦または戰敗の痛苦もまた彼等の責務なりとし、大いにこれを痛撃して國民を主とする政府を樹立し政權をその手に收むることとなつた。次に民族または國民を主として成立せる新興國に於ては英・米・佛等の戰勝國を風靡する自由主義・共和思想に影響されること勿論ながら、また彼等が民族を主とし國民を中心として國家を設立する時、その政治は自ら國民を中心とする自由主義的共和政體たらざるを得ざることとなり、かくて彼等もまた共和政治を樹立することとなつたのである。

國家主義の傾向

しかしながらこれらの間にあつてもなほ國家主義が高調せられてゐたことは頗る注目に價する。

彼等は國內に於ては共和制をとつて自由平等を求めながらも、國際的には自國の權益を保護して些少たりとも侵害をうくることを欲せざると共に、自國の發展と國力の充實及び國防の強化、産業の發達等に關しては最善の努力を拂ひ、常に國際上に優越なる地位を占めんとしたのである。このことからまた一九三〇年後の世界的大轉換が行はれたものと見るを得べくその遠因は全くここに胚胎するものといつてよい。

國際聯盟と國際會議

國際外交の調整 世界大戰の原因を検討すれば、そこには國際間に帝國主義的競争が激化して底止するところなく、また侵略征覇的行爲が露骨となつて領土權益の侵害が相ついだたために、遂には國際間の大破綻を來したのであるから、戦後は事前に國際的紛争の解決を要望する傾向が強くなつた。のみならず大戰は交戦國に深刻な痛苦を與へ莫大な犠牲を拂はせたので、戦後は一般に再び戦亂を繰り返さざる要望が高まつてきた。而して大戰後の新國境間には小紛争や相互の物議が少くなかつた。かかることの必要から國際外交界を調整すべく茲に國際聯盟及びロカルノ會議・軍縮會議等の國際會議が現はるることとなつたのである。

戰後の國際的傾向
國際會議現はる
國際聯盟の提唱

國際聯盟 國際聯盟は理想主義者で、眞の平和愛好者でありまた人類永遠の安寧と福祉とを求めんとするアメリカ大統領ウィルソン (Woodrow Wilson) の提唱するところである。講和會議に

國際聯盟の趣旨と目的

於ては、これを樞軸として自國の地位と勢力とを伸張せんとする佛・英代表の賛成するところとなり、平和條約の第一篇として規定さるるに至つた。その規約によれば「締約國ハ戰爭ニ訴ヘサルノ義務ヲ受諾シ、各國間ニ於ケル公明正大ナル關係ヲ規律シ、各國政府間ノ行爲ヲ律スル現實ノ規準トシテ國際法ノ原則ヲ確立シ、組織アル人民ノ相互ノ交渉ニ於テ正義ヲ保持シ、且嚴正ニ一切ノ條約上ノ義務ヲ尊重シ、以テ國際協力ヲ促進シ且各國間ノ平和安寧ヲ完成セムカ爲」に設立せられたものであり、そのために締盟國は各國の軍備を最低限度まで縮小し、相互の領土保全及び政治的獨立を尊重し、戰爭勃發の虞ある國際間の紛争に關しては仲裁裁判(オランダのハーグに常設) または聯盟理事會(スイスのジュネーヴにあり) の審査に附することとし、若しこれを無視して戰爭に訴へたるものは經濟上及び軍事上の制裁(軍事上の制裁は條約に規定されたるのみにて聯盟にはをなすこととした) をなすこととした。

方法と制裁

聯盟機構

かくて聯盟本部をスイスのジュネーヴ (Geneva) におき、そこには聯盟總會があつて聯盟國の代表者が平等の權利を以て參集し、聯盟理事會があつて日・英・米・佛・伊の五大國(米は上院の拒否により後に加はる) が常任理事國となり、他の聯盟國より四箇の非常任理事國を選んで組織され、聯盟事務局があつて事務を實行した。また別に國際間の勞働問題を解決するため、ヴェルサイユ條約第十三篇「勞働」の規定により國際勞働局が設置され、加入國は毎年開かるる國際勞働會議に政府代表二名と資本家勞働者代表各一名を派遣して共通の勞働問題を議することとなつた。

國際勞働會議

聯盟の活躍

かくて國際聯盟はアメリカ合衆國がヨーロッパの政争に捲き込まれることを虞れて加入を拒否した外はその加盟國五十餘に上り、國際平和の上に新紀元を劃することとなつて、その後十數年間は華やかなる活動を續けた。従つて國際間にも協調主義が流れてその紛争を平和裡に解決せんとするの傾向強く、聯盟に於ても一九二四年にはジュネーブ平和議定書 (Geneva Protocol) を可決し、あらゆる國際的紛争を聯盟の仲裁に委任することとした。この議定書はイギリス自治領が反對したるため遂に廢棄せらるることとなつたが、それに代つてイギリスの盡力によりヨーロッパのみの平和保障條約 (ロカルノ協定) が成立した。これは聯盟の事業ではないけれども聯盟が背景となつて成立せるものであり、またこのためにドイツが聯盟に加入して聯盟の効果を一層完全なものとするに至つた。大戰後の特にヨーロッパに於ける國際紛争の平和的解決とその調整に對して國際聯盟の盡した効果は蓋し大なるものがあつた。これらは主としてフランスを背景とするブリアン (Brilland) 外交の成功であるといつてよい。

平和保障條約

フランス外交の成功

新國境を繞る國際問題

ロカルノ會議 大戰後ヴェルサイユ條約により新國境は決定したけれども、なほライン左岸はフランスが安全保障を要求して止まず、ポーランド及びチェコスロヴァキヤとドイツとの國境には紛争絶えず、仲裁裁判を必要とした。従つて一九二四年には聯盟總會に於て平和議定書を決定したのであるけれども、それが破棄されたため再びヨーロッパの關係諸國のみに於てその保障裁判等を規定せんとするに至つた。恰かもドイツの外相ストレーゼマン (Stresemann) が協調外交をとつて列國と和協的態度に出でたるため、イギリスのチェンバレン (Chamberlain) が大いに斡旋し、フランスのブリアン等と共にスイスのマジョーレ湖畔ロカルノ (Locarno) に於て協定が結ばれることとなつた。その重なるものは (一) ライン保障協定、(二) ドイツ東方國境保障協定である。ライン保障協定はドイツ・ベルギー・フランス・イギリス・イタリアの間に協定され、ライン沿岸に於けるヴェルサイユ條約規定を嚴守して一切の武裝を制限し、且つ一切の攻撃的及び侵略的行爲を絶対に禁止して現状維持に努め、若し紛争を生ずる場合はこれを國際聯盟の仲裁裁判に附すべきこととし、獨・佛・白がこれを嚴守し、英伊がその保障をなすこととなつた。更にドイツ東方國境に於てはドイツとポーランドとの國境及びドイツとチェコスロヴァキヤとの國境を明確に規定して互に相侵さざることを約し、その國際紛争に對してはまた國際聯盟の仲裁裁判を受くることとし、獨・波・チ・コ共にこれを嚴守し、フランスがその保障に立つこととなつた。かくしてドイツもまた聯盟に加入して常任理事國となり、國際平和の責任を分擔することとなつて、茲に聯盟を中心とする歐洲の平和工作は形式的に成立することとなつたのである。

ライン保障

ドイツ東方國境保障

ドイツの聯盟加入
歐洲の平和工作成る

不戰條約 またフランス外相ブリアンは、世界史上より戦争を根絶せしむるために不戰條約案を提唱し、アメリカの國務卿ケロッグ (Kellogg) が賛意を表し、遂に一九二八年八月フランス外務省

不戦條約の趣旨

に於て殆ど世界各國の調印を了した。即ちこれは「締約國は國際的紛争を解決するために武力を用ふることなく、また國策遂行の具として戦争することを止め、國際的紛争の性質如何に拘らず平和的手段をとること」を規定せるものであり、一九二九年七月より效力を發生することとした。しかし列國に於ては何れもその趣旨に於て賛意を表したけれども、自國の權益が侵害されることをも顧みず、また國家の存立を犠牲にしてもこれを遵奉せんとするの意志なく、且つ他國の經濟的・民族的・文化的進出が國家權力の發動に依るにあらざれば防止し得ざる場合もあり、従つてその後不戦條約はただ一片の反故に等しき條約となつてしまつた。

效果は期待されず

アメリカの野心による海軍建造

列國の海軍擴張

第一回軍縮會議

軍縮會議の起源はアメリカにあるといつてよい。既に世界大戰中アメリカ合衆國は頻りに「海洋の自由」を唱へて英・獨兩海軍當局に抗議したが、その海軍力劣勢なるため何等の効果なく、そのため大海軍建造の必要を痛感した。また太平洋に於ける日本の勃興に對抗するため、極東に於て支那に勢力を扶植し、而も世界に於ける自國の通商を擁護するため海上權を確保せんとして大海軍の建造を必要とした。従つて大戰中一九一六年の議會には三箇年間に合計百數十隻(戰艦一〇、巡洋艦六など)建造案を通過せしめてイギリス及び日本を驚異せしめた。しかし大戰中は一時中止したが、戦後は更に大規模の擴張計畫を始めたので、我が國も止むを得ず建艦に着手し、所謂八八艦隊(戰艦八隻、巡洋艦八隻)を計畫するに至つた。イギリスは戦後の疲弊に鑑みて大いに焦慮したが、世

建艦競争の負擔重し

軍縮會議

アメリカの提議

反對と賛成

界の海上權をアメリカのために奪はることは國家の一大危機であるから、これを傍觀する能はずして遂に建艦に着手し、ついで佛伊もまた建艦競争の列に加はることとなつたのである。しかしアメリカと雖もかかる無用の大規模なる建艦政策は過重なる負擔のため國民が苦しみ、而も將來に於て戦争の危機を孕むものなるが故に、茲に軍備制限の聲起り、一九二一年十一月大統領ハーディング(Harding)の提議に基づき、軍備縮小と太平洋問題とを討議するため、關係列國の使臣がワシントンに會議を開くこととなつたのである。

本會議に於てアメリカ國務卿ヒューズ(Hughes)が議長席につき、我が全權海相加藤友三郎・貴族院議長徳川家達(その他駐米大使幣原重、外務次官植原正直)、イギリス代表バルフォア(Balfore)等と商議を重ねることとなつた。會議の劈頭ヒューズは慣例を破つて大膽率直に十箇年の主力艦建造休止と米・英・日・佛伊の海軍力比率をそれぞれ五・五・三・一・七五・一・七五ならしめんと提議した。各國代表は何れもその趣旨に賛成したけれども、比率の點につきてイギリスは現有勢力が既に世界第一なる故に、アメリカと同比率にして海上權の喪失することを欲せず猛烈に反對し、我が國もまた對米七割を固執して譲らず、佛伊もまたその劣勢に反對した。しかしながら大戰後の當時として世界的に軍備縮小の聲高く、また會議決裂後アメリカが更に大規模なる建艦に着手する(アメリカは世界大戰の結果により世界第一に冠たり、従つて世界第一の海軍建造)ことを虞れて結局妥協協調し、アメリカ提案の比率に對して主力艦に對する可能と必要とをもつてゐた。

主力艦協定

にのみこれを適用することとし、補助艦については除外した。ただ潜水艦・航空母艦のみには制限を加ふることとした。主力艦に関する協定

伊 佛 日 英 米	保有し得べき主力艦	隻數	代換噸數
	五〇〇、六五〇噸	一八隻	五二五、〇〇〇
	五八〇、四五〇	二二	五二五、〇〇〇
	三〇一、三二〇	一〇	三一五、〇〇〇
	二二一、一七〇	一〇	一七五、〇〇〇
	一八二、八〇〇	一〇	一七五、〇〇〇

かくて軍艦基準排水量は三五、〇〇〇噸、備砲口径十六吋を超ゆるを得ず、十年間は代換のため起工し得ざることとし、この條約の有効期限を一九三六年末までと定められた。

太平洋問題

四國協約の趣旨

四國協約 ついで太平洋問題に關しても一九二二年十二月同會議に於て締結せられた。これは世界大戰後日本が經濟的に膨脹し、且つ優秀なる海軍力を有するに至りたるため、太平洋諸島及びその周邊に脅威を感ずるといふ誤解の下に爲されたものであり、日・英・米・佛の四國間に於て(一)太平洋方面に於けるその屬領及び委任統治領に關するその權益を尊重し、若し紛議を生じたる時は共同會議に依つて調整すること、(二)第三國によつて侵略されたる場合は互に交渉すること、(三)日英同盟は

四國協約の眞意

この條約成立によつて不要となりたるがために廢棄することを約した。これは主として太平洋に於ける日本の活躍を制限したるものとして大いに注目すべく、殊に日英同盟の廢棄はオーストラリヤ・ニュージールランド・カナダその他の英領が日本の發展に對して恐怖をいだき、大英帝國會議に於てその廢棄を迫つたものといはれてゐる。

九國條約の條項

九國條約 更にまた支那問題に關して日・米・英・佛・伊・白・葡・蘭及び支那の九箇國が會議を開き、(一)支那の主權及び獨立を尊重し、その領土と政治とを保全すると共に、(二)支那の門戸を開放し、各國民の經濟その他に於ける機會均等を確認すること、(三)關稅及び郵便局の權利を支那に還附すること等を約し、支那全權が陳述せしその他の司法行政・經濟・文化上に於ける要求は支那の特殊事情に鑑みてこれを拒否した。しかしながら九國條約は支那に於て所有せし我が日本の優越的地位を放棄せしめ、アメリカが唱ふる主權尊重・門戸開放・機會均等を行はしめて列國の經濟的・文化的及び政治的權益を伸展せしめんとするものであり、平和的に侵略して支那を歐米の植民地または經濟的勢力範圍たらしめんとするものである。

九國條約と日本

要するにワシントン會議は、世界大戰により經濟的・軍事的に優勢となりたる日本を抑制せんがために開かれたるものといふも過言ではない。そのために伸びんとする我が帝國の國防は海軍に於てアメリカの六割に引下げられ、太平洋に於てはその發展を掣肘さると共に、日英同盟は廢棄され、

日本に對する國際的壓迫

支那に於てはその特殊の優越地位を失ひ、山東半島その他の權益を放棄し、滿洲に於ける既得權も次第に侵害せらるることとなつて國運の發展には著しき暗影を投ずることとなつた。これは我が國にとつて極めて遺憾なことといつてよい。

補助艦問題

第二回軍縮會議 その後六年の間に、列國中にはワシントン會議によつて強制されたる比率に不滿を抱くもの多く、不足せる海軍力を補つて國防を充實せんがために補助艦の建造に熱中した。従つてアメリカ大統領クーリッジ (Coolidge) は再び軍縮會議を開いて第一回の不足を補はんとした。即ち一九二七年ジュネーブに於て我が代表齋藤實、イギリス代表ブリッチマン (Bridgeman)、アメリカ代表ギブソン (Gibson) が商議を重ねたのであつたが、最も多く補助艦を建造するフランス・イタリヤがこれに参加せざることが既に會議に一抹の暗影を投げ、イギリスの小型巡洋艦(備砲六吋砲以下のものにて、植民地防禦に最も便利なもの)主義とアメリカの大型巡洋艦(六〇〇〇噸・備砲六吋砲以上のもの)主義とが衝突して遂に會議は決裂するに至つた。

會議の決裂

我が全權

第三回軍縮會議 ついで軍縮會議は一九二九年イギリス首相マクドナルド (MacDonald) が渡米してアメリカ大統領フーヴァー (Hoover) との間に意見の交換を行つて大綱の協定をなし、翌年ロンドンに於て第三回軍縮會議を開催することとなつた。この時は佛・伊兩國も参加し、我が國よりは全權主席若槻禮次郎、海相財部彪等、アメリカよりは國務卿スチムソン (Stimson) が出席し、英

我が主張

決定比率噸數

首相マクドナルドが議長として議事を始めた。この頃日本の製艦技術は世界に冠たり、八吋砲一萬噸級の巡洋艦、二千噸一萬哩(航続距離)の潜水艦は世界の驚異となつた。我が國はこの補助艦建造により對米劣勢を補はんとした。従つてロンドン會議に於ても(一)補助艦總噸數對米七割、(二)八吋砲對米七割、(三)潜水艦現狀維持(七八四噸)を主張したが、英・米は最初より協調して同一勢力を保持し以て補助艦比率に於ても五五三を我に強制し、而も潜水艦全廢をさへ主張するに至つた。かくて折衝の結果、補助艦比率噸數は、

	イギリス	アメリカ合衆國	日本
A級(八吋砲)巡洋艦	一四六、八〇〇噸	一八〇、〇〇〇噸	一〇八、四〇〇噸
B級(六吋砲)巡洋艦	一九二、二〇〇	一四三、五〇〇	一〇〇、四五〇
驅逐艦	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	一〇五、五〇〇
潜水艦	五二、七〇〇	五二、七〇〇	五二、七〇〇

とし、且つ主力艦代換建造を更に五年間(一九三三年迄)延期することとした。かくてこの條約は一九三六年までの暫定的なものではあつたけれども、英・米が妥協して殆ど同比率となり、而もアメリカに對しては多くの讓歩と有利なる條項(A級巡洋艦の増加、潜水艦の増加等)を與へたるに反し、我が國は補助艦總噸數對米七

國際的平和を齎らす

戦後回復

第二次戦への禍根

戦後の情勢

割を得たるのみで、最も頼みとするA級巡洋艦は對米六割となり、潛水艦は三分の二に減少せられて對米同比率とされた。これらは國防上著しき缺陷あるものとして朝野の不滿を買つたところである。

國際聯盟と國際諸會議の意義 かくして國際聯盟と國際諸會議の結果は、(一)國際的紛争を仲裁裁判または聯盟會議に於て調整し、以て國際的紛争の武力的解決を避け、(二)大戦後の新國境設定により不安動搖せる國際關係を整へ、(三)列國間の軍擴競争を制限して將來に於ける戰爭勃發の危険を防止し、國民の無用なる經濟的負擔を輕減することが出來た。かくて(四)これらの國際協調主義が國際間の平和を齎らして各國とも戦争によつて荒廢せる國內の再建、諸制度の建設、經濟的危機の打開、國內民心の安定等に努力し、従つて大戦後約十數年にして各國とも略、舊態に復することが出來た。(五)しかしながら、この國際的平和の背後には戰勝強大國が自國の優越と權益の擁護をなさんとする横暴と野心が包藏されてゐたものであり、従つてまたそこから第二次世界大戦が捲き起さるることとなるのである。

目 大戦後各國の内情

險惡なる國內情勢

世界大戦が交戰國に及ぼした影響は極めて深刻なものがあり、各國は何れも經濟的危機に直面し、また政治上社會上思想上の不安動搖に禍せられて頗る險惡な情勢を續けたので、この難局打開にはみな舉國一致の態勢を整へて苦心することとなつた。即ち經濟上に於ては

經濟的難局

政治的混亂

社會的動搖

各國の努力

交戰中各國とも莫大なる戦費を使用した上、國內産業は戦時體制をとつて軍需工業となり、あらゆる物資は殆ど軍需のため使ひ盡したるが故に、戦後は莫大なる戦債に苦慮すると共に、平和産業への轉換が容易ならずして生産と資金に跛行状態を生じ、且つ戦後經營その他のために貨幣流通高次第に多く、遂にはインフレーションを起して物價の暴騰を來し、國民一般は非常なる困窮に陥つた。従つて各國に於ては經濟財政政策を立てまたは國家的産業計畫を立ててその難局を打開するに至つた。また戦敗國及び新興國に於ては政治的に於て黨派の對立、政治的見解の相違等より國內紛亂して時には騷擾を起すこともあり、或は社會上、經濟界の不振等より失業者を出し、物價騰貴のため生活苦に堪へ得ずして労働運動を起し、資本家に對して大同盟罷業を試みることもあり、更に自由主義の横溢より獨立運動を起して騷亂をなすところもあり、かくして各國とも何等かの方面に於て動搖を見ざるものはなかつた。就中これらの危機は戦敗國たるドイツに於て最も甚だしく、イタリヤ・ロシヤ・フランス・イギリスに於てもまた苦杯を嘗め、そのため或は五箇年産業計畫を立て、或は舉國一致内閣を以て打開の道を講ずるに至つた。ただアメリカ合衆國と日本のみは危機を免れて順調なる發展をなすことが出來たのである。

四 戦後のドイツ

ドイツの危機

ドイツは必勝を期した大戦に悲惨な敗北を喫して失望の淵に沈み、前途に希望を

ドイツの悲惨とその打開

失つて國民精神が萎微したるのみならず、帝政の没落後は國粹黨と社會黨の如き極右極左兩黨が軋轢して政治上社會上に紛亂を捲き起し、而もヴェルサイユ條約によつて莫大なる内外の領土を失ひ、殆ど無限の賠償金を賦課せられ、産業は荒廢し、貨幣の下落と物價の騰貴は底止するところを知らず、全く國家的破産の危機に直面した。この危機を僅かに十餘年にして打開し得たドイツ人の努力は言語に絶するものであり、その間からストレーゼマン・ヒンデンブルグ・ヒトラー等の起死回生の偉人が現はれたのである。次に經濟上政治上外交上に於ける危機の内容とその打開について述ぶることとする。

經濟的危機

戰後に於けるドイツの經濟的危機は主として過重なる賠償金に原因するといつてよい。列國への賠償金は一九二一年五月のロンドン會議によつて千三百二十億金マルクと決定されたが、これは四箇年の間あらゆる犠牲を拂つて戰つたドイツにとつては最も苦痛とするところであつた。けれども政府は忠實に賠償金支拂の計畫をたて、先づ國內の財政經濟再建のために紙幣増發を行ひ、また戰時利得税・國難奉仕税等を加重して増税を斷行した。然るに紙幣の濫發は政府に正貨準備なきため、不換紙幣の如く、貨幣價值は下落し、通貨の膨脹と物價の高騰を來さしめ、また資本家・富豪等は政府の重税を恐れて外國銀行への預金、外國投資等により資本を海外に放出せしめて、マルクの爲替相場を下落せしめた。一九二二年には國內の貨幣流通高戰前(一九一三年に六十億七千萬マルク、そのうち紙幣

支拂計畫と經濟狀態の惡化

過大の賠償金

マルク相場下落

對外支拂不能となる

ルール地方占領さる

國內産業の窒息

マルクの暴落

流通高二十三億)の五十八倍に達し、而も金銀貨はなく紙幣のみとなり、物價は戰前の三倍半(一九一三年の物價指數を一〇〇として、)となり、對外爲替相場は一九二二年一月には四十六分の一(對英一磅に對して法定平價二〇・四三マルクなり)となり、對日一圓に對し、同年末十二月には千八百三十七分の一(對英一磅が三八・六七五マルク)となつた。従つて國內の産業は萎微し、國民生活は困窮し、特に労働者や俸給生活者はそれに伴つて収入が増加せざるため最も悲境に陥り、また對外爲替相場下落によつて賠償額は愈々騰貴するが故に(賠償は金貨マルクにて支拂ふものなる故爲替相場の下)支拂不能に陥つた。然るにドイツの賠償不履行は各國にも莫大なる損害を與ふる(各國の戰後經濟即ち經濟的回復や復興事業及び戰)ため、遂にヴェルサイユ條約によりその代償としてライン沿岸の富源工業地帯を差押へることとし、佛・白の軍隊がルール地方を軍事的に占領し、且つこれを經營することとなつた。

貨幣の暴落

しかしながらルール地方はドイツに於ける鐵石炭の主要産地(石炭はドイツ總額の九割、鐵は八割を産出す)であり、且つエッセン等の工業都市が集中してドイツ産業の心臓部をなすものなるが故に、ここを占領せられたことによりドイツは致命的打撃をうくることとなつた。従つてドイツは労働者に對し消極的抵抗をなさしめて労働を停止せしめ、且つルール占領中は賠償義務を履行せずと宣言した。かくてドイツ産業は殆ど中止され、外國への支拂をも爲さざるため、ドイツの爲替相場はまた急調に下落し始め、一九二三年九月には對英一磅が四四九・三七五・〇〇〇マルク、對日一圓が四七・九〇〇、

破産的危機

〇〇〇マルク(戦前一マルク五〇銭なりしものが、今は一銭が四十七萬九千マルクとなる)となり、物價は戦前の二十三萬九千四百八十九倍に騰貴した。而も爲替相場と紙幣價值とは刻々に下落し、翌十月には我が一圓が二兆マルク即ち一錢が二百億マルクに相當することとなり、紙幣は紙よりも安價に、國民生活は悲惨のどん底に陥つた。かくてドイツは經濟上から滅亡の破産的危機に瀕した。

經濟的對策 この危機を打開するために最初に立つたのがストレーゼマン (Stresemann) である。

ストレーゼマンの新經濟政策
新紙幣發行
經濟界回復の兆

彼は經濟的悲境の眞最中たる一九二三年八月に内閣を組織したが、先づ外交上に於ては列國と協調妥協して敵對意識を止め、ドイツの國際的地位を回復せしむるためルール地方の消極的抵抗を廢止すると共に、經濟政策に於ては紙幣價值を保持するために紙幣發行には正貨準備(紙幣發行の保證準備として一般にはそれに相當する金塊を準備するもの)のかかりに全國の土地その他の商工經營資本を八百億金マルクと評するが、この時ドイツには金貨なし)のなるが、その百分の四即ち三十二億金マルクを保證準備として新貨幣價值(Rentenmark と稱し、戦前のマルク相場即ち法定爲替平價を有するもの、外)により紙幣を發行することとなり、そのため Renten 銀行 (Renten Bank) を設立した。かくてこの新紙幣を標準として新貨幣制度を定め、一億千萬マルク即ち一兆紙幣マルクを一 Renten マルクに換算して濫發紙幣を回收した。かくてマルクの暴落が喰ひ止めらるると共にドイツ經濟界も立ち直り、始めて再生の機運が動き始むることとなつた。これは政府の機宜に適したる處置と、國民が私利を捨てて國策に協調した賜といふことが出来るであらう。

ドーズ賠償案

ドーズ案とヤング案 かくて列國に於てもドイツに好意をもち、賠償金支拂に關する能力及び方法を調査して一九二四年八月アメリカのドーズ案 (Dawes Plan) が採用され、賠償金には關稅・ビール稅・煙草稅・砂糖稅・アルコール稅・國有鐵道益金を充當し、産業階級(彼等は物資を所有するためにマルク暴落によりて却つて利益を得)より五十億金貨マルクの産業債券を募集して賠償に當てしめ、かくて賠償年額を一九二四年度は十億金貨マルク、二五年度は十二億二千萬、二六年度は十五億、二七年度は十七億五千萬、二八年度以後は二十五億金貨マルクとし、現金のみならず現物を以ても支拂はしめ、更にドイツ産業の自營と繁榮をなさしむるため、ルール地方より撤兵せしむることとした(一九二六年八月實行)。かくて賠償金支拂の合理的計畫も樹立せられ、ドイツ經濟界の將來に對する希望も立ち、諸般の經濟秩序も確立せるため、復活の氣配濃厚となり、而も政府は銳意經濟界の安定と獎勵に留意して、先に發行せる Renten マルクを回收してライヒスマルク (Reichsmark) を發行し貨幣價值の安定を計り、産業の合理化 (Rationalisierung) を獎勵してその能率増進をはかり、國民もまた節約・勤勉にして不屈不撓の精神を發揮したので、産業界經濟界の復興は豫想以上に進歩し、賠償金を支拂つてもなほ且つ餘力を示す程の興隆を見るに至つた。しかし依然として賠償金はドイツ經濟の癌として國民を苦しむること著しく、従つて一九二九年には列國の賠償委員會がヤング案 (Young Plan) を採用してドーズ案を打ち切り、賠償總額を三百五十八億マルクに切下げ、賠償財源を鐵道收入と

産業の獎勵
ヤング賠償案

第五章 大戰後の世界

フーヴァー案

ドイツ國民の奮闘

國庫支出金に限定し、三十六箇年(一九六六年)に平均年額十九億九千萬マルクを支拂ふこととし、やがてライオン流域の聯合國駐屯軍を撤退せしめた。しかしながらその後世界を襲つた不景氣の結果、ドイツもまた賠償金支拂に困難を感じ、列國もまたそのために經濟界の動搖を深刻ならしむるがため、アメリカ合衆國大統領フーヴァーは一箇年間賠償金支拂延期 (Hoover Moratorium) を提案し、且つ一九三二年にはローザンヌ (Lausanne) 會議を開いて賠償額を三十億マルクに減少した。かくてドイツの經濟的負擔は次第に輕減され、産業は次第に獨立自營して活潑なる活動を續けることとなつた。かくて悲境のドン底から浮び上つて復興の機運に向ふことの出來たこの十數年間に於けるドイツ國民の痛苦と奮闘とは戦時に劣らぬ深刻さがあり、今日の隆盛は茲に起因するところ極めて大であるといつてよい。

政治的混亂

政治上社會上に於ける戦後ドイツの混亂もまた極めて深刻なものであつた。一九一八年十一月カイゼルがオランダに亡命して退位を宣言してから、ドイツはプロシヤを始め各聯邦とも共和國となつたが、それらを結合せる全ドイツ國の政治については、ルーデンドルフ (Ludendorff) を首領とする帝政派と、過激なる社會主義を奉ずるリープクネヒト (Liebknecht)・ローザルクセンブルグ (Losa-Luxemburg) 等のスバルタクス團 (Spartakusbund) 及び同派に屬する獨立社會民主黨 (Unabhängige Sozial-demokratische Partei) 等の極右・極左兩黨が、溫和にし

極右・極左黨と溫和黨との争

社會民主黨の活躍

て多數を占め政府を組織してゐるエーベルト (Ebert) 一派の多數社會民主黨 (Mehrheits-Sozial-Demokraten) と相争ひ、時にはベルリンにて流血の慘事を見たこともあつた(一九一八年十二月ベルリン暴動、スバルタクス團の全國共產黨)。しかし多數社會民主黨は穩健中庸の意見を以て國民多數の支持をうけ、暴動を鎮定して國內秩序の回復を計り、聯合國との休戦講和條約の締結をなし、更に憲法を制定せんため、普通選舉・比例代表制にて議員を選び、一九一九年二月ワイマール (Weimar) に國民會議 (Nationalversammlung) を開き、穩健中正なる社會主義によつて所謂ワイマール憲法 (Weimarer Verfassung) を制定し、ドイツ國最初の共和憲法が成立するに至つた。

新憲法の制定

立法・行政機關

ワイマール憲法 ワイマール憲法によれば、ドイツ國は十八の聯邦國家であり、人民の直接選舉によつて任期七年の大統領 (Reichspräsident) があり、議會は各聯邦の代表者よりなる聯邦議會 (Reichsrat) と人民の選舉(男女二十歳以上の普通選舉)による一般議會 (Reichstag) よりなり、前者は政府の諮問機關たり、後者は立法機關であつた。行政を掌る内閣 (Reichskanzler und Reichsregierung) は聯邦議會の信任をうくることを要した。かくてこの憲法は表面上米・佛の如き形態をとつたけれども、その内容には極めて國家的色彩強く、例へば從來各國に委されたる兵制・郵政等は國防・交通・關稅・租稅・社會施設等と共に國家的事業となつて統一され、鐵道・水路等も國營となり、經濟生活にも干渉して私經濟の社會化を圖ることとなつた。しかしまた他方には社會主義的にして集會・結社

國家主義的色彩
社會主義的色彩

出版・言論の自由は勿論、信仰及び學問研究にも自由が認めらるることとなり、而もなほ舊資本主義制度を認めて、労働者に對しては賃金労働條件等に關し資本家と協同し、または調停する機關をも設けて労働者のみの獨裁をさけた。かくして茲に特色あるワイマール憲法が成立したのである。

黨派抗争

けれどもこの憲法成立後と雖も、左右兩黨の對立は解消せざるのみか却つてその抗争は激烈となり、帝政回復を企圖するドイツ國民黨、大工業家を中心とするドイツ人民黨、大商人を中心とするドイツ民主黨、舊教を中心とする中央黨、極端なる國粹主義の國權社會黨、極端なる社會主義のドイツ共產黨があつて抗争し、その他ドレスデン・ミュンヘン・ハンブルグ・ルール・サクセン地方に騷擾が絶えなかつた。のみならず經濟上の危機は最も深刻に國民生活を脅威し、従つて社會人心は極度に不安動搖することとなつた。かかる間に一九二五年大統領エーベルトは死し、大戦の偉勳者ヒンデンブルグが七十八歳の高齡をもつて全國民の輿望を負ひ、大統領として選舉せらるることとなり、この難局を打開するに至つたのである。

ヒンデンブルグ大統領とな

ヒンデンブルグ大統領は赫々たる武勳と國民の絶對的信賴とを背景として就職し、先づ銳意國內の刷新に努めた。その頃は恰かもドーズ案實施の直後であつたから、經濟界の安定と振興とを計らんとし、産業の合理化をなさしむると共に鐵工業・機械工業・化學工業・醸造業・製紙業電氣機具業等の發達を計り、造船業・航空業等をも隆盛にした。従つて産業も活潑に、國民

産業の合理化と獎勵

國民精神の作興

の労働力と生活力は向上し、再び戦前の英氣を取戻さんとする傾向を見るに至つた。彼は更に國民精神の作興に努め、國家復興の意氣を鼓舞したので、國民の元氣は再び勃興し、國力もまたそれに伴つて顯著なる發達を見るに至つた。この頃國內には極右極左兩黨の對立が甚だしく、一はドイツ民族の興隆を叫んで獨裁政治に流れんとし、他は社會主義を徹底して労働者の天下となさんとし、その軋轢抗争は政治上のみならず、社會上經濟上にも及んだが、ヒンデンブルグはよく中正を保つて幸ひに大事變に至らしめず、平和にドイツ人の總意に向はしむるやうに計つた。最後に彼が最も大きな功績をのこしたことは、外交上ストレーゼマンと共にドイツの國際的地位を向上せしめたことである。

國內抗争の調整

外交的窮境 大戦後ドイツが外交上の孤立に陥り、而も賠償金不拂によるルール占領に對して所謂消極的抵抗を試みた頃は、最も窮地に陥つてゐた時である。それを救出したのがストレーゼマンである。即ち彼はドイツの外交的窮地と經濟的難局を打開するには列國と外交上の協調を保つこととありと考へ、既に述べたる如くルールの消極的抵抗を止めしめ、レンテンマルクを設定し列國の信用を得てドイツに對する敵意を軟らげ、遂にドーズ案の設定を見、ルール地方に於けるフランス兵撤退となつてドイツの一難を去らしむることが出來た。ついで彼はフランスの外相ブリアン

ストレーゼマンの協調外交

(Briand) と協調して熱心に國際聯盟加入を策した。ドイツ側より見れば國際聯盟に加入して諸國

國際聯盟加入

國際的地位の
向上

と協調を保ち、好意を受くることは、賠償金支拂のみならずドイツの貿易・外交上にも好結果を齎らすべく、一方英・佛側より見ればドイツの加入によつて始めて歐洲の平和を得べく、また國際聯盟の機能を十分發揮し得るのである。従つて兩外相の意見一致し、一方に於てはロカルノ條約を成立せしむると共に、聯盟加入を申込んで正式に承認され(一九一九)、而も常任理事國たるの重要地位を與へられた。茲に於てドイツの國境は安定すると共に、國際的地位は回復し、戰敗國としての劣位と敵視とを免れ、對當にして好意ある交際國となつた。かくて一九二九年にはヤング案の成立となつてドイツの負擔は益、軽減され、それと同時にラインランドより聯合軍の撤兵が約束されることとなつた。これはドイツにとつて最も喜ばしき結果であつた。

ストレーゼマンの功

かくてドイツはストレーゼマンの活躍によりその經濟的破産の危機より救出せられ、ドイツの最も苦痛とする賠償金を軽減し、更に不名譽なる聯合軍の國內駐在を撤退せしめ、國際聯盟に加入してドイツの外交的地位を向上せしめ、列國の好意と援助により國運復興の基を築くことが出來た。彼は國事に盡瘁のあまり一九二九年十月病を得て倒れたが、彼こそは眞にドイツ復興の基礎を築いた大恩人といつてよいのである。

國民的要望

しかしながらドイツ國民はヴェルサイユ條約に對して極端な不滿をもつてゐた。即ち戰勝國は大戰の責任をドイツのみに強制して、巨額の賠償金を課し、内外の領土を割かしめ、軍

大戦責任論

ドイツ國民の
要望

備を制限し、産業を萎微せしめたのであるが、ドイツ國民は大戰の責任はむしろ英・露・佛の挑戰的動員にありとし、賠償金不拂、内外領土の回復、軍備制限の撤廢を要求し、而も獨塊を合併して再び隆盛なるドイツ國家を建設せんとする希望をもつに至つた。これは國民精神が作興し、民族意識が強くなるに従ひ次第に熾烈なる國民の叫びとなり、それがヒットラーの國粹黨を増大せしめたる所以となり、また一九三三年以後に於けるドイツ大發展の根原をなしたのである。このことについては更に次の章に於て述ぶることとしよう。

戰後のイタリヤ

戰後の混亂 大戰當初に於て曖昧な態度を持し、大戰參加中も華々しき活動を爲し得なかつたイタリヤは、大戰終末の講和會議に於ても彼等が多年待望せしフィウメは與へられず、ユーゴスラヴィヤの大國がアドリヤ海對岸に出現して、國境の脅威は去らなかつた。のみならず國內に於ける經濟的・社會的混亂はドイツにも劣らぬ深刻さであつた。即ちイタリヤは建國以來經濟的に恵まれません。歳入は連年不足し、輸入超過は益、増大し、國民の産業經濟も萎微沈滞して貧乏國・乞食國の名を恣にしてゐたが、世界大戰による財政の窮乏は一層甚だしく、産業は沈滞し、失業者は益、増加するに至つた。のみならずこの經濟的窮迫に乗じてロシヤの共産思想が侵入し、既に戰爭中に於ても社會黨が盛であつたが、戦後は愈、勢力を得、全國到るところに猖獗を極むるに至つた。これに對して

戦後の國際的
不安

經濟的不安

共産思想の侵
入

革命的運動

國家的危機

政府の經濟的、政治的工作には何等見るべきものがなかつたので、社會黨は益々勢力を得、而もロシヤ及びドイツの革命に刺戟せられてその運動は過激となり、農民は土地占領運動を起し、労働者は工場を占領して自らこれを經營せんとし、特に戦後北部イタリア地方に於て甚だしかつた。従つてこの形勢を以て進む時は、經濟的危機と社會黨共產黨の勢力により、戦後のイタリアには革命勃發は免れ難き有様となつた。

ムッソリーニの出現 この時ムッソリーニ (Benito Mussolini 1883—) が出現した。彼は最初

ムッソリーニのファッショ團組織

社會主義を奉じ、「イタリア人民新聞」(Il Popolo d'Italia) を主宰してゐたが、大戦に参加して後國粹主義者となり、國家のために社會主義者と社會黨とを撲滅せんとし、一九一九年三月ミラノに於てファッショ團 (Fascio 團結 束の意) を組織し、極端なる國家思想をもち、愛國的國民的精神に燃えてゐたので、直ちに中堅國民の賛成を得て入團するもの多く、黒シャツを着て團員の表徴とした。かくて軍隊的組織と行動とをもつて社會主義者及び社會黨に對抗し、工場を占領せる労働者を解散せしめ、次第に地方政界に勢力を得て社會黨を凌駕し、一九二二年十二月にはローマに大會を開いてファシスト黨 (Partito Fascista) を組織し、イタリア民族の過去に於ける光榮ある歴史と傳統とを尊重し、純然たる國家主義に立つて秩序と統制ある強力國家を樹立し、潑刺たる國民生活とその活動、階級の調和、對外強硬政策を綱領として中央政界に乗り出すこととなつた。

黨綱領

社會黨撲滅とローマ入城

ファシストの政權獲得 一九二二年の夏、社會黨はその頽勢を挽回せんために全國に互る總罷業を決行せしめたが、ムッソリーニは社會黨を撲滅するはこの時なりと考へ、直ちに武裝突撃隊を派し、政府と協力して到るところに彼等を鎮定し、更に十月末には七萬の軍を率ゐてローマに進軍した。十一月一日國王ヴィットリオ・エマヌエーレ三世 (Vittorio Emanuele III) に拜謁仰付けられて閣の大命を拜し、直ちに首相となつて海陸内外大藏等の大臣を兼攝し、**總統 (Il Duce)** として獨裁政治を行ふに至つた。

獨裁政治

かくてムッソリーニはファッショ以外の政治的、社會的集團及び運動を禁じ、言論、出版、新聞等の検閲を嚴重にし、議會を以てファシスト委員會の如くし、且つ一九二八年の新憲法に於ては議會を職業組合單位に選出せしめたる議員即ち農業、工業、商業、海上、空中運輸業、陸上内海運輸業、銀行、保險業、自由職業の組合より選出せるファシスト黨員の議員を以て構成することとし、以て資本主義または共產主義の弊害を打破するに努めた。従つてイタリア政治はすべてファシスト黨員の掌るところたり、黨首たるムッソリーニが最高權威として全權を掌握した。

組合議會

ファシストの政治 ファシストは文化と經濟と軍備とを重んずる。彼等は愛國主義者であり國粹

國粹主義

主義者であるが故に、古代よりイタリア民族のもつ光榮ある歴史、特にローマの光輝ある戦勝と偉大なる世界帝國建設とを尊重し、ローマ史の研究、遺跡の發掘等をなさしむると共に、映畫、演劇等

青少年團と教養

經濟政策

軍備の充實

によつて歴史精神を高調せしめ、またファシスト青少年團を組織して黨精神の教育を行ひ、その主義思想の傳播強化を圖り、また國民の勞働餘暇利用運動を起して、勞働の餘暇には健全なる娛樂慰安・休養をなさしめて國民的教養に資した。經濟政策に於ては大規模なる産業國策を立て、農業のためには荒地の開墾・耕作・施肥の研究考案による增收・増産計畫を實行し、工業に於ては國産品の使用を奨励すると共に豊富なる水力を利用して電氣事業を起し、石炭の缺乏を補ひ、重工業と共に航空工業にも重きをおいた。のみならず國家の財政を整理して租税の増長を計り、歳出の節約等により歳出入の均衡をとり、また國際的不況時代爲替相場下落の頃は、リラ (Lira) を戰前の二七パーセントに切下げて安定平衡せしむることとした。従つてムッソリーニ出現後はイタリアの財政もその面目を一新するに至つた。また軍備の充實にも大いに意を用ひ、陸軍は常備軍三十萬に對して優秀なる機械化部隊とファシスト護國義勇軍があり、海軍はワシントン會議に於てフランスと同比率となり、主力艦一七五、〇〇〇噸、航空母艦六〇、〇〇〇噸の保有を許され、特にその空軍は英佛に劣らざる實力をもつといはれてゐる。かくしてイタリアはムッソリーニ及びファシストを中心とする國民統一と政權の強化及び文化・經濟・軍備の發達により、今後の外交界に偉大なる活躍をなすこととなつたのである。

四 ロシアの國情

國家組織成る

政治組織
最高會議

幹部會

人民委員會

ソヴィエト聯邦の成立 大戦中ロシアは革命によつてニコラス皇帝は退位し、帝國は滅亡したが(一九一七)そのあとには舊ヨーロッパ・ロシアの大部分を占むる地に、ロシア社會主義聯邦・ソヴィエト共和國 (Russian Socialist Federated Soviet Republic) が現はれ、各地方には白ロシア (White Russia) ・ウクライナ (Ukraine) ・アルメニア (Armenia) ・トルクメン (Turkmen) ・ウズベック (Uzbek) その他中央アジア・シベリヤ地方にも多くの共和國(總數十一)が現はれたが、次第に結合して一九二二年には統一あるソヴィエト社會主義共和國聯邦 (Union of Soviet Socialist Republics) が形成されるに至つた。最近(一九三六)決定された憲法によれば、蘇聯邦の最高機關は「蘇聯邦最高會議」といひ、聯邦會議(議員は各聯邦より選出さる)と民族會議(人口三十萬に一人宛の議員を選出)とより成る。兩會議に於ては共に立法のことを掌るほか、條約の締結、宣戰・講和・國防、軍備の企畫と統率、經濟計畫、貿易統制等何れも國家の最高國策と國法とを決定するところとなつてゐる。また最高會議(兩院)の下に蘇聯邦最高會議幹部會と蘇聯邦人民委員會とがあり、幹部會は最高會議(兩院)の召集・解散・選舉、最高軍司令官の任命、總動員の宣布、戒嚴令公布等の權限あり、最高會議の實務に携はり、且つこれを操縦し得る權力強きものにて、その幹部には錚々たるものが選ばれてゐる。人民委員會は所謂蘇聯政府にて、その中には國防・海軍・外務・貿易・交通・重工業・機械工作・國防工業・農務・穀物・財務・内務・司法・保健・國立銀行等の委員部があり、人民委員會會議の議長が所謂首相にて、人民委員が各省大臣に當り、

共産黨の機構

黨と政府

何れも各部の行政を遂行してゐるのである。しかしながらソヴェト政府の實權を握るものは蘇聯共産黨である。これは共産社會主義を奉ずる黨派で、黨員は百五十萬といはれ、全國に多數の支部あり、蘇聯の官吏・議員・將校すべて黨員たり、黨の首脳部が蘇聯政府の重要地位を占めてゐる。黨には政治局 (Politbureau) 組織局 (Organisation Bureau) 書記局 (Secretariat) あり、政治局が最も重要な機關で、ここに共産黨第一流の人物を網羅し、現在はスターリン (Stalin) が全權を振り、その下に腹臣を集めて獨裁的權力を恣にしてゐる。ここから蘇聯の最高會議・幹部會・人民委員會等の地位に重要人物を出してゐるので、共産黨と政府とは全く同一であるといつてよいのである。かくて共産黨は蘇聯の政治を完全に支配するのみならず、政治の力を借りて經濟生活・法律・教育・文學・藝術などあらゆるものを支配し、且つ共産社會主義に副はないものを徹底的に排撃してゐる。従つて蘇聯にあるあらゆるものは皆共産的なるものであり、現在はスターリン一派の完全なる獨裁下にあるのである。

ソヴェト政府の政治 始めソヴェト政府が政權を握つた時は未だ大戦中であつたから、内外の形勢も險惡であり、従つて武力をもつて國內の安定と秩序の回復を計らねばならなかつたが、大戦の終末後も、共産社會主義に對する國內の思想的・政治的・社會的反對意見や運動は相當に強く、而も經濟上・生活上より來る反對運動は最も根強きものがあつたから、彼等はその主義思想とは反對に

獨裁強壓政治

中央集權的獨裁政治を採用し、而もその背後に強力なる軍隊を養つて政府に反對するものを彈壓し、共産政治を強制した。而してソヴェト政府は帝政ロシアにも増して專制獨裁主義をとり軍隊と秘密警察 (G. P. U.) とをもつてする強壓辛辣な壓制政治を行つたのである。

土地・資本の國有

國民労働

不合理と缺陷

かかる強壓政治の背景をもつて一九一八年共産社會主義による政治が實施せられた。それによれば資本・産業の國有・國營と労働者の獨裁とが二大根本原則であり、そのためにすべての土地・資本等は國家が所有し、農民は分配されたる土地を耕し、工場は國家が經營して労働者が働き、個人的商業を禁止して貿易に至るまで國家の管理となし、國民はすべて何等かの労働に従事し、その收穫・生産品は政府に收め、生活品を現品にて労働量に應じて支給することとし、一切の私有財産を禁じた。かくて十八歳以上の労働者・農民・兵士等が男女の別なく選舉權を與へられて政治に參與し、資本家その他の不勞所得者や商人等には與へられず、労働者のみ政治上權力を得ることとなつたのである。しかしながらこの政策には實際上幾多の缺陷・不合理があつた。即ち土地・資本を私有せしめざる時は人民をしてその生存に希望を失はしめ、その收穫・生産を徵收する時は労働に對する熱意と勤勉とを喪失せしめ、すべてを労働に従事せしむることは難易・適不適・體力如何等を顧みざる強制的ものとなり、而も労働者にのみ參政權を與ふることは商業その他の者を輕んずることとなつて著しく不公平である。

果して蘇聯に於ける共産社會政治は、多くの批難を買つてこれを緩和せざるべからざるに至つた。即ち農民は土地に對する執着強くして共産主義を歓迎せず、且つ多くの收穫を政府に納めて必要な程度のみの生活品を給與せらるることには不満を抱き、或は自家用のみの耕作を行つて他を顧みず、或は收穫物を隠匿して納入せず、これを強制すれば反亂を起す氣配を見るに至つた。かくて政府が所期する農産收穫高は得られず、そのため都市労働者への給與、輸出による貿易の均衡等にも支障を生ずるに至つた。偶、一九二一年ヴォルガ(Volga)川流域の飢饉あり、財政も行き詰つて、紙幣濫發の結果ルーヴル紙幣は紙の如く安價となり、不平は全國に及んで各地に農民一揆が起るに至つた。従つてレーニンも彼の理想的机上の政策に破綻を生じたるを覺り、茲に新經濟政策を採用するに至つた。それは(一)共産社會主義の修正緩和と(二)工業の振興である。社會主義經濟の修正としては(A)農民の收穫納入額を減少して一部の私有及び賣買を許したること、(B)民間の小商工業者に個人的經營を許したること、(C)更に農民にも政治上の權利を與へ、土地の貸借を許し、小規模なる財産私有をも許容することとなつた。また工業の振興としては、ロシアが農業國にして著しく近代工業に遅れ、従つて列國に比して國力の不十分なることを免れざるが故に、(a)小工業の民營を許し、(b)大工場の經營を半官半民とし、(c)且つ工業資本のために外國資本の流入をも歓迎し、(d)かくして外國の資本主義國とも協調を保つに至つた。これは彼等の抱く理想的社會主義が結局行き詰りとなつたことを立證したものと云つてよい。

ついでロシアは一九二八年より積極的に産業五箇年計畫を立案實行するに至つた。即ちロシアの振興は工業及び農業の生産力を増加するにありとし、先づ工業用原動力として水力電氣發電所を設け、電力二百二十億キロワット、石炭採掘量年額七千五百萬噸、石油年額二千萬噸、鉄鐵及び鋼鐵併せて年額二千萬噸を得んとする計畫を立て、これに工業機械年額二十億ルーヴル、農業機械六億ルーヴル、トラクター五萬三千臺を製作する工場を設計し、更にそれらによつて重工業と農業の一大増産を計り、萬難を排して、銳意努力せる結果、三箇年後頃より愈、所期の目的を達し、農産に於ては七割増加、工業に於ては三倍餘の増産を見るに至つたといはれてゐる。

また軍備は産業計畫と共に政府の最も力を致せるところであつた。ソヴェト政府は既にその獨裁的高壓政治を實施するに當つて大いに軍隊の力を利用したのであるが、なほ歐洲諸國・バルカン・中央アジア方面に於ける紛争及び支那極東に向つて魔手を伸ばさんとするに當つては、殊に軍備の強化を痛感したのである。茲に於て軍事人民委員ヴォロシロフ(Voroshilov)は所謂赤軍または赤衛軍の擴充強化を計つたが、特に産業の五箇年計畫によつて工業を發達せしめ、先づ兵器軍需品を多く製産し、特に飛行機・戰車・機關銃等の優秀なるものをつくり、次第に飛行隊・戰車隊・機關銃隊等の機械化部隊をつくつて精銳を誇るに至つた。

蘇聯の基礎定まる

一九二四年レーニンが歿してより、スターリン (Stalin) が活躍し、トロツキー (Trotsky)・ジノヴィエフ (Zinoviev)・ブハーリン (Bucharin) 等の反対派を退けて全権を握り、獨裁的政治を行つてゐる。かくして一九三〇年頃までには政治組織を整へ、産業計畫を立て國民生活の安定を計り、軍備を充實して世界的飛躍の素地をつくるに至つた。しかしながらロシアの對外的飛躍は、單なる外交・武力のみにはあらずして、あらゆる機關方法を通じての共産思想宣傳も加はり、これによつて既成國家を内部的に混亂せしめ、以て自國の勢力を伸展せしめんとするものである。従つてそれは極めて暗躍的であり、危険なることはいふまでもない。これらに關しては更に章を改めて述ぶることとしよう。

戦後のイギリス

戦勝の結果 大戦の結果イギリスはドイツの勃興を抑へて經濟的・軍事的競争者を打倒して引きつづき世界の貿易權と海上權とを把握し、而もアフリカに於てはドイツ領西南部アフリカ(南アフリカ聯邦の委任統治)・東部アフリカ(英本國の委任統治)・太平洋赤道以南のドイツ植民地(オーストラリア聯邦の委任統治)等の委任統治地を得て、その勢力範圍を擴大していつたが、しかし國內に於ては經濟界の不振、失業者の續出、財政上の問題等より全國勞働組合の總罷業あり、續いて英貨暴落のため經濟的危機に直面せることもあり、更に大帝國內には民族自主主義が盛となつて、離叛獨立せんとする運動も著しく、その統制に苦心

イギリスの優勢

するところも少くなかつた。しかしながらたとへ軍縮會議に於てその海軍力はアメリカと同比率になつたとはいへ、實質的にはなほ世界第一勢力を把持し、自治領との間には益、その關係を密にして世界に於ける大帝國としての傳統的優位を確保してゐるのである。

戦後の政治 大戦後、イギリスの政治界には民主主義的傾向が澎湃として起り、勞働黨内閣が出現して政界に新分野をつくり、憲政史上に新時期を劃するに至つた。これは戦後イギリスに普通選舉が實施されたことによるものといはれてゐる。

イギリスに於ては元來民主主義が盛であり、既に一九一二年には男子の普通選舉法案が議會に提出され、婦人參政權運動もまたバンカースト夫人等によつて華やかに展開されてゐたが、何れも未だ決定を見るに至らなかつた。然るに世界大戦の實質的なる勝利は、一般國民大衆の手によつて得られたることを自認し、戦後に於てはその自覺擡頭著しくて民主的思想が一般時代思潮となり、これがまた政界をも風靡するに至つた。即ち大戦の勝利は選舉權なき勞働者・農民等の國民大衆が生命を賭して働きたる結果に依るものであり、また婦人が男子に代つて軍需工場・交通・通信・書記その他所謂戦後の勤めに協力したるに依るものと見地より、彼等も當然政治に參與せしむべきであるとして普通選舉法が制定されるに至つた。即ち一九一八年には二十一歳以上の男子には財産の有無に拘はらずすべて選舉權を與へ、三十歳以上の女子には一定の財産資格あるもののみと與へ、

普通選舉制成立

婦人參政權

労働黨の擴大

更に一九二八年よりは二十一歳以上のものには男女すべてに選挙権を與ふることとした。然るに普通選挙は政治界に大きな變化を與へ、茲に労働黨の進出を見るに至つた。即ち新選挙法により新たに選挙資格を得たものは、その數に於て極めて多く、殊に婦人は男子よりも多數なりしため、今後の政黨は労働者及び婦人の意嚮を無視する能はず、従つて選挙に際しては彼等の要求するところ及び彼等の利益幸福を基とする政策が約束され、また候補者には彼等の政見を代表するものが多く現はるることとなつた。のみならず労働者は鞏固なる労働組合をつくり、戦後の經濟的不況に對して資本家に對抗すると共に、積極的に政界に進出せんとする傾向強く、かくて一九二二年の総選挙には百四十二名の労働黨議員を選出して自由黨を凌駕し、保守黨につぐ第二黨となり、一九二三年の総選挙には、更に百九十一名となつて愈、保守黨の牙城に肉迫することとなつた。かくて一九二四年一月保守黨のボールドウィン (Baldwin) 内閣が辭職して後、イギリス憲政史上最初の労働黨内閣がマクドナルド (MacDonald) によつて組織せらるることとなつたのである。しかし労働黨内閣はシंगाポール軍港増強の中止、印度に於ける獨立運動の寛恕、ソヴィエトロシヤの承認、共産主義導入の嫌疑などによつて倒れ、一九二五年よりは再び保守黨内閣の出現を見て四箇年を経過し、一九二九年の総選挙に労働黨は二百八十九名の多數を得て第一黨となり、第二回の労働黨内閣が再びマクドナルドの手によつて組織され、幾多の重大なる難關を打開して戦後經營に貢獻

労働黨内閣成る

することとなつた。その難關とは主として經濟に關する問題である。

戦後の經濟

世界大戦中イギリスの生産力は殆ど軍需工業に振り向けられ、例へば羊毛製品の如きその八〇パーセントは軍需品となつてゐた程で、國內の一般平和産業は著しく衰微し、而も出征動員による労働力の不足と船舶原料品の不足とは益、これに拍車を加へ、従つてイギリスの海外貿易は著しく萎微沈滞するに至つた。

いま試みに重要輸出品激減の傾向を見るに、

國內産業の沈滞

輸出額の減少

年次	綿織物 <small>百萬碼</small>	毛織物 <small>百萬碼</small>	鐵・鋼鐵 <small>百萬噸</small>	石炭 <small>百萬噸</small>	機械 <small>百萬磅</small>
一九二三	七〇七五	一六八	四・九	七三	三七〇
一九二四	五七三六	一五二	三・九	五九	三一四
一九二五	四七四八	一四八	三・二	四四	一九二
一九二六	五二五四	一八四	三・三	三八	二〇二
一九二七	四九七八	一六六	二・三	三五	一九五
一九二八	三六九九	九八	一・六	三二	一六一
一九二九	三五二四	一六四	二・二	三五	三二七
一九三〇	四四三五	二〇二	三・三	二五	六三四

然るにイギリスは商工業と輸出入によつて經濟立國をなせる國なるが故に、貿易の激減は最も苦

貿易省

一時的好況

不況時代

イギリス工業の缺點

痛とするところであり、而も他方に於ては莫大なる軍需資材の購入を必要とするが故に、輸出入の差額は著しく大となり、戦時経済上の大問題となるに至つた。そのため一九一七年には早くも貿易省 (Department of Overseas Trade) を設けてその振興を計つたが、その効果は著しくなかつた。然るに戦後に於て一時好況時代が出現した。即ち戦時中抑制せられたる消費財の回復と需要の激増、及び閑却されたる平和施設が復舊すると共に、戦後経営に要する軍需民需資材等の關係により國內産業は活潑に動き、軍需工業の平和産業轉化も盛に行はれて、好況時代が出現したのである。しかしながらこの好景氣は需給關係が一通り満足せられて後は再び現はれなかつた。さうして寧ろ深刻なる不況時代が襲來することとなつた。それは貿易の不振より來るものである。即ちイギリスは大戦中軍需品製造によつて著しく輸出の減退を來したが、その間に海外の重要な販路は他國に奪はれてしまつた。元來イギリスの工業製品は舊式なる綿織物・毛織物・製鐵品・機械類等で、自動車・電氣機械・化學工業等の如く學理應用のものでなかつたから、容易に他國がこれを製産してその販路を擴張し、而も戦後に於てはアメリカの如き産業の合理化、日本の如き低賃金の結果による安價優秀品とは競争し得ず、遂に貿易上著しき不振を來すに至つたのである。かかる貿易の不振より、工業の不振、物價の下落を引き起し、各種産業の縮小、勞銀の低下、失業の増加となることはいふまでもない。そのため一九二六年には全國勞働組合の總同盟罷業が勃發して一大危機に直面したが、

漸くこれを鎮壓することが出來たほどである。

財政上の危機

次にイギリスに於ては財政・金融上にもまた危機が襲來した。既にイギリスにては勞働者のために失業保險法(一九一二年制定、失業六日後より戸主は毎週十七志、妻は九志、子女一人につき二志づつ支給する)を設けてゐたが、戦後の不況時代には益増

豫算の大修正

國家經濟更生策

加して諸種の社會事業と共に一九二六年には一年の支出三億五千萬磅となつて財政上の痛となり、また戦時中發行せる國內公債及びアメリカに對する國債は巨額に上り、殊にアメリカへの支拂はドイツの賠償金未拂によつて益、困難を感じ、かくて歳出入に著しく不均衡を來した。のみならず戦債支拂、戦後の輸入超過等のため正貨の海外流出は遙かに激増し、磅の爲替相場は急激に下落し始めるに至つた。茲に於て一九三一年マクドナルド首相は國內に對しては豫算の均衡を保たしむるため支出の徹底的削減を行ひ、増税を斷行して歳入を増加せしめた。この時の失業保險費の大削減によりマクドナルドは勞働黨より除名されたが、彼は保守自由黨の援をうけて舉國一致内閣を組織し、國家經濟更生策を樹立してこれに邁進することとなつた。かくて(一)金本位制を離脱してその兌換を停止し、以て正貨の海外流出を防止すると共に、(二)従來の傳統的自由貿易主義を改變して輸入關稅法及び小麥割當制を實施し、以て國內産業を保護することとし、(三)更に列國の經濟的鎖國主義に對抗してイギリスは大英帝國內に於て經濟的結合を鞏固にせんとし、一九三二年カナダのオッタワ (Ottawa) に於て英本國・カナダ聯邦・アイルランド自由國・オーストラリア聯邦・印度帝國・ニューギ

大英帝國經濟會議

ランド・ニューファウンドランド・南阿聯邦・南ローデシヤの代表者が集まつて大英帝國經濟會議を開き、大英帝國内に於ては相互に經濟上一層の親密を計り、貿易を圓滑ならしめ、その優先及び關稅の特惠を規定し、更に諸外國よりの輸入を防止することを決議した。かくして大英帝國は經濟上に於て密接なる一集團を形造り、所謂大英經濟ブロックを形成して、以て國內經濟の更生を期し、また諸外國に對立することとなつた。茲に於てイギリスも漸く戦後に於ける經濟的危機を脱し、以て新時代の國際場裡に臨むこととなつたのである。

戦後の大英帝國

大戦後世界を風靡した自由主義・民族主義の影響により、大英帝國内に於ても

諸所に獨立運動や暴動が起つた。先づ英本國に於てはアイルランド自由國が建設せられた。アイルランド問題は英本國の歴史的痛であり、大戦勃發と共にその獨立運動は中止されたが、大戦後再燃し、獨立黨員は一九一九年にはダブリン (Dublin) に假政府をたて、アイルランド共和國をつくり、デヴァレラ (De Valera) を大統領に選んだ。かくてイギリス本國との間に交渉を続け内亂の勃發を見るに至つたが、一九二一年アルスター (Ulster) 州を除く南部三州がアイルランド自由國 (Irish Free State) となり、英本國の總督をおき、獨立の議會と内閣があつて政治を行ひ、大英帝國を組織する聯邦の一員となつた。しかし國內には完全に獨立せんとする一派があり、飽くまで英帝國への服従を拒否してゐるものもあつて紛争は絶えない。

アイルランドの獨立

印度の獨立運動

また印度に於ては民族主義によつてイギリスの壓制と束縛とを脱し自治を要求するもの多く、イギリスも印度が大戦中十數億磅の軍費と五十萬の軍隊を送つたことより、印度議會と地方議會の設立を許可したが(一九一九年の印度統治法による)、イギリスがその實權を自己の手に收めんとするものであつたから、印度人は承服せず、一九二〇年ガンジー (Gandhi) 等はカルカッタに國民大會を開き、自治運動 (Swaraj) と國產運動 (Swadeshi) 西洋文化が印度の高き傳統を破壊したといふことより、國產を使用せんとする國粹的運動である を提唱し、以てイギリスとの非協同 (Non-Corporation) を決議した。この運動は根強く繼續されて容易に絶滅せず、常に政治上に重大問題を投げ與へてゐる。彼等は更に印度獨立聯盟 (Independence for India League) を組織し、熾烈なる反英運動を起すに至つた。英本國はロンドンに圓卓會議を開いてこれを緩和せんとしてゐるが容易に鎮靜せず、印度帝國の前途はなほ多難であるといつてよい。

エジプトは一九一四年イギリスがトルコと開戦した際、トルコに内通せりとの嫌疑をもつてイギリスはこれを強壓して保護國としたが、ザグルルパシヤ (Zaghlul Pasha) 等がこれに憤激して反英運動を起し、ヴェルサイユ會議に活躍した後、遂に一九二二年その獨立を承認されることとなつた。しかしイギリスはなほ多くの留保事項を設けてゐたが、遂に一九二九年に至つて殆ど完全なる主權が認められた。けれども實力を以てするイギリスの内政干渉は現今もなほ行はれて居り、従つてエジプトは實質的にイギリスの勢力下にあるものといふべく、反英運動はなほ繼續されてゐると

實質的勢力

エジプトの獨立

印度獨立聯盟

英本國と屬領との關係
 獨立的傾向

見てよい。

かくして世界大戰後、大英帝國の屬領には一時獨立の傾向極めて強く、再び戰爭の責任と犠牲とを本國と共にすることを欲せず、また外交上本國の締結せる條約によりて束縛されることを拒絶し、現にヴェルサイユ條約に於てはカナダ・南阿・オーストラリア・印度等の代表は本國の代表者と共に署名して始めてその責任を分擔する程であつた。かくして一九二六年の大英帝國會議に於ては各自治領には完全な自治權が與へらるると共に、自治領は本國と外交上全く同等の地位に立ち、決して本國に従屬せずと決議し、カナダの如きはアメリカ・日本・フランスと公使を交換するに至つた。けれども他方面からまた英本國と各自治領とは密接ならざるべからざる事情に逼られてきた。即ち經濟上に於ては既に述べたるが如く英本國がその貿易政策上列國の保護貿易と對抗して市場と原料地確保のため一層自治領との密接を必要とするに至り、遂にはオタワ協定を結んで大英帝國經濟ブロックを形成するに至りたること(三一九)及び經濟競爭・軍擴競爭の激烈となるに従ひ、各自治領は國防上殆ど何等の設備を有せざるが故に、何れも英本國の海軍力に依頼する必要を生じたること等により、茲に益、兩者の關係を密ならしめて大英帝國としての鞏固な結合を見るに至つた。かくて各自治領に派遣されたる總督はイギリス政府の代表者にあらずしてイギリス國王の代表者たり、従つてイギリス國王を中心としての大英帝國結合が益、鞏固にさるることとなり、茲に國王の地位は重要な

結合的傾向

國王中心の結合

意義を加ふると共に、國王を中心としての大英帝國が新たなる勢力をもたんとするに至つてゐるのである。若しもこの關係が將來に於て益、強化さるるならば、世界各地に領土を有する大英帝國は再び偉大なる勢力をもつこととなるであらう。

戦後のフランス

戦勝國フランス 世界大戰によりフランスは宿敵ドイツを粉碎してアルサス・ローレンの地方を回復し、莫大なる償金を得て國力の回復に資し、陸軍力は世界第一といはれ、國際聯盟の指導的地位に立つて歐洲の外交界を支配するに至つた。蓋し最も多く勝利の快感を味ひ得たものといつてよい。しかしながらそのフランスにも戰爭による打撃には最も深刻なものがあり、遂には舉國一致内閣を組織してこれを解決せざるべからざる程の重大問題を惹起するに至つた。それは財政上・金融上に端を發した經濟・社會・政治上の大問題である。

戦後、フランス政府が最も苦痛を感じたものは財政問題であつた。即ちフランスは大戦中その工業的中心地帯たる北部を盡くドイツ軍のために占領せられたるがために、軍需品の大部分はこれをイギリスとアメリカとに仰いだ。従つて國內に於ける公債が巨額に上りたるのみならず、外國債もまた二百十二億フランといふ莫大なる額に上り、その利子支拂のみにても一九二五年には總歲出の五十五パーセントに達し、更に外債償還は一九二六年以後も引き續いて支拂はざるべからざること

フランスの優越と苦悶

財政問題に悩む

戦債償還と利子支拂

工業地帯復舊費

軍備の整備強化

フラン貨の下落

下落の影響

となつてゐたのである。また大戦中の西部戦線は、主としてフランス・ベルギーであり、而も北部フランスは工業の中心地帯なるが故に、その復舊には莫大なる費用を要することとなり、これをドイツよりの賠償金によつて支辨せんと企てたが、その賠償が順調ならざるため頓挫を來して、總て政府が負擔せざるべからざることとなつたのである。更にまた戦後に於てもその世界第一たる陸軍力を維持するために軍備の充實を計る必要があつたが、大戦による損耗の補充と擴大強化、空軍の新設整備等に莫大なる費用を要し、またモロッコの叛亂、シリヤの叛亂等にも莫大なる戦費を要したのである。しかしながら最も苦痛を與へたものはフラン貨の暴落であらう。これは戦時中軍需品購入その他のため紙幣を發行して通貨を膨脹せしめた結果（戦前の国内通貨は約一〇四億フランなりしものが、一九一八年には三倍の三百三十億フランとなる）、次に国内の物價が騰貴して戦前の三倍餘となつた。そのためフランの爲替相場は漸落を始め、更にフランスの有する多額の公債（フランスは大戦中四百億フランの赤字を出したといはれてゐる）及び歳出多額による財政的不安は爲替相場の下落に拍車を加へ、戦前英貨一磅につき二五・二二フランなりしものが、一九一九年には三〇フランとなり、その年末には四〇フランを越え、翌一九二〇年六月には五十フラン即ち半分の價値に下落した。この爲替相場が下落することは外債支拂に損失を招くと共に更に国内の物價騰貴を誘致し、従つて国内の物價騰貴は金利生活者・俸給生活者を困窮せしむると共に政府の支出を増大せしめ、豫算の編成に於て事業の大緊縮と増税とをなさざるべからざることとなつた。

フラン貨の低落

財政的危機に直面

ポアンカレの起つ

難局打開策

而もそれらが更に諸外國の信用を低下せしめて益、爲替相場の低落を促したが、その上にまたドイツ・イギリス財界の策謀もあつて、一九二四年よりその翌年にかけてフラン相場は百フランを突破し、遂には一二三フランとなり、更に一九二六年七月には二四〇フランに惨落した。これは戦前フラン貨の約一割弱に相當し（戦前の一フランは我が四十錢なりしものが、この時は僅かに四錢となる）、そのために一九二六年には國家の財政が二十億フラン、一九二七年には更に五十億フランの缺損を來すであらうといはれた。これはフランス財政の危機であり、また國家的破産の直前にあつたといつてよい。

財政的危機の打開 従つてフランスは内閣を更迭すること五回、蔵相をかへること七回に及んだが、いづれも成功せず、茲に於て大統領ドゥメルグ (Doumergue) はフランス第一の政治家といはるるポアンカレ (Poincaré) を起用してこの難局を打開せしめんとした。ポアンカレは彼自ら首相として蔵相を兼ね、舉國一致内閣を組織してその中に六人の前首相を集め、眞實に前古未曾有の強力内閣をつくつた。かくて彼は國民上下より全幅の信頼をうけて所信を斷行せんとし、徐々に自力更生策をたて、(一)先づ大増税を行ひ滞納税金を回収して赤字豫算を解消すると共に、十億フランの剩餘金を出し、(二)巨額の短期國債を長期に借り換へて切迫せる支拂期日を延期し、(三)かくて堅實なる財政計畫の樹立により内閣の信用を加ふるに従ひ、国内の物價も安定し、産業も次第に活潑となつて經濟界も安定し、爲替相場も上昇し始むることとなり、(四)更にフランス財政と經濟界の

安定及び内閣の信用増加に従ひ、フランスに資金を投ずるもの及び逃避せる資金の歸還するもの多
 く、これを買集めて巨額の在外正貨をつくり、これを資金として爲替相場を人為的に安定せしめた。
 かくて十八箇月の後フラン貨は英貨一磅に對して一二五フランに安定したから、これを標準として
 一九二七年六月、フランの平價切下げを行ふに至つた。即ち我が國に換算して一フラン約四十錢な
 りしものを約八錢とせるもので、約五分の一に切下げたものである。これについては國民の苦痛を
 被るものも少くなかつたけれども、この改定によりフランスは經濟的危機を脱して好況に向ひ、ア
 メリカと共に世界の金貨國として次第に繁榮を見るに至つた。蓋しポアンカレの愛國的經濟政策
 の斷行は世界大戰の勝利にも比すべき偉業といふことが出来る。

フラン切下
 の成功
 フランス外交

外交上の優位

世界大戰後フランスは外交上に於て優越なる地位を占めた。戰後外相ブリアン
 (Briand) は、國際聯盟を舞臺として歐洲の外交界に活躍し、英佛等の戰勝大國に有利であつたヴェ
 ルサイユ條約の維持に努め、ストレーゼマンと提携してロカルノ條約を結び、ドイツ國境の紛争を
 未然に防いで歐洲の平和を確保し、更にポランド・チェコスロヴァキヤ・ユーゴスラヴィヤ・ルーマ
 ニヤ等を助けてドイツ包圍政策に専念し、更に一九二九年には不戰條約を締結して國際關係の現状
 を維持し、自國の安全と優越に努めた。従つて一九三〇年頃までに於けるフランスの外交的地位は
 極めて優位にあつたといふことが出来る。けれどもやがてドイツの勃興、イタリヤとの紛争は次第

にその地位を降し、更に國際聯盟の無能はフランスの外交的地位を益、弱化せしめ、次第に衰頹の
 一路をたどることとなつた。

アメリカ合衆國の繁榮

世界大戰とアメリカ 世界大戰に参加したアメリカ合衆國は三百七十萬の大軍を動員して約二
 百萬を歐洲戰場に送り、二百七十億弗の戦費を使つたが、聯合軍に對しては莫大なる軍需品・食糧
 品・原料品を供給し、更に巨額の財政的援助をなしたので、經濟上未曾有の繁榮をなすに至つた。即
 ちこれを貿易上より見るも、

戰時貿易の高

年次	輸出	輸入	出超
一九一四	二、三六四	一、八九三	四七一
一九一五	二、七六八	一、六七四	一、〇九四
一九一六	四、三三三	二、一九七	二、一三六
一九一七	六、二九〇	二、六五九	三、六三一
一九一八	五、九一九	二、九四五	二、九七四
一九一九	七、七四九	三、九〇四	三、八四五
一九二〇	八、一〇〇	五、二三〇	二、八七〇

となつて、大戰三年目頃より輸出は急激に増加し、その出超は二十億乃至三十八億弗に上り、大

債務國から債權國へ

戦時好景氣

反動不景氣

永遠の繁榮

工業の躍進

戦の始より一九二〇年までを累計すれば實に百七十億弗の輸出超過である。そのため戦前には歐洲諸國より五十億弗乃至六十億弗の負債を有せしものが、これを支拂つてなほ百億弗以上の賣上代金としての貸付あり、更に民間よりも聯合國の國公債に應じて百億弗以上を貸付けたといはれてゐる。從來の債務國が一躍して莫大なる債權國となつたのである。かくて輸出激増は廣大なるアメリカ農業(小麥・棉)を躍進せしめ、また工業界(採礦・採油・製鐵・機械・自動車その他)に未曾有の活況を現出せしめて、遂には世界第一の産業國とまで謂はるるに至つたのである。

經濟界の變動 しかしながらかかる好景氣は一九二一年に至つて一時頓挫した。それは戦後に於ける歐洲諸國の疲弊窮乏が著しく購買力を減殺して、アメリカ商品を買ふ餘力なき有様となりたるがためであり、そのため輸出は減少し、物價は下落し、農工業は不振状態に入り、勞働賃金は低下し、失業者が増加し、企業家の中にも破産するものが續出する有様であつた。けれどもこれは戦時好景氣の反動として現はれたるもので、アメリカ經濟の根本的衰頹より來るものではなかつたから、政府は企業間の合同、産業の合理化を断行して需給の調整、經濟統制を行ふことにより再び景氣の回復を見、一九二二年より一九二九年まで空前の好況時代を出現せしめ、彼等をして「永遠の繁榮」(Eternal Prosperity)を謳歌せしむるに至つた。

従つて産業界に於ても一九二八年には製鐵業中の鉄鐵が世界産額の四割四分(世界總産額は八千六百萬噸)、鋼鐵

貿易の増進

世界金融の中心

反動不景氣

は五割(世界總産額は一億七百萬噸)を占め、石炭・石油・アルミニウム・銅・亜鉛等も世界産額の四割乃至七割を占めて、何れも世界第一または第二位にあり、紡績業もイギリスに肉迫して獨佛を凌駕し、自動車工業に至つては世界産額の八割五分(アメリカ一年の産額)を占むるに至つた。その他小麥・玉蜀黍・棉花の輸出もまた莫大なる額に上つた。かくして一九二二年より二九年に至つても毎年平均七億弗以上の出超ありて、累計五十七億弗に達し、年々巨額の金貨がアメリカに流入して、一九二九年には金の保有量は七十八億二千萬弗といはれ、世界總金保有量の四〇パーセントを占めた。のみならず對外債權は戦債百六億弗、民間所有の戦債百六十億弗、その他の個人投資を併せて三百億弗に達し、年々の利子のみにも十億弗以上を得たといはれてゐる。従つてこれまで世界金融の中心はロンドンのロンバルド街(Lombard Street) イングリランド銀行・取引所等のあるところ にありといはれたものが、今後はニューヨークのウォール街(Wall Street)に移つたといはれ、世界經濟の支配權は完全にアメリカが掌握するこ

となつた。誠に未曾有の繁榮であるといつてよい。しかし一九二九年の後半期より國內に於ける好景氣の反動、投機熱の旺盛、取引所の破綻及び國外に於ける歐洲の不景氣と購買力の減少、戦債支拂の緩慢、賠償金の未拂等により再び不景氣が襲來して、貿易の不振、物價の低落、産業の不振、失業者の續出、正貨の流出となり、フーヴァー大統領の努力にも拘らずこれを防止する能はず、遂に失業者千五百萬人(全勞働者の三分の一強)を數へ、重大なる社

新經濟政策

會問題を起すに至つた。されば新大統領ルーズヴェルトは就任以來新經濟政策 (New Deal) を樹立せんとして、多くの有識有能の士を集めて、所謂企畫幕僚 (Brain Trust) により國家經濟の建直しを行ひ、(一) 銀行法・金融法等を發布して金融統制を行ひ、(二) 失業救済のため植林・道路・發電所・工場その他の公共事業を起し、(三) 産業復興法 (National Industrial Recovery Act. または N. I. R. A. と略稱せられ、大統領の根本的經濟政策の一である) を設けて (A) 一般社會の利益・幸福を目的として生産を統制し、産業機構を協動的に再組織すること、(B) 商業貿易の障害除去、(C) 不正競争を除くこと、(D) 勞資を協調し失業者を減少せしめ、勞働能率を高むること、(E) 産業能力を最高度に高め、天然資源の開発を行ふこと、(F) 賃金を増加して購買力を旺盛ならしむること等があつて、これは徐々にその効果を現はすに至つた。次には

(四) 農業調整法 (Agricultural Adjustment Act. 略して A. A. A. とする) を設けて農産品價格の下落を防ぎ、工業製品との不均衡を是正するため農産制限・農村融資等を行つた。その他には租税關稅證券等に關してもこれを國家的見地より制限または増加せしめんとした。かくしてルーズヴェルトの新經濟政策は國家及び公共の福利を基礎として個人的・自由主義的なる産業を統制せんとするものであり、そこにはアメリカの憲法に多少の抵觸を見るところもあつたが、しかし一般に産業經濟界は再び活況を呈して大戰直後の經濟的優越を維持することが出來た。かくてこれらの經濟的優越は直ちにアメリカ外交の優越を意味することとなつて、國際場裡に指導的地位を確保するに至つた。

農業調整法

新經濟政策の成功と外交

對歐政策

賠償問題

軍縮問題

對兩米政策

外交上の優越 アメリカの外交政策は、對歐・對米・對極東の三方面に分るが、大戰後はその何れに於ても大成功を收むるに至つた。先づ對歐政策については、一般に傳統を守つて不干渉主義をとり、従つて國際聯盟に對してもモンロー主義を奉じてこれに参加することを拒んだのであるけれども、賠償問題・軍縮問題等に關しては最も密接な關係にあるため常に主役をつとめた。即ちドイツよりの賠償金は英・佛・伊諸國が戰後回復のため最も必要とせるところのものであり、而も賠償金の不足・不拂等は英・佛・伊等の對米戰債(一九二〇年アメリカに對して英は四十二億、佛は三十一億、伊は六億七千萬弗の戰債を負つてゐたといはれてゐる) 支拂に支障を來さしむるものなるが故に、アメリカもまたこれに重大關心をもつこととなり、かくして米人ドーズ、ヤング等の賠償案が支配的地位をもつに至つたのである。軍縮問題に就いては、アメリカの世界的な經濟網とその權益とを保護する必要上、自國の海軍力を世界第一とし、他國の海軍を劣勢ならしめんとすることより提唱されたものであり、第一回は大統領ハーチングが主宰し、第二回は大統領クローリッチが提議し、第三回は大統領フーヴァーと英首相マクドナルドが合議して成立せしめたものである。即ち軍縮會議はアメリカにとつては却つて軍擴を意味するもので、これによりアメリカのもつ經濟的威力が遂に世界の外交場裡に指導的地位を與へたものといつてよい。

對米政策とは南北兩アメリカ大陸諸國に對するアメリカ合衆國の外交政策である。アメリカ合衆國はこれらの諸國に對して表面上親善和親を唱へながら、内實に於てはこれらを自己の勢力下に統

對米外交の眞意と必要

率領せんとする野心を抱いてゐる。即ち何處までもその主權と領土とを認めながら、**經濟的・文化的・政治的**にはこれを支配せんとする政策をとつてゐるのである。元來南アメリカ諸國はナポレオン没落以來イギリスの商權が盛に活躍せるところであり、大戰前にはドイツが盛に伸展して競争の激甚なところであつた。然るに大戰中より英獨の勢力は及ばず、これに代つてアメリカ合衆國が盛に進出し、各地の石油・鑛山及び鐵道・港灣に莫大なる投資(一九三三年にはアメリカ合衆國の投資額約五十億弗といはる)をなしてその重要資源を輸入すると共に莫大なる工業製品を輸出するに至つた(輸出貿易はアメリカ合衆國總輸出額の二割を占めたといはる)。従つて南アメリカ諸國はアメリカ合衆國にとつて極めて重要な存在となつてきたのである。

一般に南北アメリカ諸國が歐洲列強よりの干渉を拒否せんとする思想は、既にモンロー主義にも現はれて、アメリカ合衆國の國是となつてゐるのであるが、更に十九世紀の後半より汎アメリカ主義(Pan-Americanism)が現はれ、全アメリカ大陸諸國(カナダを除いてアメリカ合衆國以下二十一箇國)間に精神的・政治的・經濟的關係を密接にし、且つ相互に主權を犯すことなく共同に幸福を計らんとし、そのために一八八一年にはアメリカ國務卿ブレイン (James Blaine) が(一)汎米會議、(二)汎アメリカ諸國の協同、(三)アメリカ合衆國と各國との協同を提唱してこれを具體化せんとした。かくて一八八九年にはワシントンに第一回汎米會議を開き、國際法・衛生・關稅・通信・交通等に關して協議し、中央機關として汎米局 (Pan-American Bureau) を置き、列國の大公使がその役員となつて活動することとなつた。

汎米主義

汎米會議

アメリカの積極的進出

保護化

善隣政策

リマ宣言

かくて第二回は一九〇一年メキシコに、第三回は一九〇六年リオデジャネイロに、第四回は一九一〇年ブエノスアイレスに、第五回は一九一五年ワシントンに開かれた。しかしながら會議を重ねるに従つて大統領ルーズヴェルト・ウィルソン等により次第に**アメリカ合衆國の優越と他國の保護化をなさんとする傾向**著しく、例へば一九〇一年のキューバ憲法修正と米玖條約は、キューバに關するアメリカ合衆國の支配權を増し、一九〇三年に於けるパナマの獨立と米巴條約は事實上の保護國條約であり、更に一九一三年にはメキシコを助けてこれを保護し、ニカラグッ運河開鑿權を得てこの地帯を保護國の如くし、一九一五年にはハイチ保護條約を結び、かくして現實にアメリカ合衆國が中米を支配し更に南米にまでも伸展せんとしてゐる。而して大戰中及び大戰後に於ける貿易と投資の大進出は再び露骨にアメリカ合衆國の經濟的進出をなさしむるものとなり、汎米會議は益々重要な意義をもつこととなつた。かくて一九三三年大統領ルーズヴェルトが、所謂「善隣政策」を提唱して南米諸國間の紛争解決に乗り出さんとし、更に「米大陸諸國間平和維持會議」を開き、また一九三八年にはリマに第八回汎米會議を開き、「米大陸共同防衛案」を可決して「或る一國の平和・安全・領土が脅かされる場合は、他國も協同して連帶性を有効化する決意あること」を宣言(リマ宣言といふ)するに至つた。のみならず更に各國の内外政治不干渉、國際紛争の平和的解決、武力交渉の否定、國際法の遵守、各國間の文化交流・經濟的提携・國際的協力等を約するに至つた。かくして汎米會議は未だその

現實に於て必ずしも各國がアメリカ合衆國に追従するものではないけれども、**アメリカ合衆國の經濟的進出と軍備強化と帝國主義的傾向と**が會議を重ねるに従つて何等かの形をとつて現はるるは必然の勢といふを得べく、この意味に於て今後の汎米會議は大いに注目すべきものである。

對極東政策

太平洋及び東洋(特に支那)に對する外交政策は、**武力的制覇と經濟的侵略と**を兼ねたものである。大

日本制壓と支那保全

戰中東洋に於ては日本が著しく經濟的に進出し、また武力的に強化されて來た。従つて戰後のアメリカが計畫せる極東政策は、**日本制壓と支那保全**であつたことはいふまでもない。かくて大統領ハーチングは軍縮會議を開いて日本海軍の發展を阻止し、**四國協約**に於て太平洋の領土保全と不侵略及び日英同盟破棄をなさしめ、**九國條約**に於て支那の領土保全と門戶開放機會均等を確保せしむるに至つた。かくして太平洋に於ける海岸線の防備と、領土の保全に關して必要な海軍力を保有するのみならず、更に東洋の平和を維持すると稱して日本を掣肘し、能ふだけの優勢なる海軍力を建設せんとし、而も支那に於ける列國の勢力を排除して自國の文化的經濟的進出を計らんとせることは傳統政策に現はれたるが如くであり、かくて大戦後の經濟的充實と外交的優勢を以て太平洋及び極東政策をも着々成功せしむるに至りつつあるのである。

支那進出

アメリカの海軍力 かくてアメリカはワシントン會議に於て**主力艦(三萬五千噸)一五隻五二五〇〇噸、航空母艦一三五、〇〇〇噸、ロンドン會議に於て甲級巡洋艦一八〇、〇〇〇噸、乙級巡洋艦**

海軍の現勢力

一四三、五〇〇噸を保有することとなり、その後膨大なる海軍豫算を提出して銳意建艦に着手し、一九三五年五月現在にても建造中の艦艇は六十一隻二十萬噸に及び、更にヴィンソン案によつて大建造計畫を實施してゐる。かくしてアメリカはこの強大なる海軍力をもつて南北兩アメリカ大陸の制覇を企つると共に太平洋及び極東に於ても優勢を誇り、この海軍力を背景として政治的・經濟的・文化的侵略を企圖してゐるのである。蓋しアメリカは中米・南米・太平洋及び極東に對して永遠の脅威を續けんとしてゐるのである。

海軍と外交

經濟的危機の打開

外交體制

新秩序の出現

結語 世界大戦に参加せる諸國は日米を除いて何れも深刻なる經濟的打撃を被り、特にロシアと戰敗國には政治上・社會上・思想上の大變化も加はつたが、各國とも舉國一致して苦心經營の結果漸くその難局を打開することが出來た。尤も日米兩國の經濟界も世界的不況のために悩まされたが、漸くこれを突破し得たのである。その間外交界にあつては國際聯盟を樞軸として英佛兩國が支配的位置に立ち、アメリカがその經濟力を基礎として所謂「**弗外交(Dollar Diplomacy)**」により指導的地位に立ち、かかる形勢は一九三二三年頃まで續いたのである。然るにこの頃から世界の大勢は再び變調を來し始めた。それは國際聯盟の破綻や日獨伊防共協定の成立を契機として、**世界の新秩序が形成せられんとするに至つたことである。**

第六章 世界の現情(上)

國際聯盟の破綻

【教授要項】 世界大戦後成立せるヴェルサイユ條約と國際聯盟には不合理なる點、不備なる點が多々含まれてゐたために次第に破綻を來し、特に日本ドイツ等が脱退するに至つてその實質的な價値は薄らぎ、世界の平和を保障する機能を喪失してしまつた。かくて國際聯盟により國際的紛争の解決を期待し得ざる各國は、自衛手段の必要に迫られたると共に、軍縮會議の失敗等にも刺戟せられて、盛に海陸空軍備の擴大強化に努むるに至つた。

日獨伊樞軸の活躍

この間先づドイツは非常なる勢を以て勃興し、ヒットラーを中心として國粹運動を起し、ヴェルサイユ條約を破棄して軍備の擴張、失地の回復、植民地返還要求を唱へ、着々これを實行に移さんとし、更にロシアの赤化宣傳を防止するために日獨伊間に防共協定を結び、而も三國の國家主義的傾向が一致してその提携は益、固く、何れも經濟的・民族的・政治的見地より國運の隆昌を計らんとし、日本は東洋永遠の平和を確立せんための新東亞建設に従事し、ドイツはオーストリア・ボヘミア・モラヴィヤ等を併せて更に發展せんとし、イタリアはエチオピア・アルバニアを併せて何れも意氣昇天の勢である。これに對してロシア・イギリス・フランス・アメリカ合衆國等は必ずしも完全なる一致を見てゐるのではないけれども、苦心して協同陣營を張り、全體主義國家の發展を

舊陣營の對抗

世界的變局

阻止せんとしてゐる。かくして今や世界の外交舞臺は東西兩洋に互つて密接な關聯をもち、極めて機微な動きを見せてゐる。歐洲の一角に起る破綻が東洋に及び、東洋の衝突が世界を動かして戦亂を捲き起すことなきを保し難い。これらは吾人の大いに注目を要するところである。

政府刊行物

【参考書目】 今日の歴史に就いて参考書を得ることは極めて困難である。事件後直ちに出版されたものには所謂「際物」多く信をおくに足らぬものがあり、従つて各國政府の出版物・外交雜誌・年鑑類・新聞等によらなければならぬ。各國政府の出版物(特に外交關係のもの)には、イギリスに British and Foreign State Papers; compiled by the Librarian and Keeper of the Papers, Foreign Office. フランスに Ministère des affaires étrangères, Documents diplomatiques. Archives diplomatiques; Recueil mensuel international de diplomatie d'histoire. が、ドイツに Das Staatsarchiv: Sammlung der officiellen Aktenstücke zur Geschichte der Gegenwart. アメリカに Treaties, Conventions, International Acts, Protocols, and Agreements between the United States of America and other Powers. 日本には官報・條約集・國際事情・國際月報等がある。現代を論ずる外交雜誌としては Foreign Affairs, A Journal of International Understanding, London. L'Europe nouvelle, Revue hebdomadaire des questions extérieures, économiques, et littéraires, Paris. Berliner

外交雜誌

年鑑類

Monatshäfte, Berlin. Europäische Gespräche, Hamburger Monatshäfte für auswärtige Politik, Hamburg. Archiv für Politik und Geschichte, Berlin. Current History, New York. 並び得べく、このらに回むる主として時事問題を多く取扱つてゐるものがある。次に年鑑類には、イギリスの Annual Register: A Review of Public Events at Home and Abroad, London. Statesman's Year Book; Statistical and Historical Annual of the States of the World, London. Europe: An Annual Survey of Economic and Social Conditions, a Dictionary of the League of Nations and of International Societies, A European who's who in Politics, Trades, Sciences, Arts and Litterature, London. フランスの Annuaire général, Paris. La vie politique dans les deux mondes, Paris. Larousse Mensuel, Paris. ヴェーレンツの Schulthess, Europäischer Geschichtskalender, München. Jellineck, Jahrbuch des Öffentlichen Rechts der Gegenwart, Tübingen. Gothäischer Genealogischer Hofkalender nebst Diplomatischstatistischen Jahrbuch, Gotha. Gothäisches Jahrbuch für Diplomatie, Verwaltung und Wirtschaft, Gotha. 並び得る。新聞としては、イギリスの London Times, Daily Telegraph, News Chronicle, Daily Herald, Manchester Guardian, Sunday Times. フランスの Temps, Journal, Matin,

新聞紙

現代史料取扱
について

Echo de Paris, Exercior, Action française, Figaro, Humanité. ヴェーレンツの Volkischer Beobachter, Deutsche Allgemeine Zeitung, Berliner Börsen Zeitung, Angriff. 蘇聯に Izvestia, Pravda. イタリアの Giornale d'Italia, Popolo d'Italia, Tribuna. アメリカには New York Times, New York Sun, Herald Tribune, Daily News 等の有力紙がある。しかし現代の時事問題を取扱ふについて特に新聞雑誌は甚だしくその所屬する政黨・編輯者の思想・國家的見地等により、その評論は勿論記事内容の取扱に於ても著しき差異ある場合多く、年鑑類もその統計等に於てさへ英・獨・佛米にて相違あるを通例とし、外交公文書を除いては各國政府より發表するものにもまた國家的見地よりなされること殆ど例外なきことといつてよい。従つて時事問題を各國史料によつて研究せんとする場合に於ては特に慎重なる注意を必要とするのである。

■ 國際機構の破綻

國際聯盟の破綻 一九三〇年代に於ける世界史上の最も顯著なる現象は、舊國際機構の破綻と新勢力の擡頭である。即ち世界大戰後に構成せられたる國際聯盟の破綻と、軍縮會議の失敗及び日・獨・伊の眼覚ましき躍進である。

國際聯盟は世界大戰に於ける戰勝國の作つた現状維持機關であり、そのための國際紛争調停機關である。従つてこれが戰勝國の權益を保護しその國際的優位を確保して戰敗國を壓迫するものであ

國際聯盟の破
綻と新勢力の
擡頭
國際聯盟の偏
頗

英・佛に有利
で日・獨・伊に
不利

不合理の存在

ることはいふまでもない。のみならず聯盟が保證するヴェルサイユ條約、または聯盟が背景となつて締結せるロカルノ條約・ローザンヌ條約、及び聯盟理事會・聯盟總會に提起さるべき國際紛争は何れも彼等に都合よき決定であつた。かくして聯盟とは英佛二國を中心としてその優勢を保つべき國際的現狀を維持せんとするものであり、従つてそれが戰敗國たるドイツ、閑却されたイタリア、その發展を阻止されたる日本等にとつては極めて不利なものであつたのである。殊に國際聯盟の諸國が戰敗國に對して大戰の全責任を負はせ、未嘗有の負擔と忍ぶべからざる屈辱を被らせ、または正當なる現實を直視せずして自國の權益を擁護し、他國の正義を蹂躪せんとすること等に至つては實に言語同斷といふべきである。これを要するに聯盟とは大國の自國中心主義と小國の強國依存主義が結合して成立されたものといふべく、それは國際上極めて不合理なる存在であり、茲に聯盟がやがて破綻しゆく根本原因があつたといつてよい。

日・獨・伊の脱
退

かくて後にも述ぶる如く、一九三三年には滿洲事變を契機として日本の脱退宣言あり、ヴェルサイユ條約の不合理と破棄を叫んでドイツが脱退し、更にエチオピア問題を繞つてイタリアが脱退して國際聯盟はその實質的價値を失ひ、また國際的紛争の調停をなす能力もなく、世界の平和を保障すべき何等の機能をも發揮し得ざることとなり、現今はたゞ情勢を以て殘存してゐるのみである。ついで軍縮會議が失敗に終つた。大戰後各國の疲弊せる時にあたり相互に軍備を縮小して國民の

軍縮會議の眞
意

日本の軍縮條
約廢棄

負擔を輕からしめ、且つ危険なる競争を回避せんとすることは、世界平和の見地より見て極めて適當なことではあつたが、その眞意がアメリカの如く自國の世界制覇を目的として世界最大の海軍力を保有せんとし、且つ英米協力して日本の強大を制壓し、以て太平洋と極東及び支那に自國の勢力を伸展せんとする野心を包藏するものである場合、それは斷じて許すべからざることである。歐洲に於ても既に伊佛二國は北海及び地中海に於けるイギリスの野心を觀破して、第二回軍縮會議以後は多分の難色を見せた。我が日本が一九三五年を期して敢然これを廢棄するに至つたことも誠に當然なことといつてよい。かくて不合理なる軍縮條約も殆ど無効に終り、各國に於ては自國の必要と能力と見解に基づいて軍備の完成に力を注ぐといふ合理的時代に入つた。

新勢力の擡頭

かくして戰勝國を本位とする舊國際機構は二つ共に破綻してしまつた。茲から新らしき世界の秩序と新國際機構とが建設されんとしてゐる。その中心勢力となるものが日・獨・伊三國であり、東京・ベルリン・ローマ樞軸である。この三國の擡頭によつて世界の舊秩序が破壊され、潑刺たる新秩序が建設さるることとなつたのである。

新勢力の擡頭

[A] 日本の躍進

大戰後の日本 世界大戰後に於ける日本の躍進は正に世界の驚異であつた。日本は青島を陥れ、

貿易の躍進

シベリヤに出兵し、地中海・太平洋に於て敵艦を掃蕩し、以て多大の犠牲を拂ひ、また聯合國には多くの兵器・彈藥その他の軍需品及び日常工業製品を輸出してこれを援助した。その結果貿易額に於て大戦の前年一九一三年(大正二年)に於て總額僅かに十三億圓に過ぎざりしものが、大戦終了の年一九一八年には三十七億圓に激増し、而も在來の入超が逆轉して毎年約八千萬圓乃至五億圓の輸出超過となり、この四箇年間に輸出總額十四億圓といふ莫大なる正貨が我が國に流入することとなつた。かくて一九一九・二〇年には貿易總額が更に高騰して四十五億圓に上り、一九二一年には激減して三十億圓となつたが、一九二四・二五年には再び高騰して四十五億圓・五十億圓に達してゐる。これは大戦前に比し約三倍乃至四倍の増加である。然るに一九一九年以後に於ては毎年約一億乃至五億圓の入超を續けたのであるから、大戦中の如き好況といふことは出來ないが、かくの如き貿易の躍進が我が經濟界の發達に貢獻せることは極めて顯著なるものであつた。例へば事業計畫資本金は一九一三年の二億五千萬圓に比して一九一八年には二十七億圓、一九二〇年には五十一億圓に達し、翌年は二十二億圓となり、更にその翌年は十五億圓となつてをり、動力を用ふる工場數についても大戦前僅かに一萬(職工數八十五萬)を超えざりしものが、大戦後の一九一八年には二萬八千(職工數百五十萬)となり、最も好景氣時代を現出せし一九二〇年には、七萬一千の工場と、百七十萬の職工とを見るに至つた。従つてこの間に於ける我が國の製絲業・紡績業・綿織業・鑛山業・造船業等の發達は蓋し劃期的なものであつたといつてよい。

企業の旺盛

また世界大戦後、我が國は國際的地位の向上と相俟つて、國防力を充實せしめた。即ち我が國は大戦中に於ける赫々たる武勳と共に經濟力が充實してパリ講和會議に於て五大強國の一となり、極東に於ては確乎不動の地位を樹立した。而してアメリカが太平洋及び極東に對する通商擁護のため大海軍建造を計畫せるに對して、我が國は八八艦隊の建造計畫を立て、長門・陸奥等の優秀なる主力艦を建造することとした。これは經濟上好況の頂點にありし一九二〇年のことで、自衛上止むを得ざるに出でしものといつてよい。

國際的地位の向上

列國の壓迫 かかる日本の驚異的躍進に對して列國は著しく脅威を感じ、我が帝國の發展を阻止せんとするに至つた。即ち經濟上の躍進は支那及び太平洋に於て多年扶植し來りし英米の經濟的勢力を壓倒するものなりと考へ、國防の充實は以て支那の主權を脅威し太平洋に於ける列國の領土植民地に危懼の念を與ふるものであると考へた。特にイギリスは支那の利權と濠洲・印度の經濟的・領土的安全を計らんがため、またアメリカは我が軍備を打倒して太平洋及び極東を制覇し以て領土的・經濟的・文化的進出を計らんがため切りに日本抑壓を計畫するに至つたのである。そのための具體案が前後三回に亘る海軍軍縮會議であり、四國協約・九國條約であつたことはいふまでもない。

日本の躍進と列國の脅威

軍縮會議の結果は日本にとつて極めて不満足なものであつた。その主力艦比率に於て、日本は彼

軍縮會議の不合理

等の七割を保有するにあらざれば到底國防を完全ならしむる能はざるに拘はらず、これを讓歩して六割とした。補助艦比率に於て、潛水艦は七萬八千噸を絶対に必要とするものなるに、これを五萬二千噸に減少せしめられた。而もアメリカの現有勢力は遙かに低下せるものなるを新たに建造することを許可し、我が國は現有勢力を有しながらそれを廢棄してアメリカの優越を傍觀することとなつた。従つて國內に於ても不滿の聲高く、物議騒然たるものがあつた。而も軍縮會議は我が海軍力を抑壓して英米海軍の優越を計らんとするものであることが漸次明瞭となるに従ひ、その比率主義を排して平等主義をとらんとする聲が次第に高くなつた。かくして我が帝國は公式・非公式に、(一)英・米三國は從來の比率主義を排して平等主義をとること、(二)互に侵さず脅かさざるため不脅威・不侵略の原則を確立し、國防の安全と世界の平和を維持すること、(三)海軍力の量的及び質的縮減を計ること、即ち從來の艦種別制限法を撤廢して各國共通の保有兵力最大限度を定め、その範圍に於て自由に建艦を許容し、また攻撃的兵器としての航空母艦・戰闘艦・巡洋戰艦等を全廢または縮減し、防禦的兵器としての潛水艦その他を整備することを主張した。これは誠に公明正大なる主張といふを得べく、名を世界平和に借りて自國の優勢を持し、他を征服しながら自己中心の平和を求めんとする英・米の主張とは雲泥の相違あるものといつてよい。いふまでもなく國家の獨立權は絶対のものであり、これを防禦するはその國家當然の權利であり、従つてそれはその國の自由に委せ、而も他

公明正大なる論據

日本の主張

軍縮條約廢棄通告

國の不脅威・不侵略を確實ならしむるためには各國平等の軍備あることを絶対必要とするのであるから、英・米の如き比率主義は國際正義にも反するものといはなければならぬ。しかしながら彼等の迷妄我執は堂々たる我が正論を容るるの雅量をもたない。従つて一九三四年の豫備會談に於て我が代表が均等要求をなしたるに對し、アメリカ代表がこれを拒否したるため、遂に交渉は決裂し、同年十二月廿九日附を以て帝國政府はワシントン海軍軍備制限條約廢棄を通告し、一九三六年十二月三十日以後は效力を有せざるものとした。かくして當時の外務當局談にもある如く、帝國國防の安全を期し難く、また國民の自尊心を傷けて永遠に國民に對し満足を與へざる劣等比率條約は廢棄され、同時に世界各國に對し我等の理想とする國防力を充實し得ることとなつた。このために不合理なる軍縮會議の一角は崩れ、各國もまた自國の見解と能力とに従つて軍備を整ふることとなつた。我が帝國の處置が世界に及ぼした影響はまた大であるといつてよい。

日本の躍進

一九三〇年後の躍進 一九三〇年代に於ても日本の躍進は目覺ましく、大いに列國を脅威せしめた。即ち經濟上に於ては、世界的不景氣が襲來したにも拘はらず、我が貿易は益々伸展して英・蘭等を脅威し、國際上に於ては滿洲國の獨立承認を契機として聯盟を脱退し、遂に舊國際機構破綻への第一彈を放つたのである。

先づ經濟上に於て、一九二九年世界的恐慌がアメリカの株式暴落を契機として始まり歐洲諸國の

貿易の増進

疲弊深刻化と相俟つて各國とも貿易總額に著しき減少を來すこととなつたが、これに反して我が輸出額は逐年増加し、一九三一年(昭和六年)以來は次表の如く、

年次	輸出入貿易額		總額
	輸出	輸入	
一九三一(昭和六年)	一、二四七	一、二三六	二、三八三
一九三二(昭和七年)	一、四一〇	一、四三一	二、八四一
一九三三(昭和八年)	一、八六一	一、九一七	三、七七八
一九三四(昭和九年)	二、一七二	二、二八三	四、四五五
一九三五(昭和十年)	二、六〇三	二、六一八	五、二二一
一九三六(昭和十一年)	二、七九八	二、九二八	五、七二六
一九三七(昭和十二年)	三、三一九	三、九五五	七、二七四

増進の理由

その總額に於て、一九三一年の底値より一九三七年には約三倍強の躍進を示すに至つた。その原因としては圓貨の爲替相場安(對米爲替相場は圓貨一〇〇圓につき昭和五年四九・三六七弗なりしものが昭和六年四八・和九年以後二九・五一一弗を維持す。對英爲替相場は一圓につき一志二片を堅持してゐる)により海外に於ては從來の四割方安價となれること、我が勞働賃銀が安價なること、また産業經營を合理化せることにより生産原價を低廉ならしめたこと等を

工業の發展

あげ得るが、この貿易額の異常なる増進によつて我が工業界は恰かも大戰直後の如き活況を呈するに至つた。かくして棉花・羊毛・鐵機械・原油・ゴム等の原料品を輸入して、綿織物・人絹・小麥粉・メリヤス・陶磁器・鐵製品・ガラス等を輸出し、純然たる工業國たるの態勢を備ふると共に、その輸出品は支那・印度・南洋は勿論遠くアフリカ・アラビヤ・トルコ及び歐洲諸國までも進出するに至つた。これは我が國の經濟の著しき發展を示すのみならず、日本文化の世界的進出として極めて意義深きことといつてよい。

日印日蘭會商

かくの如き輸出の激増は東洋に植民地を有する列國を脅威せしめた。先づ印度に於ては既に世界大戰後一九一八年の我が對印貿易は戰前に比して輸出額に六・八倍、輸入額に一・六倍の増加を見るに至つたが、更に一九三二年には印度への輸出一億九千二百萬圓、輸入一億一千六百萬圓となつて再び同比率を現出する活況を呈し、七千六百餘萬圓の出超を見るに至つた。特に綿業品に於ける日本の進出著しく、一九二九年にはイギリス輸出の四割五分を占め、更にこれを凌駕せんとする勢を示したので、ランカシャの綿工場主は盛に日本品排斥を企て、印度政府もまた國內綿業保護を名とし、オッタワ經濟協定後二回に亘つて關稅引上げを行つたが、なほ日本品を阻止する能はず、遂に日印通商條約廢棄を通告し來り、以て事實上日本綿絲・綿布の輸入禁止の高率關稅を課せんとするに至つた。かくて一九三二年日印政府代表がシムラに會して會談十數回の後、印度の

對印貿易の増進

イギリスの脅威と對策

日印會商

對蘭印貿易

高率關稅(七割五分)引下げ、日本よりの綿布輸入割當量及び棉花の輸出量を決定した。またオランダの生命線たる蘭領東印度に於ても、日本の經濟的進出に脅威せられた。即ち世界大戦中より本國との交通貿易が減退すると共に、日本との貿易が旺盛となり、オランダの對蘭印輸出が一九三二年には戦前の五割二分、輸入が九割五分に減少したるに比し、日本製品は廉價良質なるがために一九三三年度に於ける我が對蘭印輸出は戦前の三十一倍(一億五千七百萬圓)、輸入は二倍半(五千五百萬圓)となつて、約一億圓の出超を見るに至つた。我が國よりは綿布・人絹・絹・メリヤス・陶磁器を輸出し、砂糖・礦油・ゴム等を輸入するのである。従つてこの驚異的進出に對して、蘭印及びオランダ本國は數回に互る關稅の引上げ、輸入の制限・禁止を行つたが防止する能はず、かくて日蘭會商が行はれて關稅の引下げ、輸出入量の割當制等を議した。濠洲との間にもまた日濠會商が行はれたけれども、茲では省略する。かくして一九三〇年頃より一九三五年にかけて日本商品の進出は誠に眼覺ましく、これまで日本は武力のみに強しと印象づけられたるものが、經濟的にも異常なる力を藏して列國の壘を摩するものなることを認識せしめ、彼等に脅威を與ふるに至つたのである。これこそ眞に日本の飛躍的進出を意味するものであり、即ち我が國の武力・經濟・文化の提携的進出が世界的に發展したることを立證して餘りあるのである。

滿洲事變と聯盟脱退 ワシントン會議に於ける軍縮の強制と、四國協約及び九國條約の成立は、

日蘭會商

日本經濟力の發展

東洋の急迫と滿洲事變

世界に於ける我が帝國の國際的地位を窮迫せしめ、東洋に於ける國際關係を紛糾せしめた。のみならず國際的平和を念願としての我が協調外交に對し、支那は帝國を輕視するの態度に出で、遂には南京事件・濟南事件等を惹き起すに至つたのである。殊に我が國の生命線であり特殊權益を有する滿洲に於て、張作霖・張學良の侮日・排日行爲は日を逐うて甚だしくなり、我が權益を侵害し、居留民を殺傷する事件頻發し、遂には一九三一年滿洲事變が突發し、やがて滿洲國の獨立を見るに至つたのである。この滿洲事變は我が外交政策の重大なる轉回を示す契機であつた。協調妥協と軟弱外交とは結局帝國の地位を一つ一つに毀損し、東洋の平和を一步一步に危殆に瀕せしむるもの以外の何物でもないと意識した日本は、敢然立つて強硬外交政策に出で、帝國の實力をもつて世界に立ち、堂々たる正義と權利とを主張して積極的外交の立場に立つこととなつた。かくして滿洲國の正義を認め、その獨立を承認し、更に中支那に蠢動する排日・侮日の徒を排撃し、上海事變に於ては支那軍を掃蕩して停戰協定を結ばしめ、熱河を討伐して北支那に出で、以て膺懲の鐵槌を下した。

日本外交の重大轉換

國際聯盟の歪曲

この事變については國際聯盟に於て支那代表の提訴に基づき調査委員を派遣することとなり、リットン (Litton) 以下の現地視察となつたが、その結果は支那側の歪曲と辯護に迷はされて我が正當なる事實を認識せず、これを受容せる聯盟理事會もまた我が代表全權の誤認訂正に耳を傾けず、我が國の態度が不戰條約にも九國條約にも違背せず全く自衛權の發動であるにも拘はらず、遂に聯盟

帝國の聯盟脫退通告

總會に於て滿洲政權を認めず、且つ日本軍撤退の勸告を議題とするに至つた。我が代表は敢然としてこれに反對したが、四十二票對一票を以て可決せられた。即ちこれは聯盟各國が極東の現實態を認識せず、徒らに支那の策動・逆宣傳に迷はされて、帝國の正義と權益と東洋平和の念とを否定したるがために起りたるものであり、従つて日本はかかる偏見を抱くもの等と事を俱にする能はず、また帝國の生存權を確保し眞の東洋平和を確立せんとする見地よりして、これを拒否せざるを得ないのである。聯盟は多數を擁して一國の正義と權益と生存權とを蹂躪せるものである。従つて一九三三年三月我が帝國は正式に聯盟脫退を通告した。その通告文には最初に帝國が過去十三年間に互り東洋の平和を確保し、世界平和に貢獻せんがため協力し來りたるを述べて後、

帝國の宣言

然るに過去十七箇月間聯盟に於ける審議の經過に徴するに、多數聯盟國は東洋に於ける現實の事態を把握せざるかまたはこれに直面して正當なる考慮を拂はざるのみならず、聯盟規約その他の諸條約及び國際法の諸原則の適用殊にその解釋につき帝國とこれら聯盟國との間に屢、重大なる意見の相違あること明らかとなれり。その結果本年二月二十四日臨時總會の採擇せる報告書は、帝國が東洋の平和を確保せんとする外何等意圖なきの精神を顧みざると同時に、事實の認定及びこれに基づく論斷に於て甚だしき誤謬に陥り、就中九月十八日事件當時及びその後における日本軍の行動を以て自衛權の發動に非すと憶斷し、また同事件前の緊張状態及び事件後に於ける事態

の悪化が支那側の全責任に屬するを看過し、爲に東洋の政局に新なる紛糾の因を作れる一方滿洲國成立の真相を無視し、且つ同國を承認せる帝國の立場を否認し、東洋に於ける事態安定の基礎を破壊せんとするものなり。殊にその勸告中に掲げられたる條件が東洋の康寧確保に何等貢獻し得ざるは本年二月二十五日帝國政府陳述書に詳述せる所なり。

これを要するに多數聯盟國は日支事件の處理に當り、現實に平和を確保するよりは適用不能なる方式の尊重を以て一層重要なりとし、また將來に於ける紛争の禍根を免除するよりは架空的な理論の擁護を以て一段貴重なりとせるものと見るの外なく、他面これら聯盟國と帝國との間に規約その他の條約の解釋に付重大なる意見の相違あること前記の如くなるを以て、茲に帝國政府は平和維持の方策殊に東洋平和確立の根本方針に付聯盟と全然その所信を異にすることを確認せり。仍つて帝國政府はこの聯盟と協力するの餘地なきを信じ、聯盟規約第一條第三項に基づき帝國が國際聯盟より脱退することを通告するものなり。

これは帝國政府が堂々その所信を披瀝して世界の外交界に立ち獨往自主の立場より皇國の隆昌と帝國の生存權を確保しつつ更に進んで東洋の平和を雙肩に擔ひ、世界人類への福祉に貢獻せんとしたものであり、その翌年のワシントン軍縮條約廢棄通告と相並んで我が外交の一大轉換と見るを得べく、誠に颯爽として威風四隣を壓するの概がある。かくて日本の投じたる一石はやがて聯盟崩壊

帝國外交の威風

日本の世界的指導

の第一聲となり、續いてドイツ・イタリアが脱退し、而も日本が東洋に於て新秩序を建設せんとする運動は、ドイツ・イタリアの新國際機構建設運動と呼應して茲に新世界への發足が企圖せらるることとなつたのである。日本が眞先に舊秩序を破壊し、新秩序を建設せんとする運動に着手したことは、今後の世界的發展に偉大なる足跡を印したるもので、これは我等國民の心に深く銘記しなければならぬところである。

〔B〕ドイツの勃興

ナチスの出現 大戰後の屈辱と困窮と絶望のどん底にあつたドイツは、一九三四年ヒットラーを指導者 (Führer) とする第三國家 (Dritte Reich) の出現によつて、始めて前途に輝く光明を望み、潑刺たる英氣を取り戻して再び國際場裡に大活躍を試みることとなつた。これは殆ど指導者ヒットラーに俟つところのものである。

新國家の出現

ヒットラー

ヒットラー (Adolf Hitler, 1889—) はバイエルンに近きオーストリアのブラウナウ (Braunau) に生れたが、世界大戰にはドイツ軍に加はつて西部戦線に轉戦した。一九一八年ドイツ共和國が生れ、ヴェルサイユ條約が應諾せらるるや、祖國の悲境と危機に痛憤して一九二〇年ミュンヘンに於て同志と共に國粹社會ドイツ労働黨 (Nationalsozialistische Deutsche Arbeiterpartei. Nazis または略稱) を組織し、二十箇條の綱領を決定した。その中には、

國粹社會黨

綱領

一、我等は大ドイツ國 (Gross-Deutschland) 建設のため民族の自主權を基礎として (auf Grund des Selbstbestimmungsrechtes der Völker) すべてのドイツ國民が鞏固なる團結をなさんことを要求す。

一、我等は他の國家に對立してドイツ民族の平等權を要求し、ヴェルサイユ及びサン・セルマン條約の廢棄を要求す。

一、我等はドイツ民族の生存及び増加發展のために領土と植民地とを要求す。

一、ドイツ帝國臣民 (Staatsbürger) はドイツ國民 (Volksgenosse) たるものに限る。ドイツ國民とはドイツ民族の血 (deutschen Blut) を承けたるものにして宗教の如何を問はず。ユダヤ人はドイツ國民たるを得ず。

彼等の主張と要求

等が含まれてゐる。即ち現代の如き諸黨分裂闘争の國家、または共產黨の指令をうくる如き國家を解消して、ドイツ民族の自主權を基とする國家となし、敗戦の結果他國の統治下にあるドイツ民族 (チエッコスロヴァキヤ、フランス、ポーランド) を糾合して鞏固な團結の下に民族國家を建設し、屈辱的に國民を塗炭の苦しみに陥るるヴェルサイユ條約を廢棄して賠償金・兵備制限等を撤廢し、更に大戰によつて失はれたる領土・植民地の回復返還を要求し、ユダヤ民族を排斥して、純粹ドイツ民族精神に立脚する新國家を建設せんと主張するものである。これは苦悶と絶望に喘ぐドイツ國民にとつて再

生の光明を見出さしむるものとして大いに歓迎されるるところであつた。

かくて一九二三年には三萬の黨員を得てミュンヘンに一揆を起し、武力革命を企てたが失敗して彼はランスベルグ (Lansberg) の要塞牢獄に監禁せられた。その間に彼は「我が闘争」 (Mein Kampf) を著して彼の自叙傳 (Eine Abrechnung) と國粹社會黨運動 (Die Nationalsozialistische Bewegung) との二篇をかき、特に後篇に於てはナチスの世界觀・國家觀・國民觀及び政治

の根本精神とその形態・黨の機構等について詳述し、以て今後のナチス政治の經典となした。かく彼の入獄によりナチス運動は茲に一頓挫を來したが、一年後出獄してよりは再び勢力を盛り返し、殊に共和政府に對する國民の不滿と共產黨の暗躍による經濟社會的不安及び賠償金の痛苦と戰勝國に對する憤懣等は國粹社會黨に耳を傾くるもの多く、一九三〇年七月の總選舉には六四〇萬票一〇七名の代議士を議會に送つて第二黨となり、一九三二年の大統領選舉にはヒットラー自ら出馬して一九三六萬票のヒンデンブルグに對して、一三四〇萬票を獲得し、ついで七月の總選舉には議員二

第一黨となる

國民革命

かくて同年三月の總選舉に於ては二八八名の絶對多數を以て第一黨を保持し、愈、政局は安定してこれよりナチスの革新政治が行はるることとなつた。即ちヒットラーはこの總選舉に於ける壓倒的大勝利を國民革命なりと稱し、選舉後の議會開院式を一八七一年ヅールサイユに於けるドイツ帝國

新帝國の成立

立法・行政權を統合

地方制度の改革

獨裁政治成る

成立式にも比すべき歴史的な事實なりとして尊重し、最も莊重なる形式によりベルリン郊外にある歴史的都市ポツダム (Potsdam) にあけ、ヒンデンブルグ大統領の祝辭に對してヒットラーは國民の支持により新ドイツ國家の建設に邁進すべきことを約し、茲に所謂第三帝國の基礎が成立して愈、國家の大改造に着手することとなつた。

獨裁政治の確立 一九三三年三月二十三日(ポツダム開院式直後)ヒットラーは議會より立法に關する一切の權限を附與された。即ち議會に於ては「現内閣の存續中大統領の權限並びに議會及び參議院の制度に變改を加へざる限り、憲法を停止して一切の立法を爲し得る權限を政府に附與す」と決議した。茲に於てヒットラーとその内閣は行政上の長官たると共に、立法上にも殆ど全權を有するに至り、獨裁政治を決行し得ることとなつた。かくて地方制度に於ても、從來の如き地方分權的なる聯邦制度を打破し、各聯邦の議會には國粹社會黨を以て過半数を占めしめ、その議會をして立法權をあげて聯邦政府に委任せしめ、聯邦の行政長官は政府が任命して廣汎な權限を附與し、よく中央の命を奉ぜしめたので、ビスマルクも成し遂げ得なかつた中央集權もヒットラーによつて完成せられ、益、獨裁政治の徹底を期することとなつた。

かくて一九三四年八月ヒンデンブルグ大統領が永眠するや、ヒットラーは國家の元首たる地位に就いた。しかしながらナチス國家は所謂共和國ならざるが故に、彼は自らを大統領 (Reichspräsi-

指導者政治

票のうち八八・一パーセントの多数を以てこれを確認するに至つた。やがて十月には國務大臣は議會に對して責任を負はず、専ら指導者ヒットラーに對して責任を負ひ、忠誠を誓ふこととなつたので、既に立法権を失つた議會は全く有名無實の存在と化し、ヒットラーの獨裁制は愈々強化されるに至つた。かくてヒットラーが指導者(總統ともいふ)となつた時より正式に第三帝國 (Dritte Reich) が實現されたのである。第一帝國はオットー一世が開いた神聖ローマ帝國(九六二—一八〇六)、第二帝國はウィリアム一世によつて始められたドイツ帝國(一八七一至一九一八)であり、かくて一九三四年より純粹なるドイツ民族によつて建設せられたヒットラーの第三帝國が開かれたのである。

第三帝國の出現

中央政治機構

首脳部

第三帝國の中央政治機構は、總統ヒットラーの下に政治機關として内務・外務・大藏・國防・經濟・交通・労働・宣傳等の各省があり、特に異色ある新設の宣傳省には、國策の宣傳と輿論の指導及び言論統制のために、宣傳・ラヂオ・新聞・映畫・演劇・通俗教育等の各局を設けてゐる。かくて政府の首脳者には、空相にして黨及び軍部に信望があるグェッペルス (Joseph Goebbels)、文章に長じ言論をよグーリング (Hermann Göring)、親衛隊長兼警察長官シーラッハ (Baldur von Schirach)、親衛隊長兼警察長官ヒムラー (Heinrich Himmler)、親衛隊長兼警察長官ローゼンベルグ (Alfred Rosenberg)、親衛隊長兼警察長官リッペントロップ (Joachim von Ribbentrop) 等があり、各方面に活躍して

ナチス黨との關係

ある。この政治機關と不離不即の關係にあるものにナチス黨がある。これを政治的に言へば一つの政黨であり、この黨に屬するものが多数黨員の支持を得て議員となり、またこの政黨が政權を獲得して、所謂一國一黨の理想を實現し、黨の總理ヒットラー、副總理ヘスその他の重要地位にあるものが國家の政府に重職を占めて政治を行ひ、黨の主義・綱領及び精神を以て政治を行つてゐるのである。従つてナチス黨が政治を行ふといつても過言ではない。しかしながらイギリスなどの政黨とは異つて、一國一黨なるところに獨裁性があり、また突撃隊 (S.A.といはれ一九二〇年組織さる。ナチス黨のたは黨の警備にあたり死を以て黨に殉ぜんとするもの) 親衛隊 (S.S.といはれ、突撃隊より選ばれて黨の幹部を護衛し大會の秩序を維持する) 等の強力なる武力をもち、青年團・労働奉仕團等の所屬團體をもつところに大きな相違がある。毎年舉行さるるニュルンベルグ (Nürnberg) のナチス黨大會に於ては、黨幹部・官僚・外國使臣・親衛隊・突撃隊・國防軍各種團體の代表者等が六七十萬も參加して盛大に行はるるが、この時なされる黨首ヒットラーの演説は、國家の施政方針を發表するものとして全世界の視聽を集めてゐる。

黨大會

突撃隊・親衛隊

内政の改革 政治的革新についてナチスが改革せんとしたものは國粹的なるドイツ民族國家の建設であり、純粹なるドイツ民族精神の高調であつて、そのために共產黨ユダヤ人を徹底的に排撃し、民族精神の高揚と國家奉仕精神の涵養に主力を注いだ。

共產黨排撃

ナチスの共產黨排撃は既にミュンヘン時代から行はれてゐる。これはナチスのもつ國粹主義が、共

兩黨の抗争

産思想と相容れないためであることは勿論であるが、特に彼等のもつ自由主義・國際主義がドイツの統一を亂し國家觀念・民族精神を稀薄ならしめ、而もロシアの共産黨に操られてその指令をうけ、やがては國家を滅亡に導かんとするがためであつたといつてよい。彼等もまたナチスの擡頭は自黨の強敵なるが故に、これを妨害すること甚だしかつたが、ナチスは突撃隊を組織して防衛し、街上に於て血を見るの衝突を起すに至つた。しかしながら國民はナチスに傾いて黨勢は次第に擴張され、一九三二年の大統領選挙にはヒットラーが一三四〇萬票を獲得したるに反して、共産黨のテールマンは三〇〇萬票に蹴落さるるに至つた。かくてヒットラーが首相となつて一九三三年三月總選挙を行はんとするや、ドイツの大戦後に於ける衰亡と困窮は、一にマルクス主義の責任に歸すると宣言して共産黨を糾弾し、更に「共産黨の危険に對しドイツ人を防護する大統領令」を發布して彈壓を加へ、ついでまた總選挙後には峻烈なる共産黨狩を行つて、徹底的掃蕩を加へた。茲に於て殆ど國內の共産黨は一掃され、國粹主義一色となつて政治上思想上に於けるドイツ精神確立の基礎が成立するに至つたのである。

共産黨の彈壓

ユダヤ人の陰謀と勢力

次にユダヤ人は元來セム種族にして、アリヤ種族たるドイツ人とは根本的に民族を異にする上、彼等は寄生民族にして他の民族または國家に寄生して生活しながら、而も自己主義にして極端な拜金蓄財家なるが故に、自己を犠牲にしてその民族國家に奉仕するの觀念なく、卑しき高利貸または

ユダヤ人の害毒

非道なる蓄財家たり、而も祖國を有せず、自由主義・國際主義を奉じ、共産運動に従事するものも多く、あらゆる既成國家を崩壊せしめて共産社會主義を宣布し、巨億の財閥を背景として世界的支配をなさんとする陰謀をもつてゐる。社會主義の元祖たるマルクス、共和時代を指導したリーブクネヒト (Liebknecht)・ルクセンブルグ (Losa Luxemburg)・レヴィ (Levi) 等の當時の財界を支配したジングル (Paul Singer)・シュッフ (Schiff)・スチンネス (Stinnes) もユダヤ人であつた。かくて戦後ドイツにはユダヤ人が全國に亘つて約六十一萬を數へ、國內の經濟・金融界には拔くべからざる勢力あり、大戦末の革命運動及び共和時代の指導者にはユダヤ人多く、且つ共産黨は全國に跋扈して國政を亂し、新聞界・學術界・藝術界に於ても優秀なる才能を有するものが多く活躍した。従つてドイツ的な思想・精神・政治等は全く萎微沈滞してドイツ民族とその國家は殆ど死滅するが如き感呈せしめた。従つてナチスの政策に於ては徹底的にこれを排撃せんとし、既にミュンヘンに於ける黨綱領の中に於ても、ユダヤ人はドイツ國民ならずと宣言し、更にドイツ國內に於ては帝國國民としての待遇を與へざるのみならず、行政・立法に參與し官公吏・軍人たることを得しめず、その職業を奪ひ、外國に追放することを得、また新聞の經營・主筆・記者たることを禁じ、而もナチス政權獲得後は、嚴重にこれを勵行した。これはドイツ民族の發展と國家の隆昌及びドイツ精神の高揚には絶對に必要視され、そのために國外に放逐された學者・藝術家・財界人等も極めて多數に上つたのである。

ユダヤ人排斥と追放

國粹主義の高

鍵十字旗の意

國旗による國
民精神の高揚

ついで政府はドイツ民族精神及び國粹主義を高調するために先づ黒赤黄三色の共和旗を廢して、舊ドイツ帝國旗と共にナチス黨旗（鍵十字旗 Hakenkreuz）を掲げしめ、後には黨旗を國旗と定め、鍵十字はドイツ人の祖先たるアリヤ種族の使用せる太古の發火器を圖案化したるものなりといはれ、古來大いに神聖視されたものである。ヒットラーはこの黨旗を目して「我が闘争」中に「國粹社會黨員として吾人はこの黨旗の中に吾人の理想・綱領を見る。即ち赤色の中には我等が運動の社會的理想を、白色の中には民族的理想を、かくてまた鍵十字の中にはアリヤ種族（純粹なるド）の勝利のために戦ふ使命と、それによつて反セム種族（ユダ）主義たることを通じて、我等アリヤ種族の創造的活動を達成せしむるために戦ふ使命とを表象するものである」と述べてゐる。ナチスはこれを光明と幸福との象徴となし、その周囲の赤色を熱血赤誠・太陽の表徴であるとした。また別に兩翼を擴げたる鷲が鍵十字を掴みたる構圖を制定して、これも國家的表章としてゐる。かくて政府は「國民的象徴の保護に關する法律」を發布して、これを尊嚴神聖化し、苟しくも汚辱することなからしめ、且つ最も敬虔の念を以てこれに對せしむることとした。これは國旗によつて國民精神を象徴し、これを中心として民族精神の高揚と國家精神の強調を計り、以て國民活動に中心目標を與へて、國民統一と國運隆昌に資したものとつてよい。かくて國民精神の中核を國旗またはその他の表章によつて象徴することは最も重要なこととして歴史上にも常に見らるるところであり、これによ

つて國民を統率し國民に理想指標を與へんとするものである。

文化統制

かくて政府は更に國民精神の統制強化を計るために特に宣傳省を設けて言論の統制指導に乗り出し、有力なるユダヤ系新聞の彈壓、ユダヤ的（自由主義的・共産社會主義的）圖書の發禁・燒却を行つて後、ナチス系新聞（Völkischer Beobachter, Berliner Tageblatt, Angriff）を盛にし、國營ドイツ通信社（Deutsche Nachrichtenbureau, D.N.B.）を半官營として國際ニュースを統制し、言論・圖書・學藝・演劇・映畫等の檢閲・指導を行つて所謂國策的なるものを主とし、特にラヂオはドイツ國策の最重要なる指導機關であり、また國民に對する基本的政治教育機關であり、且つ最も效果的なる社會教育機關であるとしてその普及徹底と利用とに努力してゐる。しかしそれよりも更に積極的にして且つ實踐的なるものはナチス教育とヒットラー青年團・勞働奉仕・勞働戰線の組織結成であらう。

學校教育

ナチスは共和時代のあらゆる施設・思想等を破壊して強烈なるドイツ民族國家を建設せんとし、ドイツ本來の傳統的な民族的・國家的意識に基づく嚴格な身體的・意志的訓練を施し、個人を忘れて國家國民のために一身を捧げんとする獻身的犧牲的國民を作らんことを指導原理とし、小學校より大學に至るまで悉くナチス思想をもつて教育し、強力にして國家主義的なる人物を養成することとした。のみならず青年教育にも留意して、ヒットラーユウゲンツ（Hitler Jugend）を組織しその中にはドイツ少年團（Jung Volk 十歳より十四歳迄）、ドイツ少女團（Jung Mädel 十歳より十四歳迄）、ヒットラー青年團

青少年團教育

労働奉仕團

(Hitler Jugend 十五歳より十八歳迄)、ドイツ女子青年團 (Bund Deutscher Mädel 十五歳より廿一歳迄) あり、共同生活と共同作業及び共同スポーツにより嚴格なる訓練の下に、ドイツ國家及び民族に對する理解を深め、且つ實踐によつて國家・社會への服従・義務・犠牲的精神を養成せんとし、先づ青年に呼びかけてこれを訓練し、以て將來のドイツ國家發展に資せしめんとするものである。また別に労働奉仕團 (Arbeit Dienst) を設け、數萬の青年を團體的に開墾・植林・道路開設・飛行場・防火貯水池・空襲防衛等の設備に對し労働に従事せしめ、それによつて祖國の土に親しましむると共に、國家・國防・社會への奉仕労働義務に關する訓練をなし、體力の養成と労働愛護と國家社會への獻身的奉仕の觀念を養成せしむることとした。また更に社會政策として、從來の如き資本金家・労働者の階級闘争を止め、共に國家のために協調して奉仕すべきことを強調し、そのために労働戦線 (Arbeits-Front) を結成して、兩者を融合せる労働團體をつくり、また労働者の待遇施設・娯樂の改善に全力を注ぎ、所謂「歡喜力行」(Kraft durch Freude) を提唱し、労働の後はスポーツ・旅行・休暇・觀劇・映畫・音樂會・圖書館等に於て十分なる娯樂を得せしめることとした。そのためドイツ産業は農工に互つて異常なる躍進を示すこととなつた。

労働戦線と歡喜力行

かくしてナチスの内政改革は、先づ文化統制より學校教育・労働奉仕・労働戦線に至り、主として青年を對象として國粹的ドイツ精神の養成と、國家奉仕及び労働神聖の精神を涵養し、以て民族的

發展と國家興隆の基礎たらしめ、更に將來への希望と光明とを與ふることとしたのである。

第一次四箇年計畫
失業救済

經濟政策 次に重要なものはナチスの經濟政策である。ヒットラーは既に政權獲得以來第一次四箇年計畫を立て、主として失業救済と農業保護に當つた。即ち失業救済策としては、一九三二年の頃ドイツ國內には不景氣のため失業者は六百五十萬人を超えて重大なる社會的不安を醸してゐた。従つて政府は大規模なる道路建設・土木建築その他の國家事業を起し、また特に軍需工業を盛にし、これに依つて地方産業の開發、軍備の擴張・整備及び失業救済をなすことを得、四箇年の後には五百萬人以上の失業者を救済することが出來た。またドイツが戦時には食糧の缺乏することに鑑み、農はドイツ民族を養ひ、ドイツの國家を發達せしむる源泉なりとて「血と土」(Blut und Boden) を唱へて農業を重んじ、毎年秋には「收穫感謝祭」(Ernte Dank Fest) を行ひ、農地世襲法を實施し、全國食糧生産團 (Reichs Nahrstand) を創設して農民の保護、増農施設、農業統制等を行ひ着々その成功を見るに至つた。従つて國民の經濟は立ち直り、國家としての食糧政策は先づ確立したから、次には商工業政策に向つた。

農業保護

第二次四箇年計畫

一九三六年九月ニュルンベルグのナチス黨大會に於てヒットラーは第二次四箇年計畫を發表した。その頃ドイツの工業は、僅かに石炭を自給し得るのみであつて、その他の鐵・マンガン・銅・鉛・亞鉛・ニッケル・クロム・ボーキサイド・礦油・木材・皮革・ゴム・羊毛・麻・バルブ・棉花に至るまでその大部分は輸

工業政策

代用品工業

統制經濟

入に俟たざるべからざる状態にあつた。そのために輸入額は増加して、海外支拂額は多く、特に戦時に於ては最も痛苦を被ることとなる。従つて爾後の四箇年間に工業原料資材の輸入を一切停止せしむべく努力しなければならぬ。即ち絶対に國內に於て生産し得ざるものを除いて、すべてを自給自足せんとするものである。そのために(一)科學の研究、代用品の研究、生産、人造原料の生産等に全力を注ぎ、例へば石炭液化、貧鐵處理による鑛産増加、ゴム及び樹脂の人工生産、人造纖維、人造絹糸、人造バター、人造砂糖等の研究には既に成功を収めてゐる。(二)ついで國內の統制經濟を強化して寧ろ計畫經濟となし、國家的見地に立つて生産統制を行ひ、國家的軍事的に必要なもの、不可避なるものを先にして、不急不要なるものを遠ざけ、勞働統制を行つて就職僱傭を國家の手によつて配分し、分配統制を行つて必要程度に應ずる配給を行ふと共に、物價を調整して最高價格を決定し、貿易を管理して、爲替管理、バーター制の實施、輸出の獎勵と輸入の制限を行ひ、消費統制を行つて、國民の消費節約、無駄廢止、廢物利用等を行ふに至つた。即ち國民經濟機構を國家總動員的の指導統制組織に編成替せるものであり、これは自由主義的經濟機構より見て畫期的なる變革といふことが出来る。

かくしてドイツの國家經濟は、食料品に於て國內消費に對する國產品の比率は小麥が九七%、馬鈴薯と砂糖が一〇〇%、肉類が九八%、ミルク、バター、チーズ、野菜等が九八—九〇%、等の好成績を示し、工業資源に於ては未だ不足せるものが多く、棉花〇%、ゴム七%、羊毛九%であるけれども、亞麻六七%、人絹九六%、人織一〇〇%、皮革四七%、アルコール、ホップ、砂糖一〇〇%、木材七六%であり、金屬礦油等に關して、鐵はレン式貧鐵處理によつて増産し、鉛、亞鉛、銅、錫、アルミニウム、ニッケル、マンガン等についてはその代用品發明に科學者の總動員が行はれてゐる。かくて自給自足經濟を原則としてその不足を科學的研究と代用品によつて補はんとし、以てアウトタルキー經濟を強行せんとしてゐるのである。

工業増産

自給自足經濟政策

外交の三大根本原則

聯盟の拘束と脱退

外交上の成功 ナチス外交の根本原則はその黨綱領に示されたる通り、(一)民族自主に基づくすべてのドイツ民族結合と大ドイツ國の建設、(二)列國との平等權要求及びヴェルサイユ條約の破棄、(三)失はれたる土地、植民地の返還要求である。この中、ヒットラーは先づ第二策から着手し始めた。

一九三三年十月十四日ドイツは敢然として國際聯盟及び軍縮會議を脱退した。國際聯盟に對しては既にストレーゼマンが、ドイツ復興のために列強の協調援助をうくる必要上止むを得ず加入したけれども、そのためにヴェルサイユ條約に規定されたる巨額の賠償金を支拂はざるべからず、軍備を縮小され、領土と人民とを奪はれ、ロカルノ條約に拘束され、従つてドイツの復興と發展とは永久に望まれぬ状態であつた。従つてヴェルサイユ條約を無視し、ドイツ民族國家の興隆を計る第一着手として、先づ聯盟を脱退するに至つたのである。その前年既に日本が脱退してゐるのであるか

フランスの對策

ら、聯盟は益、その權威と機構とを失つたのであり、英佛二國の現状維持派には大きな脅威を與へたものといつてよい。特にフランスは最も衝擊をうけ、ルーマニヤ・ユーゴスラヴィヤ・チッコスロヴァキヤと所謂東歐ロカルノ條約を結び、ポーランドとは既に同盟の關係にありたるため、ドイツ包圍政策を完成したが、何等ドイツを萎縮せしむるものではなかつた。

ヴェルサイユ條約の廢棄

ザール復歸

軍備制限撤廢

軍備擴張

ついで一九三五年に至り、ドイツは愈、ヴェルサイユ條約の廢棄を實行し始めた。即ちこの年三月久しく問題視されてゐたザール地方(ヴェルサイユ條約によりその炭礦の採掘權をフランスに讓渡し、十五年後住民の領土たらしめんとした所である。面積七三〇七方哩、住民約八十一萬。元來はドイツの地)の住民が人民投票によりドイツ復歸を表明し(贊成四七七一一九票にて全投票數の九割)完全にドイツ領となりてより、愈、積極的に條約破棄に乗り出し、同月十六日所謂爆彈的宣言を行つてヴェルサイユ條約の軍備制限を廢棄し堂々ドイツの再軍備を宣言した。即ち三月十一日には條約に反して空軍の編成を發表し、更に三月十六日には條約にある陸軍十萬、義務兵役制度禁止を打ち破つて徴兵制度を設け常備軍十二軍團三十六箇師團(兵數約五十五萬人)の編成を公表し、海軍に於ても四十五萬噸案を發表するに至つた。かくてヒットラーの就任以來祕密に軍隊を養成し、軍需品をつくり、軍艦・航空機を建造してゐたのを、この時世界に發表したので、これに對して英佛を始めとして聯盟は今更の如く驚駭し議事を繰り返して抗議したけれども何等の効果を見るに至らなかつた。茲に於てドイツは優にフランスに對抗し得るの兵力を所有することが明らかとなり、更にイギリスと

海軍協定を結んでドイツの再軍備を承認させ、また翌年三月には斷然ロカルノ條約の廢棄を通告し、ライン・非武装地帯に進軍して完全にヴェルサイユ條約を破り、戦前の威力を回復した。

軍備 ドイツは一九三六年の大改造によりヒットラーが國防軍最高司令官となり、陸軍總司令にはブラウヒッチ (Braunhirsch)、海軍にはレーダー (Räder)、空軍にはゲーリング (Göring) があり、兵力は陸軍が十二軍團三十六箇師團に精銳を誇る機械化部隊(自動車隊・装甲車隊・戦車隊等)があり、海軍は對英三五%を保持し總噸數四十二萬噸にて戦艦六、航空母艦巡洋艦六、驅逐艦水雷艇一九、潛水艦二〇と稱せられ、空軍は一九三五年に軍用機四千、最近は一萬を超ゆるといはれてゐる。かくの如き軍備の充實は全くナチス及びヒットラーの計畫によるものといふべく、少くとも陸軍に於ては歐洲第一に復活したといはれ、空軍もまた佛伊と首位を争ひ、かくしてこの強大なる軍備と綿密なる經濟計畫及び熾烈旺盛なる精神教育の三者により、愈、ドイツは舊國際機構を打破し、大ドイツ國の確立を目ざして新秩序の建設に邁進することとなつたのである。

〔C〕 イタリアの發展

國力の充實 一九二二年ムッソリーニがファシストを率ゐて政權を獲得し、獨裁政治を行ふこととなつてから、イタリアの面目は一新し國力は充實してきた。

先づ國民精神上に於ては共產黨を彈壓して國粹主義を高調し、イタリアの歴史を重んじて文化統

陸海空軍の充實

國家隆昌の基礎

ファシスト黨

國粹思想の徹底

制を行ひ、古代ローマの世界史的精神、國民すべてが融合統一する綜合的國家體制、國粹的民族的發展を目標とする行動精神をファシズム文化の根本原則とし、その意味に於て哲學・文學・美術及び教育・新聞・ラヂオ・映畫等の統制と指導を行ひ、更に少青年團組織を強化して所謂バリラ (Barilla) 運動を盛にし、ファシズム精神の徹底的實踐訓練を行ひ、ド・ボラ・ザ・オーロ (Opera Nazionale Dopo Lavoro) 國民労働餘暇利用運動ともいふべく、労働大衆の労働餘暇に於ける娛樂・保養・慰安を目的とする 運動を旺んにして、スポーツ・映畫・演劇・美術・音樂・教養等により慰安娛樂をかねてファシズム精神の徹底的教化に努力してゐる。これらは將來のイタリア國家を雙肩に擔ふものとして爲政者の最も留意するところである。

經濟的革新
生産・工業の躍進

經濟上に於ても海外移民に制限をうけたるためと國內産業の開發を目的とする大規模な「完全開墾事業」を起し、全國に亘る沼澤地・荒蕪地・丘陵地を國民の手によつて開墾せしめ、十一年間に四、二七五、六一一ヘクタールの良耕地を得て、食料問題の自給自足に資し、鐵道の敷設と電化、商船の建造、大水力發電所の建設等により交通と工業動力を供給し(水力電氣は一九三九年に三十二億萬キロワットを得るといはる)、また農業に於ては小麥・葡萄酒・大麻・甜菜・馬鈴薯・絹等を生産して殆ど自給自足し、工業に於ては鐵・石炭・石油等の重要資源に缺くことを一大缺點とするけれども、水力電源によつて原動力が豊富なるため、纖維工業(綿絲紡績・絹織・毛織・絹織物・人絹織物)・重工業・機械工業等も盛に、機械類・自動車等も多く産し、軍需工業中飛行機製作は世界的に有名である。かくてイタリアに於ては國家的見地に立つて經濟統制が實施され、特

統制經濟

に貿易統制に於ては自由貿易制を撤廢して割當制を採用し、染料・綿布・絲類・絹織物・機關車・客車・飛行機・船舶等の輸入禁止を行ひ、物價統制に於ては中央物價統制委員會を設けて、慎重に基本物價の最高價格を決定し、以て經濟界全體の動搖を防止し、また消費統制に於ては食糧統制委員會を設けて、食糧のみならず國民生活全般の消費節約をなさしむることとなつた。今やファシスト治下に於ては農業國より工業國に轉化せんとするの氣配が濃厚であり、經濟機構はまた自由主義的なるものより、次第に統制的なるものに轉位せんとしつつあり、かくてその根柢に於ては國家の財政經濟的基礎を鞏固豊富ならしめ、以て國力の充實と發展に資し、軍備・外交等もまた嚴然たるこの基礎の上に立つてゐる。

軍備の擴充

軍備に於ては陸軍は十三軍團約五十二萬の兵を有し、機械化部隊として自動車隊・機關銃隊などあり、パリラ青年團にも戰團訓練をうけたるもの四百九十萬を數へ、海軍には地中海を制覇するためにワシントン會議にて決定されたる主力艦十七萬五千噸、航空母艦六萬噸以外に、巡洋艦(甲級乙七十八噸餘)・驅逐艦(七萬五噸餘)・潛水艦(四萬五噸餘)ありて、フランスを凌駕し、イギリス地中海艦隊を制御し、特に潛水艦・巡洋艦・驅逐艦に優れてゐる。また空軍はイタリアの最も誇るところであり、ムッソリニがバルボ空相と共に全力をあげて建設し、約二百中隊三千機ありといはれ、特に長距離渡洋作戦に優れ、英・佛海軍に大きな脅威を與へてゐる。

北守南進政策

アフリカ・バルカンへの進出

イタリア外交 ムッソリーニの理想とするところは、イタリアをして再び古代ローマの如く世界を支配する大帝國を建設せんとすることであり、そのために先づ「北守南進」を企て、北方佛獨の南下を防遏すると共に地中海の制海權を掌握して、アフリカ大陸とバルカン半島とに進出せんとすることであつた。そのために最初はフランスを假想敵國となして軍備を進め、世界大戰後世界第一といはれたフランス空軍を目標として最強の空軍建設に従事し、ワシントン會議後はフランスと均等の主力艦を得て海軍の擴張に従ひ、以て地中海の制覇をなさんとするに至つた。かくしてイタリアの對岸にあるフランス植民地チュニスに着目し、以て機會の至るを待つてゐるのである。またバルカン半島に對してはアドリヤ海を自己の湖たらしめんとして、大戰直後フィウメ問題を起し、なほムッソリーニはアルバニアの石油資源に着目して、その利權と土地とに關しユーゴスラヴィヤと反目し、更にドイツの勃興につれその東進政策によるオーストリア併合を警戒するに至つた。

アルバニア問題

かかる情勢下に於てムッソリーニは最初バルカン政策に乗り出した。アルバニアは既に世界大戰當時イタリアが參戰せる時これを占領し、一九二二年パリに於ける列國大使會議にてその領土保全を委任するに至つたが、ムッソリーニ時代となりてより國境問題のことよりギリシヤと争ひ、一九二四年には石油銀行・鐵道等の利權を得、一九二六年にはチラナ(Tirana)條約を結んでアルバニアの現状維持即ちイタリアの保護國化を約した。しかしながらこの條約はユーゴスラヴィヤ

オーストリア問題

獨伊交渉

獨伊交渉

佛伊協定

がアルバニアと利害關係を等しくし、且つイタリアの勢力が自國の國境に進出するため脅威を感ずるところとなり、直ちにフランスと攻守同盟を結んでこれに對抗することとなつた。ついでオーストリア問題についてはナチスドイツの進出によつて俄然緊張し始めた。即ちナチスのオーストリア侵略が次第に顯著な行動を現はし、ヒットラーが一九三四年六月飛行機にてヴェニスに來り、ムッソリーニと船上にて現下の時局問題に關する重要會談を遂げた際、彼はフランスの對獨包圍政策に反對し、またオーストリアの獨立を主張すると共にナチスの合併運動停止を申入れたといはれ、更にナチスがオーストリア政府乗取りを策し、オーストリア首相ドルフスの暗殺事件ありし時、ムッソリーニは大いに憤慨して直ちに兵を國境に集中し、對獨強硬態度を示したので、ヒットラーも遂にオーストリアのナチスを解散せしめ、對獨武斷政策を止めしめたが、更にムッソリーニは八月にはオーストリア首相シュシュニック(Schuschnigg)とフロレンスに會談して、伊・獨兩國の政治經濟文化に關する諸問題の検討を遂げ、オーストリアの獨立保全に關する方針並びに方法につき完全なる意見の一致を見、兩國間に一層緊密なる協調を約するに至つた。

かかるムッソリーニの對獨強硬政策は大いにフランスを満足させ、茲に一九三五年一月佛外相ラヴァール(Laval)のローマ訪問となり、佛伊協定を結んで(一)アフリカに於ける佛伊問題・チュニス問題等を處理し、(二)オーストリア・ドナウ川沿岸諸國の領土保全を約し、(三)兩國の軍備を協定して、

ストレーザ會
談

平等の原則を重んずることとした。この佛伊協定はイタリアのアフリカ進出を許容するばかりに、ドイツの進出に關して佛伊兩國が共同戦線を張りたるものであり、續いて行はれた山紫水明の地ストレーザ (Stresa) での英・佛・伊會談(伊のムッソリーニ、英のマクドナ)は更にこの對獨戦線を強化したものと見る事が出来る。

伊エ紛争と外交

然るにこの形勢が俄然變化し始めたのは、イタリアがエチオピアと紛争を起

エチオピア問
題

してからである。エチオピア (Ethiopia) はアフリカ東部にある高原山岳地帯で、人口約一千万といはれ、獸皮・コーヒー・蠟・象牙等を産し、殊にイタリアに缺乏する棉花・鐵・石炭などを産し、工業品の輸出にも有望な所である。且つ伊領ソマリランド・エレットリヤと接近し、かねてイタリアの垂涎をかざるところであつた。偶、一九三四年の暮、南部のワルワル (Warwar) 地方に於て國境侵入事件が起り、遂に交戦となつて雙方に百數十名の死傷者を出した。この附近は未だ十分なる國境の決定せられざる所であつたが、イタリア政府はエチオピアよりの挑戰的侵入なりとてその陳謝と賠償とを要求した。エチオピア政府はこれを以てイタリアより侵入攻撃し來りたるものであるとて、國際聯盟に訴へその仲裁裁判によつて解決せんとした。ムッソリーニは第三國の介入を排斥して、兩國の直接交渉たらしめんとしたけれども、聯盟は委員を選んで和協せしめんとし、それが失敗に終るや、英・佛・伊三國の會商に委ねた。聯盟の指示により三國委員は一九三五年八月パリに會談し

國境事件

國際聯盟の容
喩

伊エ戦争

たけれども、イギリスはイタリアのエチオピア併合を好まず(ナイル川上流の水源地を占領することはエジプトを危険ならしむること、エチオピアの獨立を失はしむることは聯盟の一國を消滅せしむること)と云ふこととなつて體面上面白からざること)イタリアはこれを併合せんとして意見の一致を見ず、更に聯盟の和協委員が提起する過小なるエチオピアの讓歩案もイタリアの容るるところならず、遂にイタリアは斷乎として準備を整へ、十月三日エレットリヤ國境より進軍してアドワ (Addowa) を奪ひ、更にその首府アヂスアベバ (Addis-Abeba) に向つて猛烈なる進軍を開始した。イタリアはあらゆる最新武器・機械化部隊を用ひての攻撃であるのに反し、エチオピアはただ天嶮を恃む以外に何物もなく、勝敗の數はもとより明らかであつた。

聯盟の經濟的
制裁

聯盟に於ては規約第十六條(第十二條・第十三條・第十五條に依る約束を無視して戦争に訴へたる聯)を適用し、遂にイタリアに對して經濟的制裁を加ふることとした。かくして聯盟國はイタリアに對して武器の輸出を禁止し、金融を停止し、イタリア製產品の輸入を止め、重要物資の對伊輸出を禁止することとした。特に軍器・彈藥・部分品・化學藥品・馬匹・ゴム・鐵・輕金屬・礦油・石炭等の輸入禁止はイタリアを大いに苦しめた。しかしながらムッソリーニはこの經濟制裁に何等關心せず、列國の制裁もまた完全に行はれず、イタリアの最も苦しむ石油禁輸制裁も委員會のみにて間に合はず、またイギリスは大艦隊を地中海に集中して大いに示威運動を試みたが、イタリア空軍の強大なるため威壓をうけて何等爲すところがなかつた。かかる間にエチオピアにあつたイタリア軍は敢然として行動を起し、

イタリア屈せ
ず

エチオピア併
合

一九三六年四月十七日にはアヂスアベバを爆撃し、五月六日イタリア政府は遂にエチオピア併合を宣言した。かくてエチオピア皇帝ハイレシヤシエ(Haile Selassie)は國外に蒙塵するの止むなきに至り、聯盟總會もまた七月六日に至り對伊制裁の撤回を決議した。茲に至つてイタリアは勝利を確實にし、聯盟は完全にその機能を失へることを天下に表明するに至つた。かくして一九三七年十二月イタリアは遂に聯盟を脱退するに至つたけれども、それは既定の事實として何等新味を加ふるものではない。かくて聯盟は全くその無力なることを暴露し、國際機構として何等の權威なきことを世界に公表した。かくて一方には日本・ドイツ・イタリアの反聯盟國が新勢力をつくり、やがて新國際機構を形成せんとするに至つたのである。

聯盟の無力

目新勢力の提携

三勢力結合の契機

日本・ドイツ・イタリアの三勢力が結合するについては、そこに(一)何れも國民の元氣旺盛なるに比し國內の物資乏しく、土地狭小にして海外發展の必要に逼られ、現状を打破して新秩序の形成を望みたること、即ち持たざる國が持てる國に對し、現状打破國が現状維持國に對して共通なる利害觀念をもちたること、(二)國情類似して民族精神を高調し、個人を軽くし自由主義を遠ざけて社會國家を重んじ、國家主義を奉ずることに共感せること等をあげべきであるけれども、更に(三)蘇聯の共產主義に對して全く共通の立場に立ち、その恐るべき害毒に對して共同防衛の陣

結合の契機

防共陣營

國際共產黨の
組織

を張らんとせしことが最も直接的な契機をなし、茲に防共協定を媒介として三國の緊密なる聯繫が成立するに至つたのである。従つて吾人は茲に暫くソ聯の共產主義宣傳及びコミンテルンの世界赤化運動に關する暗躍とその害毒について述ぶるところがなければならぬ。

國際共產黨の暗躍

蘇聯の共產思想を世界に宣傳實行するための機關として國際共產黨(コミンテルン)がある。これは一九一九年レーニンが主となりモスコに發會式をあげたもので、蘇聯共產黨が中心となり世界各国の共產黨を支部とし、且つ本部指令に絶對的に服従して活動するものであり、蘇聯共產黨と蘇聯政府とは全く異體同心のものであるから、コミンテルンは蘇聯政府と密接なる關係あり、且つその保護と指導の下に活躍してゐるものである。かくて彼等の目的とするところはあらゆる既成國家に働きかけて、先づ經濟的社會的內亂を起さしめ、政府を倒し國家を滅ぼしてその國を共產化せんとする恐ろしき陰謀をもつものである。そのために各國は何れも大小の被害をうけた。(一)ドイツに於ては敗戦以來共和政をしいたが、その首脳部及びドイツ社會民主黨はコミンテルンと密接なる連絡をとり、ドイツ民族精神とドイツ國家とを滅ぼして、完全に蘇聯と共通する共產國家たらしめんとした。ここに國粹的なるヒットラーが憤起し、絶えず共產黨と決死的なる闘争を續けたのである。次にコミンテルンは(二)イギリスに働きかけ、イギリス共產黨と結んでその宣傳に努め、猛烈な輿論の攻撃をうけた。(三)イタリアに於ても戦後社會黨のために惱ま

蘇聯共產黨の
活躍

獨・英・伊の被
害

日本への影響

支那の赤化

れたが、遂にムツソリーニの憤起により鎮壓せられた。(四)我が日本にも魔手を伸ばしたが、僅かに思想上に於て論議せられたるにとどまり、陰謀の如きものは未然に防がれて消滅し、國民全般の間には國體觀念の明徴、國民精神の作興が叫ばれ、肇國精神が愈々發揮せらるることとなつた。(五)支那に於ては一九二〇年中國共産黨が生れ、次第に盛となつて到るところにソヴェト區をつくり、共産軍をつくつて支那の社會・政治・民心を攪亂し、猖獗を極めたので、蔣介石は一時これを討伐したが、一九三六年の西安事件よりこれと提携し、抗日排日を叫び、支那事變勃發以後コミンテルン及び蘇聯の後援は愈々露骨となり、益々支那の赤化に拍車を加へてゐる。なほ外蒙古は完全に赤化して蘇聯政府の勢力下にある。支那赤化が我が國と重大關係にあるは言ふまでもない。

人民戦線の出現
フランスの弱
化

然るに一九三五年八月モスコにコミンテルンの第七回世界大會が開かれてから、運動は再び激烈となつた。而してファシヨ政治反對の立場より廣く社會主義者に呼びかけて「人民戦線」(Front populaire)を結成せしめ、以て政治的・社會的に國內攪亂を企てた。そのため(一)フランスに於てはフランス共産黨を中心に社會黨・急進社會黨等が合同して人民戦線をつくり、一九三六年の總選舉には絶對多數を占めてブルム内閣(Brum)を組織し、右翼團體(Action française, Franciste, Solidarite française, Jeunesse patriote, Croix de Feu)に解散を命じ、資本家を壓迫し、労働者の不當なる利益を計つたが、そのため經濟界は混亂して金貨は海外に流出し、フラン價切下の止むなきに至り、社會的不安が増大したので内閣も倒れ、

イスパニヤの混電

また工業は衰へ新兵器を作らず國防力は低下し、従つて新興ドイツの空陸軍に比し完全に凌駕せらるるに至つた。(二)またイスパニヤに於ては久しく王黨・社會黨等が抗争を續けたが、コミンテルンの指令による人民戦線の結成により、共産黨が俄然勢力を盛り返し、各地に於て共産黨の暴動・掠奪が行はれ、暗殺・襲撃等が絶えず、國內は人民戦線政府とフランコ政府が對立し、前者は蘇聯・佛(人民戦線の助くる)ところとなり、ここに激烈な内亂が續けられた。これは蘇聯及びコミンテルンの計畫が圖にあつたのである。(三)支那に於てもまた人民戦線派が結成され、大いに抗日宣傳をなしたが、殊に(四)日本に對しては黨大會の決議をもつて滿洲及び北支に於ける帝國の行動を批難し、更に日本及びドイツの戦争行爲に對抗し、兩國及びポーランドに對してあらゆる攻撃を集中することはコミンテルンの最も重大なる戰術なりと稱し、支那に於てはその共産黨の闘争を激勵して抗日毎日運動を極力支援せざるべからずと述べ、公然日獨兩國を誹謗・敵國視し、以て世界赤化運動の目標とした。これらの背後に蘇聯政府があつたことは言ふまでもない。

極東への魔手

日獨防共協定の成立 茲に於て一九三六年十一月二十五日我が駐獨大使武者小路公武とドイツ外相リッペントロップとの間に日獨防共協定が成立し、

防共協定の内容

大日本帝國政府及獨逸國政府ハ共産「インターナショナル」(所謂コミンテルン)ノ目的ガ其ノ執リ得ル有ラユル手段ニヨル現存國家ノ破壊及暴壓ニ在ルコトヲ認メ共産「インターナショナル」ノ諸

國ノ國內關係ニ對スル干涉ヲ看過スルコトハ其ノ國內ノ安寧及社會ノ福祉ヲ危殆ナラシムルノミナラズ世界平和全般ヲ脅スモノナルコトヲ確信シ共產主義的破壊ニ對スル防衛ノタメ協力センコトヲ欲シ左ノ通り協定セリ

第一條 締約國ハ共產「インターナショナル」ノ活動ニ付相互ニ通報シ必要ナル防衛措置ニ付協議シ且緊密ナル協力ニ依リ右ノ措置ヲ達成スルコトヲ約ス

第二條 締約國ハ共產「インターナショナル」ノ破壊工作ニ依リテ國內ノ安寧ヲ脅サルル第三國ニ對シ本協定ノ趣旨ニ依ル防衛措置ヲ執リ又ハ本協定ニ參加センコトヲ共同ニ勸誘スベシ

第三條 本協定ハ日本語及獨逸語ノ本文ヲ以テ正文トス 本協定ハ署名ノ日ヨリ實施セラルベク且五年間效力ヲ有ス 締約國ハ右期間滿了前適當ノ時期ニ於テ爾後ニ於ケル兩國協力ノ態様ニ付了解ヲ遂グベシ 以上

成立の由來

この防共協定成立の由來は、同日外務省の發表せる聲明にもある如く「共產インターナショナル」がその創立以來世界革命の根本方針の下に各國に於ける國家組織及社會組織を破壊せんが爲、各種の工作を施し、世界平和に多大の脅威を與へたるが、特に第七回大會にてはファシズム及帝國主義に對抗するため今後の活動目標を日本・獨逸・波蘭におき、日本と闘争する爲支那共產軍を援助すべき旨決議宣言した。赤化の侵寇はまた支那に於ても著しく外蒙古・新疆の如きは既にその慘禍を嘗め、

支那本部は甚だしき共產軍の跋扈を見、滿洲國に於てはその勢力扶植匪賊の懷柔誘導に努めてゐる。帝國政府は萬古不動の國體を擁護し國家の安全を確保し進んで東洋永遠の平和を維持するため、從來も明確なる方針を堅持せるが、コミンテルンの脅威の増大に鑑み一層嚴重なる防衛措置を講ずる必要あり、而も彼等の運動は國際的なるが故にこれに對抗するには國際的協力を必要とする。ドイツはヒットラー以來峻烈なる反共產主義的政策を實行せるが、コミンテルンは日本・ドイツ等を主たる對象とするため、帝國とは類似の立場に在る。従つて帝國政府はその防衛工作の第一歩としてドイツと交渉を重ね遂に本協定の調印をなすに至つたのである。

獨伊協定と防共協定 この日獨防共協定に對して更にイタリアが參加することにより、三國防

獨伊接近の情勢

共協定をつくり、また日獨伊外交樞軸を形成せしむべき根本原則として、一九三六年十月に獨伊協定が成立した。元來獨伊關係はナチスのオーストリア進出計畫によりてイタリアの嫌惡するところとなつて、必ずしも良好ならず、そのためヴェニス會談にもイタリアは強硬態度に出で、更に英佛とも接近するに至つた程である。然るにエチオピア紛争以來イタリアは英佛及び聯盟と對立したが、更に傳統的國策(地中海制覇・アフリカ進出など)を遂行するためには聯盟及び英佛・蘇聯の親善關係を打破する必要あり、且つイスパニヤに於ける共產黨進出の問題もあり、従つてドイツに接近するの必要に迫られ、茲にチアノ外相(Tiano)のミンヘン訪問となつたのである。會談の結果に關して彼の發表すると

獨伊會談の内容

ころに從へば、今後兩國政府は (一) 歐洲の平和及び復興に關する一般事業につき共同工作を企圖するの確信を得、(二) 新にロカルノ條約及び聯盟問題の各方面に互り一層緊密親善なる接觸をなすこと、(三) 埃匈諸國についてはその主權を維持し、(四) イスバニヤ問題に關してはフランコ將軍の國民政府を正當と認め、(五) 歐洲の社會組織を脅威する危險(共產主義を指す)に對し、歐洲文明の神聖なる遺産を、全力をあげて防衛すること、(六) 獨伊間文化交流に努力し、(七) エチオピア併合をドイツは公式に承認せんとする用意あること等であり、なほこれに補足して (八) 獨伊兩國は全歐洲協調の名に於て共產主義の防衛に協力しつつあるが、また太平洋に於ける現存文化の前哨たる日本に於ても協力者を見出し、日本は共產主義の脅威に對し全アジア大陸を防衛すべき任務を引受くるに至つた旨をも述べた。

獨伊會談の意義

この獨伊會談は少くとも三つの點に於て重要な意義がある。第一は歐洲の平和工作即ち外交關係に於て獨伊が緊密親善の關係を以て協力すること、即ち外交上伊は獨の對埃政策を認め、獨は伊のイスバニヤ政策を認め、且つ歐洲の平和工作に關して協調することにより獨伊樞軸の成立を意味し、第二には共產主義の侵入に對して三國の防共協定を結ぶ前提を豫示し、第三には獨伊に文化協定の成立することを暗示したことである。

三國防共協定

かくして一九三七年十一月イタリヤは遂に防共協定に参加した。これは既に締結せられたる日獨防共協定とその趣旨精神に於て全く同一のものであり、今後は三國相提携して防共の一線に親密を

防共協定より文化・通商・政治協定への發展

固くし、以て文化外交等に於て緊密なる聯繫をとらんとするものである。なほ次項に詳述せる如き日獨文化協定、日伊文化協定は更にこの三國防共協定を一層完全なるものたらしめたものといふことが出来る。即ち防共協定は今日の世界的不安が蘇聯コミンテルンの赤色魔手によるもの多く、例へば支那イスバニヤに於てはその害毒の最も甚だしきものあり、チッコ等に於てもまたその暗躍に惱めるものであつたから、新秩序建設のためにもその責務は極めて重大なものがある。また文化協定は獨伊協定に關するイタリヤ紙の言ふ如く、それは兩國の政治關係を更に一層の親密さを以て堅く結びつくるものであり、科學・教育・藝術等のあらゆる分野を通じて兩國民が一體となる時、世界平和に貢獻せんとする兩國の政治的提携は最早單純なる協定の域を脱して、兩國民の民族的信念にまで醇化さるるであらう。即ちこれらの協定にはやがて三國間に親密の度が加はるに從ひ政治的、經濟的提携といふ他の重要な半面のあることを忘れてはならぬものである。かくして防共協定と文化協定とは相共に三國の文化・政治外交に互つて緊密なる共同工作をなすものといふべく、これに日伊通商協定(一九三八)、日獨通商協定(一九三九)が加はつてその關係は更に深く、以て今後の國際間に重大なる影響を及ぼすこととなるのである。

三國提携の基礎

日獨文化協定文化協定の内容

日獨伊文化協定 一九三八年十一月先づ日獨間に文化協定が成立した。大日本帝國政府及びドイツ政府は日本文化及びドイツ文化が一方は日本の固有の精神を、他方はドイツの民族的及び國民

理解と尊重

協力と交換

日伊文化協定

文化協定の意義

的生活をその眞髓とするに鑑み、日本及びドイツの文化關係は茲にその基調を置くべきものなることを嚴肅に認め、兩國の各種の文化關係を深からしめ、且つ兩國國民の相互的知識及び理解を増進せしめ、以て既に幸に兩國を結合する友好及び相互的信頼の關係を益、鞏固ならしめんことを欲し、(一)締約國はその文化關係を堅實なる基礎の上に樹立するため努力すべく、相互に最も緊密なる協力をなすこと、(二)前條の目的を達するため、學術・美術・文學・映畫・無線放送・青少年運動・運動競技等の方面に於て兩國の文化關係を組織的に増進せんとするものである。その具體的方法としては日獨文化聯絡協議會を設置し、教授・留學生を交換し、青少年團を交驩し、圖書・雜誌・藝術・映畫・ラヂオの交換、運動競技による交驩等で、その後これらは何れも着々實行せられてゐる。ついで一九三九年三月日伊間に於ても兩國の永き傳統に基礎をおく固有の文化を相互に尊重し、且つ兩國間の各種の文化關係を増進し、以て兩國間の相互的理解を深からしむると共に、兩國を結合する友好及び相互的信頼の關係を益、鞏固ならしむるの希望に促されて、ドイツと略、同様の内容を有する文化協定を締結した。

この文化協定には三つの重大な意義がある。第一は何れも古く輝かしき傳統を誇る各國固有の文化を防共の一線に於て共同に擁護尊重してこれを發展せしめんとする一つの文化戦線たることであり、第二は相互に文化を交換して理解を高め、藝術・映畫・ラヂオ・スポーツ等による交驩を重ねて兩國の親善を深からしめ、以て兩國の政治的・外交的結合の鞏固なる基礎をつくること、第三には飽くまでも日本文化の眞髓を生成發展せしめつつ諸外國の特色ある文化の精華と汎く交流交關を保たしめ、日本固有の精神を堅持しつつ新世界文化の創造に進まんとする輝かしき文化的大使命の達成に資せんとするものである。

日獨伊樞軸の活躍

日獨伊三國は防共の一線に立つて固く協定を結んだけれども、それは決して防共の一事に止まらず、世界に對して自國の存立と繁榮とを相互に認識し、更にその國家民族の隆昌發展に對して相互に援助を惜しまざるの態度にまで到達してゐる。滿洲國の獨立に對して直ちに獨伊兩國が承認し、エチオピアの併合に關しては日獨が承認し、イタリアにとりて重要なイスパニヤ問題に於てはドイツが好意を示し、獨逸併合に就いては日伊が好意を示し、而も三國は第三國たる英・佛樞軸に對して常に共同戦線を張らんとする程の態勢を示してゐる。更に今後は文化協定によつて廣く國民の理解と交驩とを深からしめんとしてゐるのであるから、三國は益、共同して新秩序の建設に邁進するに至るであらう。

(一)日本の偉業 日獨防共協定が成立し(一九三六年)、日伊防共協定が正に成立せんとする頃(一九三七年七月我が帝國は止むなく支那の抗日運動とその背後に操る共產黨とを膺懲擊破し、

一月)一九三七年七月我が帝國は止むなく支那の抗日運動とその背後に操る共產黨とを膺懲擊破し、

三國の政治的提携と共同戦線

東亞新秩序建設

支那の抗日運

共産黨の暗躍

聯蘇容共と抗
日政策支那事變の意
義

東亞に新秩序を建設せんとする聖業に着手することとなつた。由來支那の排日運動は一九〇八年頃より始められたのであるが、滿洲事變後は抗日運動となり、殊に一九三五年のコミンテルン大會に於て、公然日本を敵とし、日本に對抗するために支那共産黨を極力支援することを宣言して以來、中國共産黨は蘇聯及びその共産黨の指令をうけて活潑なる動きを見せ、所謂「抗日人民戦線」を結成して勢力を振ふに至つたものである。これは共産黨とコミンテルンとが支那國民の中に普遍する抗日意識を煽動して日本打倒に向はしめ、かくして共産思想と共産黨の勢力を伸展せしめんとした一石二鳥の戦術で、そのため中國共産黨中國ソヴェト共産軍十九路軍中華民族革命同盟その他多數の抗日人民戦線派が結成され、それらの指令・暗躍によつて排日貨・商店襲撃・殺傷・暗殺等の悪質なる抗日毎日事件が頻發するに至つた。かくて一九三六年十二月の西安事件により蔣介石と國民黨とは共産黨の術中に陥つて聯蘇容共政策に出で、蘇聯より多くの武器・軍需品・軍事訓練者等の供給をうくると共に、中國共産黨及びコミンテルンを容れて強硬なる抗日政策に出づることとなつた。従つて日本としては隣國支那と善隣の誼を保ち、以て東洋の天地を不變の樂土たらしめ、永遠の平和を維持すべき新秩序を樹立するためには、當然の着手として蔣介石と國民黨及び彼等と結託してその背後に蟠居する共産黨とコミンテルンの絶滅を期さなければならぬのである。即ち支那蒙疆をコミンテルンの魔手より救ひ、彼等に安居樂業の天地を與へて後、我が帝國と提携して互助連環の

新秩序を樹立せんとするものであり、そこに今回の支那事變が防共協定の趣旨に忠實なる意義と東洋永遠の平和のために盡さんとする聖業たるの所以とが含まれるのである。

支那事變を繞る國際關係

支那事變に關する國際關係に於て我が國と獨・伊兩國が常に好意的・

獨・伊の好感

友好的であることは言ふまでもない。事變勃發の當初九月七日ヒットラーがニュルンベルグの黨大會に於て日獨外交關係に論及し、「日獨協定は文化破壊工作に對する防衛の目的を有す。この破壊工作は今日イスパニヤに於て猖獗を極めつつあるも、明日は極東に於て將又明後日は世界の他の地方に於て行はれずと何人も斷言するを得ず。全ドイツ國民は他列強に於ても理性戦線を強化し、且つ平和及び文化の擁護のため時代を正確に認識せんことを希望す」と述べて、暗に極東支那に於てもイスパニヤの如く赤魔の攪亂による戦亂の勃發を暗示し、それに對するドイツ國民の覺悟を希望して居り、その後幾多の事件に對しても、新聞の論調は常に絶大な好意を示し、例へば聯盟の對日經濟制裁等に就いては極力これを反撃し、帝國の行動を是認し、日本軍の武勇と戦果の大なることを賞讃して止まず、また文化協定を結び、藝術スポーツ青年團等の交驩をなして友好關係を續け、イタリヤもまた事變勃發後直ちに防共協定に參加し、滿洲國を承認し、文化協定及び新通商協定を結んで好意を寄せ、また當局者・新聞等の言論も常に友好的であることはドイツと同様なるものがある。然るにアメリカ合衆國は事變勃發後、ハル國務長官の名を以て、現下の國際時局に對する米政府

米の反感

英・佛の敵性

の一般方針として「國策遂行のため國際間に武力を行使すること、及び他國の内政に干渉すること、を回避し、他國の權益は努めてこれを尊重し、條約神聖の原則に於て、國際協定を忠實に遵守すること」等をあげ、暗に日支間に於ける我が態度を批難し、更に支那のデマ宣傳に躍らされて、アメリカの一般民衆と新聞輿論は正當を缺き、米政府もまたこれに引きづられて或は中立法を發動して對日輸出を禁止せよとの論議も出で、著しく精神的に支那及び英・佛に好意を示してゐる。次に英・佛に至つては名實ともに我が國を敵視して支那を援助するの態度に出た。これは國民政府とイギリスとの經濟的關係深きこと、英・佛が獨・伊と對立の關係にあるため日本をも敵視せること、支那に於ける日本の進出が彼等の不法なる權益を阻害すること等によるものである。かくして彼等は聯盟を通じて支那を援助し、また協同して日本を壓迫せんとするの態度に出た。即ち聯盟の支那首席代表顧維鈞は、例の如く事實を誇大歪曲して日本を誹謗し、自國の非を隠して哀訴嘆願するところあり、聯盟もまたその提訴を容れて諮問委員會を開き、日本を侵略國なりと決議し、また總會に於ては支那に對して道德的支持を與へ、支那の抵抗力を減殺せざるやう留意し、更に進んでその援助を惜しまず、且つ九國條約國を召請して善後處置を議することを決し（一九三七年十月五日）、また別に支那に於ける防疫その他の技術的援助のため二百萬フラン（スウイス）を支出することとした。かくて十一月十五日（一九三七年）ベルギーのブリュッセルに會せる九箇國代表（米・英・佛・支・蘭・白・露）は聲明書を發して日本の行

聯盟悪用

ブリュッセル
聲明

英の支那援助
と日本への敵
性

蘇聯の支那援
助

爲を難じ、且つ紛争の解決を日支兩國に任せずして九箇國を中心とする數箇國の會議に附すべきことを主張した。しかしながら國際聯盟に加入せざる日本は正當なる事實の認識を缺きたるブリュッセル聲明を容認せず、勿論これを拒絶した。然るにイギリスはなほ執拗に援蔣對日政策を劃策し、一方に於て戰爭による在支權益の被害及び既得權の喪失を理由として盛に我に抗議を重ね、以て我が帝國の外交と軍事行動とを困難ならしめ、他方に於ては駐支カー大使をして蔣介石に接近せしめて陰に陽に援助し、香港・廣東を通じて盛に軍需品武器等の輸入に便宜を與へ、廣東陥落後は、重慶——ビルマ（英領）間に新設道路を開いて所謂援蔣ルートにより軍需品を満載するトラックを通行せしめ（七百臺のトラックを運行して毎月二千）、なほアメリカの二千五百萬弗借款と共にイギリスは四十五萬磅の借金の貨物・軍需品を送せんとす）、また國民政府及びイギリス筋財團の保證する法幣（幣）が下落して國款を與へたといはれ（一九三九年一月）、更に國民政府は、かくの如きイギリス・蘇聯・國民政府に經濟上の致命的打撃を與ふることを防がむがため五百萬磅を支出した。蘇聯はコミンテルンを通じて最も積極的なる援助をなし、殊に一九三六年十月より翌年四月中頃までの間に優秀なる飛行機（I十五型・I十六型機）約五百機、飛行士機關士約二百人を送り、更に所謂西北ルートを利用して盛に軍需品・武器・軍人・將校等を送つた。従つて蔣介石及び國民政府は、かくの如きイギリス・蘇聯及び聯盟の援助と米の同情によりて頻りに長期抗戰を唱へて望なき戰爭を繼續してゐるのである。

皇軍の活躍 かかる間にあつて我が皇軍の神速果敢なる進出は實に眼覺ましく、北支に於ては廣

北支戦線

中支戦線

南支戦線

大なる地域に戦果を擴大して翌年(一九三八年)五月には徐州の大會戰に決定的大勝利を得、中支に於ては上海附近に壯烈なる戦を交へて後一九三七年十二月早くも敵の首都南京を占領、更に揚子江を溯つて三方より漢口を攻略し、また海軍は陸軍との共同作戦により杭州灣・バイヤス灣等の敵前上陸に偉勳を立て、南京・漢口・廣東重慶等の軍事施設爆撃に敵膽を寒からしめ、更に支那沿岸封鎖の重大任務に當つてゐる。國民もまた國民精神總動員・國家總動員の趣旨に則つて盡忠報國・堅忍持久の精神を固め、日常生活及び經濟組織を戦時體制に編成替して新東亞建設の大業に邁進してゐる。その偉大なる力は誠に世界の驚嘆するところである。

世界史的偉業 かくて我が帝國の聖業と正義とは支那人中にもこれを認めて北支・中支の占領地域に臨時政府・維新政府の成立するあり、國民政府部内にも共鳴者を出して汪精衛の脱出及び和平運動などがあつて、中央新政府樹立の機運も動き、イギリスは天津租界問題に關聯して従來の援蔣政策を改め、支那に於ける戦争の現實的事態を確認し、日本軍の安全確保と治安維持に必要な要求を認め、日本軍を害し支那側を利するが如き行爲を排除することを約した(一九三九年七月)。ただ蘇聯のみは未だ頑迷にして頻りに滿蒙國境を騒がし、常に日滿軍のために撃退せられてゐる。かくして我が帝國は聖戰三周年を過して支那の天地に未曾有の輝かしき戦果を收め、殆ど支那の中樞部と樞要都市とを占領し、更に文化工作を施して共產思想及びその勢力を退け、經濟工作に努力して安業樂土

汪精衛等の運動

長期建設

を開き、以て東亞の新天地と新秩序との長期建設に邁進してゐるのである。實に我が聖業は世界史に燦たる光輝を放つものであり、帝國の行動は世界的に關聯をもつものとして視聽を集めてゐる。即ち日本の對支活動は英・佛・蘇米の最も關心するところであり、極東の情勢は直ちに歐米外交界にも重大なる影響を與へ、特に防共協定を中心とする獨伊樞軸とこれに對立する英・佛樞軸との關係に最も大なる影響を與ふるものといふことが出来る。今や日本は現實に世界の外交舞臺に立つて回天の偉業に邁進してゐるのである。

世界的影響

(二)ドイツの進出 ドイツが一九三六年我が國と防共協定を結び、更にイタリヤと同協定を結んでより後の活躍は誠に眼まじきものがあつた。これは日本と提携することにより極東に於ける我が國のコミンテルン及び蘇聯に及ぼす脅威が、蘇聯を牽制してその對歐政策特にバルカン諸國への全面的進出をなし得ざること、イタリヤとの協定がドイツのバルカン進出を容易にし、且つ英・佛二國を牽制して對獨強硬政策を採る能はざらしめたこと等によるもので、さてこそドイツ多年の要望たる東方進出(Drang nach Osten)をハットラーによつて決行するに至らしめたのである。元來ドイツは第一次世界大戰に敗戦の結果六萬五千平方呎の本國領土を奪はれ、五百八十萬のドイツ人を他民族の支配下に置かした。そのうち一九三五年ドイツに歸屬したザール地方を除いても、

三國防共協定のドイツに與へた效果

ドイツの失へる土地と人口

チェコスロヴァキヤに三百萬餘、フランスに百六十餘萬、ポーランドに五十八萬餘を數へ、なほ同民

失地・民族回復の要

族たるオーストリア人六百五十萬の合併問題もあり、また國土としてはエルザス・ロートリンゲンをフランスに與へ、上シレシヤの一部をポーランドとチェッコに割き、西プロシヤの地をポーランドに割讓して所謂ポーランド廻廊 (Corridor de Poland) を形成してゐた。従つてヒットラーがこれらの土地を回復し、住民を復歸せしめてナチスの理想を實現せんとしてゐたことはいふまでもない。

獨逸併合 一九三八年三月十二日ドイツ政府は突如として獨逸併合 (Anschluss) を發表して世界を驚嘆せしめた。これはヒットラー外交の極めて巧妙なる成功であるといつてよい。元來獨逸國民

オーストリアの國情

即ちドイツ民族 (奧國民の九五%) を糾合して大ドイツ帝國を建設せんとすることはナチスが黨綱領の第一條に掲げたる所であり、既に大戰末期の新政府假憲法及びワイマール憲法にも獨系オーストリアはドイツに合併することを規定し、サンゼルマン條約による舊獨逸國の分裂により新オーストリアの工業地帯はチェッコに奪はれ、農業地帯は少く、國民の意氣は沮喪して國家的生存の窮境に陥り、その間にナチス黨が活躍して殆どドイツ領たるかの觀を呈してゐたのである。かくてドルフス首相暗殺事件 (獨逸併合に反對して獨逸政治を確立せんとし、一九三四) の後、一舉にナチス政權を樹立せんとせしを、ムッソリーニが二箇軍團を國境に動員して強硬態度に出でたるため、遂にヒットラーも合併を思ひ止まり、跡には合併反對派のシュシュニクが首相となつた。然るにエチオピア問題以後獨逸協定成立の直前 (一九三六年七月) ムッソリーニの斡旋により獨逸協定が成立し、(一) ドイツはオーストリアの

獨逸協定

ナチス運動の再燃

完全なる主權を承認し、(二) 兩國は内政に一切干渉せず、オーストリアナチス問題を國內問題とし、(三) オーストリア政府はオーストリア國家をドイツ民族中心とすることを根本原則とした。これは表面上オーストリアの主權を認めながら、内實はオーストリアをしてドイツ民族國家を認めしめたもので、ムッソリーニもこれを默認することとなつた。かくてイタリアはオーストリアの存立運動に援助せず、ナチスの運動は益々活潑となり、遂には政府もナチス黨の勃興を制し得ざるに至つた。

ヒットラーの要求

かくて一九三八年二月十二日シュシュニク首相はベルヒテスガーデン (Berchtesgaden) の山莊に於てヒットラーと會談することとなつたが、ヒットラーの態度強硬にして妥協ならず、その結果首相は遂に彼の要求に基づいてオーストリアナチスの政治犯人五千名を釋放し、内閣を改造してナチス黨首領ザイス・イン・カート (Seys-Inquart) を内相兼保安相に、また他の三名の黨員を閣内に列せしめた。これは公然オーストリア内にナチスの活躍を許し、且つその首領が治安警察權を握るものであるから、反ナチス黨の祖國戰線派・帝政派等は大いに驚き、國內の政界・財界に大動搖を來した。従つて首相は三月九日最後の手段として「獨立か合併か」を國民投票によつて決せんことを公布した。これはオーストリア内には多數の獨立派あることを見越し、且つ二十四歳以上のものに投票權を與へて青年ナチス黨員を除外し、一舉にして合併問題を葬り去らんとしたのである。これをきいてオーストリアナチス黨は大いに憤激し、諸所に不穩の計畫を行つて内亂勃發の氣配濃厚と

獨立か合併かの國民投票
ナチス黨の憤激

ヒットラーの
電話通話と内
閣更迭

なり、國境には精銳なるドイツ軍隊が集結すると共に、ヒットラーよりシュニツク首相に對して電話により峻嚴なる抗議をなし、ドイツ政府の提案する首相と閣員とをもつて内閣を組織せしむるにあらざれば軍隊を進軍せしむべしとの期限付最後通牒を發するに至つた。茲に於て三月十一日シュニツク内閣は倒れてインカートこれに代り、インカートは直ちに國內の治安を維持するため獨軍の派遣を乞ひ、國境に集結せるドイツ國防軍は即座にウィーンに進軍することとなつた。かくて三月十二日にはヒットラーが入墜し、インカート首相はこれを國境のリンツ(Linz)に迎へ、その席上ヒットラーは「獨・塊兩國の宿命的結合は何等流血の慘を見ることなく遂行せられ、何れの國と雖も再びこれを割くことが出来ぬ」と述べ、「一民族・一指導者・一國家」(ein Volk, ein Führer, ein Reich)のスローガンが提唱され、インカートもサンゼルマン條約の廢棄を宣言し、獨塊合併して大ドイツ國とその指導者の指揮を仰ぐことを述べた。かくてヒットラーはウィーンに入り、國民大衆の熱狂せる歓迎をうけたが、その滞在中心インカートは、オーストリアがドイツの一州たること、及び四月十日の人民投票により、その可否を國民に問ふこと、爾後オーストリアの政務はヒットラーまたはその委任によるドイツ國務大臣の管掌するところなるを公布し、壓倒的大勝利による人民投票を終つて、獨塊合併は成立することとなつた。これは誠に電光石火的な大成功であつて、ヒットラーの綿密周到なる計畫と巧妙なる外交政策及びその背後にある強力な軍備の賜によるものといふべく、これに對して英・佛・蘇聯が何等の效果的なる外交措置を採る能はず、ただ傍觀するのみなりしは、日獨伊樞軸の如何に強大なるかを實證せるものといつてよい。

獨塊合併の成
立

兩國併合の宣
言

チェッコ國事
情

これを保護領とするに至つた。元來チェッコスロヴァキヤ國には全人口千五百萬(一四、七二九、五三六)のうちチエック人及びスロヴァック人が九百七十萬(六七三、三〇〇)、ドイツ人三百二十萬(二二二、三〇〇)、マジヤール人六十九萬(四七、七八〇)等ありて、ドイツ民族は約二割二分を占め、特にチエッコとドイツとの國境地方に多く住み、この地方をズデーテン(Sudeten)と呼んで工業(鑛業・製鐵・兵器)も盛んで、文化も進み、ハプスブルグ王朝時代には特權支配階級としてチエック人に臨んでゐたのである。然るに大戦後の平和條約によりチエック人の支配をうくることとなりたるがため、大いにその壓制を被つた。従つて彼等はヘンライン(Henlein)を黨首としてズデーテンドイツ黨を組織し、ドイツ人居住地帯の自治を要求して絶えず闘争を續けてきた。而して一九三八年四月ヘンラインがズデーテン黨大會に於て

ドイツ民族歴
迫さる

ドイツ民族とチエック民族との同等待遇、ドイツ民族居住地域の自治、大ドイツ民族主義及びナチス世界觀の信奉自由等を要求してより兩者の衝突は次第に尖鋭化し、トロツバウ(Trotzpaу)・ヘプ(Hep)等の町には衝突・殺害事件等が頻發した。チェッコ國に於てはこれを以てドイツナチスの後援によるとして國防大臣は一年豫備兵・補充兵・特科兵の非常召集を行ひ、また獨飛行機の越境に備へ

ドイツ民族の
要求
衝突起る

ナチス黨の後援

兩派の衝突
鋭化する

て國境線十軒以内の飛行を禁止した。然るに六月中旬には共産黨は益々勢力を加へ、蘇聯の指揮をうけて重要軍需工場を占領し、またチェッコ軍隊憲兵等のドイツ人壓迫は十數件を數へられた。かくて事件は愈々重大化したので、大統領ベネシユ(Benes)はズデーテン黨代表と交渉するところありしも意見の一致を見ずして停頓し、更に國境附近にてズデーテン黨代議士がチェッコ官憲に毆打されたる事件が発生した。ドイツはズデーテンドイツ黨を絶對支持する態度をとり、且つヘンラインとヒットラーとの會見に於て兩者の間に完全なる意見の一致と了解とを見ることとなつた。

かくて同年九月ヒットラーがニルンベルグ大會に於て如何なることありとも絶對にズデーテンを擁護するとの演説をなして以來、チェッコに於けるドイツ人の活躍は極めて著しく、兩民族の衝突は遂に流血の慘を見るに至り、死者二十一名負傷者七十五名を出したので、政府は非常處置法を出して全國の治安を維持せんとした。茲に於てズデーテンドイツ黨は宣言を發して飽くまで自治自決權を要求し、チェッコ政府がこれを拒絶するに於ては、ドイツ國に復歸する旨を明らかにした。チェッコ政府は事態の容易ならざるを知つて豫備兵をも召集して動員を行ひ、ドイツもまた國境に兵を集結して一觸即發の形勢となつた。

チェッコとドイツが戦へば數週間にして了るものといはれた。即ち獨逸合併後、チェッコは三方の國境よりドイツの進軍をうくるため、その運命は風前の燈であつた。けれどもチェッコの敗北は佛英

佛・英の動き

ミュンヘン會談

ドイツの要求
容れらる

二國の默視するところではない。佛はそのために對獨包围陣が崩れると共に、ドイツは益々強大となるため、戦争不可避と觀念して國內の動員を行つた。イギリスもまたドイツの強大は第二の世界大戦を來すものなりと一戦を覺悟するに至つた。しかしながら英首相チェンバレン(Chamberlain)は、最後の望を妥協に託して、ヒットラーを飛行機にてベルヒテスガーデンとゴードスベルグ(Godesberg)に二回訪問し、その眞意を打診して後、佛伊と交渉して九月二十九日ミュンヘンにヒットラー・ムッソリーニ・ダラデエ(フラン)と四巨頭の會談を行ひ、英佛側の大讓歩によつて、ズデーテンドイツ地域をドイツに割讓せしむることとし、十月一日より七日間に亘つてドイツ軍の占據を許すこととした。これによつて一時風雲急を告げ今にも歐洲大戦を捲き起さんとした危険は去つて、佛英國民の愁眉は開かれたが、外交交渉に於ては完全なる敗北であつた。それはドイツの要求を完全に受諾してその強大を助成したためであり、徒らに他國の領土に關する處分を議してこれを小國に強制したることが國際聯盟そのものの自殺を意味するものであり、更にドイツが東方に發展すべき希望を容易ならしめたることであつて、その結果がやがて六箇月を出ずしてチェッコはドイツの保護領となつて現はるに至つたのである。

ドイツに編入したズデーテン地方に於ては、チェッコとの間に紛争絶えず、ドイツも遂に大軍を集結してナチス化を貫徹せんとし物情騒然たるものがあつた。然るにブラーグの中央政府は親獨政策

ドイツの壓迫

チエッコ保護領となる

スロヴァキヤ保護國となる

ドイツの擴大

を放棄し、最も親獨的なりしスロヴァキヤのチソー内閣を瓦解せしめ、排獨派のシドル内閣を組織せしめた。さればドイツは斷乎たる處置に出で、飽くまでチソーを支持してスロヴァキヤの獨立を宣言せしめ、大統領兼首相とした。従つてチエッコは如何とも爲す能はず、遂にドイツに屈服することとなつた。かくてドイツ政府は一九三九年三月十六日ブラーグより總統令を出し、(一)一九三九年三月ドイツの占領せる地方は今後ボヘミア・モラヴィヤ保護領 (Protectrat Böhmen und Mähren) として大ドイツ國に歸す。(二)保護領は自治を享有し、自らの行政を行ふ。(三)ブラーグにドイツ國保護官をおき、總統の代理として總統の政治方針に従ふと公布した。また三月二十三日には、ベルリンに於てスロヴァキヤ代表チソーとの間に條約を締結し、スロヴァキヤ國をドイツの保護下に置き、(一)ドイツはスロヴァキヤの政治的獨立とその領土保全の責を負ひ、(二)何時にてもドイツ軍隊をその領土に入れ、(三)兩國密接なる外交を行ふこととした。かくてヴェルサイユ條約により成立せるチエッコスロヴァキヤ國は、存命僅かに二十年にして滅び、カルパトルテニヤ (Carpat-Luthenien) の一州を除いて、ドイツの保護領及び保護國となつた。そのためドイツは約十萬平方呎の面積と千三百萬の人口を加へ、石炭・鐵・鎳等の天産物、織物・硝子等の特産物、及びブラーグ (Prag)・ピルゼン (Pilsen) 等の工業都市と、スコダ・コクペンダネック等の大兵器・軍需會社を獲得することとなり、更に中歐に於ける國際關係を變更して最大の勢力を占め、なほ東方政策の大進出を見るに至つた。

ヒットラーの偉業

ウクライナ問題

ドイツとの關係

ドイツの要望

これに對して英・佛・蘇聯とも何等效果的外交交渉をなす能はず、爲すがままに委せて默認の形となつた。かくの如く、殆ど武力を用ひずして近世史上未だ何人も爲し得ざりし大事業をなし得たヒットラーの外交政策はまた偉なりといふべきである。

ウクライナ問題

ドイツの東方進出には將來の懸案としてウクライナ (Ukraine) 問題がある。

ウクライナはキエフ・オデッサ等を含むドニエブル川流域の蘇聯に屬する一共和國であるが、歐洲の穀物倉といはるる程に農産(小麦・野菜・果實・甜菜等)豊かに、石炭の埋藏量約六百六十五億噸、褐炭約二百六十億噸、鐵・鎳約八億噸といはるる殆ど無盡藏の地下寶庫を有してゐるのである。従つて現今蘇聯が全力をあげて開發に従事してゐるけれども、ドイツもまたこの地に垂涎措く能はざるものがある。即ち一九一八年一月ウクライナ民族主義者の組織せる中央議會黨が首領ペトリューラ (Petruilla) 指揮の下に獨立軍を組織し、獨逸軍の援助を得て首都キエフより赤露軍を驅逐し、獨立國を立て、その代償として獨逸は農産物・石炭・鐵等を得た。しかし一九二〇年には再び完全に蘇聯の支配下となり、ただ民族獨立運動のみが今なほ執拗に續けられてゐるのである。従つてヒットラーが「我が闘争」中にも帝政時代の海外植民政策を難じ、新東方政策としてロシア及びその隣國をとるべきを主張し、若しウクライナが手に入ればドイツは豊饒の中に浸るであらうと述べ、また東方に強大なるウクライナ國の出現を希望することを新聞に掲げ、ナチス黨間にもこの地の穀物と鐵・石炭を獲得し得れば、

獨・蘇の焦點

ツの經濟資源は全しと唱ふるものあり、更に今回のチェコスロヴァキヤ保護化はこの運動に拍車を加ふることとなつたのである。ここに獨・蘇の最も尖鋭化する外交的焦點がある。而してカルパト・ルテニヤ(ウクライナ人多し)をポーランドとホンガリヤが分割して國境を定めんとしたことに對し、ドイツが強硬に不同意を唱へ、今なほ自治州として残れるは、ドイツがウクライナに伸展せんとする基點を殘すものであると一般に解釋されてゐる。かくてウクライナに於て反・蘇獨立運動が頻々として行はるるにつれて、兩國の神經は愈々昂奮せざるを得ない。茲に蘇聯が極東政策にのみ専念し得ざる理由があり、また日獨防共協定の深き意義が存するものと見てよい。かくして今後の蘇獨關係はバルト海沿岸及びポーランドと共にこのウクライナが重大焦點となつてゆくのである。

メーメル事情

メーメルとダンチヒ バルト海方面に於てドイツはメーメル (Memel) を併合した。メーメルは面積二千三百平方杆、人口十五萬の狹長なる海岸地帯であるが、ヴェルサイユ條約によりドイツ領土たりしものが分離せしめられて自由州となり、リトワニヤ (Lithuania) の管理下におかれて重要な貿易地帯となつてゐるところである。しかしながらドイツ人が多數を占むる地なるが故に、住民はドイツへの復歸を希望し、ドイツもまたこれを歓迎して遂にチェッコ保護領を發表せる直後、メーメル代表の要求に應じて協定を結び、これを歸屬せしむることとした(一九三九年三月)。しかしこれよりもバルト海に於ける更に重大問題はダンチヒ (Danzig) 問題である。この地はヴィスツラ河口

メーメル歸屬

ダンチヒ事情

にある古來有名な貿易港ダンチヒと、その附近千二百平方杆を含む土地であり、全人口四十一萬五千人のうち、その九七％はドイツ人であり、僅かに三％がポーランド人であつて、大戦中まで長くドイツ領たりしところを、ヴェルサイユ條約により聯盟保護の下に自由市を組織せしめ、且つポーランド國に海口を與へんがためこれを同國の關稅區域内におき、その交通系統と外交關係とを管理處理せしむることとした。かくてダンチヒは背後にあるポーランドの輸出入港としてその貿易額はドイツ領時代に四倍し(一年二百萬噸なりしものが、バルト海有數の貿易港となつた。しかし住民はドイツに歸屬せんことを望み、殊にヒトラー出現以來はナチス黨の勢力漸く強く、次第に社會黨

ナチス黨の活躍

共産黨を退け、ユダヤ人を排斥し、かくて一九三八年には反對黨は既に解散して議會は全部ナチス黨員の占むるところとなり、聯盟の派遣する内治外交上の高級委員は排撃され、全市は全ドイツ的ナチス色に彩られ、ヒットラーとドイツ國に忠誠を盡さんとする風が益々高調さるるに至つた。ドイツの宣傳相及びヒットラーが、この運動を歓迎したことはいふまでもない。特にヒットラーは一九三九年四月の國會演說に於てダンチヒを自由市としてドイツの手に復歸せしめ、廻廊通過の道路鐵道を取得し、その代りダンチヒに於けるポーランドの全經濟權益を保護し、廻廊交通線に於て特殊權益を認め、且つ獨・波は二十五箇年間の不可侵條約を結ばんことを主張したが、ポーランドは當然反對の態度をとつた。のみならずポーランドの敗北は佛・蘇・英諸國の望まざるところである。フラン

ヒットラーの要求

佛・蘇・英の援助

英波協定

スは對獨包圍政策の破綻より、蘇聯はドイツの東方政策が自國に波及する關係より、イギリスはドイツの強大が歐洲の均衡を破つて自國に不利を來す關係より、共にポーランドを援助せんとするの地位にあり、特に英の如きは一九三九年四月英波協定を結んで兩國の何れか一方がその獨立を直接または間接に脅威さるる時は、相互に援助すべきことの協定をなし、以てポーランドを激勵してゐる。そのためにダンチヒ問題に對しても一戦を辭せずと強硬なる態度をとつたのである。

東方政策の眞意

かくて防共協定以後に於けるドイツの活躍は主として東歐に向けられたる所謂東方政策 (Drang nach Osten) によつて見らるべく、道は中歐チッコスロヴァキヤと北歐メーメル・ダンチヒよりポーランドにありと雖、目指すところはロシア・中原の大寶庫にあり、茲にドイツが防共協定を重視するの意義と蘇聯を極東に牽制するため日本と協力を必要とする理由があり、防共が排共となりやがて滅共にまで至らんとすることの眞意を見ることが出来るのではなからうか。

植民地返還要求

ドイツはなほこれらの外にヴェルサイユ條約によつて失はれたる植民地の返還を要求してゐる。これは戰勝國が勝手にドイツの植民地を分割せることは極めて不合理であつて、ドイツには何等植民地を奪はるる正當な理由を發見し得ず、而も毎年四五十萬の人口増加に悩み、生産原料、食料品の不足と製産品賣付の市場に悩むドイツにとつて、植民地返還の要求は當然の必要より出づるものと見ることが出来る。現在失はれたる植民地はアフリカに於て百四萬平方哩、太

失はれたる植民地事情

要求と困難

平洋に於て九萬五千平方哩あり、これらの地方は開發も行き届き、文化施設も優れ、且つ物産の豊富なる地方であるが、その大部分は英本國・フランス及び英帝國聯邦によつて委任統治されてゐるのである。従つてヒットラーが國會黨大會に於て機會ある毎に要求し、ムッソリーニもまたこれを全幅的に支持してゐるけれども、ドイツの海軍がイギリスに比して遙かに下位にあり、到底これに對抗し得ざる現状にあるが故に、英佛等はこの要求を重要視せず、ドイツも今は東方政策に専念してこれに全力をあげざる傾がある。しかしながらこれはやがてドイツの眞劍なる要求となつて將來に大問題を投げかくるものといつてよからう。

(三) イタリアの活躍

イタリアは獨伊協定(三一九)防共協定參加(三一九)後、獨伊樞軸として歐洲の外交界に活躍し、或はドイツの東進を助け、或はイスパニヤのフランコ將軍を助けて、全體主義國を勝利に導かしめたが、自國に於てもまたアルバニヤを併合し、チュニス問題を起し、次第に地中海の覇權確立に邁進することとなつた。

アルバニヤ併合

アルバニヤ (Albania) は既に述べたるが如く、一九二六年のチラナ條約によつてイタリアの保護國化せるところである。然るに一九三九年四月に至り、アルバニヤ王室が次第に反伊傾向を示すに至り、ツォーグ一世はユーゴーネラヴィヤと事を構へんとして伊・ユ親善關係を破壊せんとせしこともある。さればムッソリーニは強硬なる態度に出でてアルバニヤ國民の民族的構

地中海進出策

アルバニヤ保護

アルバニア併
合

成を尊重し、イタリアの優先的地位を承認せしめ、而もアルバニア政府が自國の統治及び國防の能力なきを指摘して國王に反省を求めた。けれども國王はこれを拒絶せるため、イタリアは四月六日(一九)遂に出兵して武力行爲に出で、これを完全に占領するに至つた。イギリスは彼が後援するギリシヤにイタリアの進出することを恐れて直ちに軍艦の出動を命じたが、大事に至らずこれを黙認した。イタリアのアルバニア併合は既定の事實といふべく(既に二十年間軍事同盟を結び、一億リラの無利息借款を與へてゐる)既にチラナ條約によりその實權を握れるものなるが故に、今回の舉は單にこれを現實化したるに過ぎざるものといつてよい。しかしながら現實にアルバニアを領土としてそこに軍事・經濟の據點をおくことは、(一)更に東方の南バルカン地方に進出してブルガリヤ・ギリシヤ・トルコへの發展を企圖し得べし、(二)また傳統的政策としてユーゴスラヴィヤに勢力を伸ばしアドリヤ海を自己の湖たらしめんために重要な地點を得たものと見ることが出来るのである。

バルカン進出
策

アフリカ問題 イタリアのアフリカ政策は先にエチオピア占領によつて中東部に廣大なる植民地をつくり、東地中海とスエズ運河・紅海を生命線路となすに至つたが、西地中海に於てもまたチュニス問題をとし、イスパニヤを助けて制覇に邁進せんとするに至つた。

チュニス事情

チュニス (Tunis) はシシリーの對岸にあるカルタゴの故地である。歴史的にはビスマルクがイタリアを味方に引き入れんとして反間苦肉策をとり、佛・伊兩國を離間せしむるためフランスをして

イタリア住民
の不遇

その占領を懲慙せるところで、一八八一年にフランスはアルジェリヤとの國境問題より出兵して遂にこれを保護領となしたから、イタリアは遂に獨塊と結んで三國同盟の一員となつたものである。爾來フランスはその經營に努力し、苛酷なる同化政策をとつたが、その對象となつたものは在住イタリア人であつた。現在イタリア人は約九萬五千を數へ、フランス人の十萬八千と大差なき人口を有しながら、政治上・經濟上・社會上に於て極端なる差別待遇と同化政策とをうけてゐるのである。然るにイタリアはその國策としてアフリカ進出政策・西地中海制覇政策、國民の間にある民族統合運動 (Pan-Italianism または Irredentismo と云ふ) の發展及び歴史的・民族的・文化的結合に努めてゐるため、その當然性から、茲にチュニス問題が燃焼することとなつたのである。一九三八年十一月、下院に於てチアノ外相が植民地問題に論及した時、議員の中から「チュニスを還せ、コルシカを取れ」といふ聲が聞えて議場が昂奮し、それが直ちにバリーに打電せられてフランス政府の抗議となつた。イタリア政府はこれを拒絶したため、兩國の新聞は激越なる論調を以て應酬し、民族の示威運動が盛大に行はれた。越えて一九三九年一月佛首相ダラチエ (Darlatien) がコルシカ・チュニス等を訪問して熱烈なる歓迎をうけ、フランス陸海軍部隊の威容を示し、愛國的演説をなして斷乎たる決意を示したので兩國の關係も一時は大いに緊張したが、その後問題は一先づ終熄の形となつた。けれどもこの反感は兩國政府及び兩國の間から決して拭ひ去ることは出来ない。何となればこれは兩國の互に相容れざる國策

チュニス問題

兩國策の衝突

西地中海を中
心とする佛・
伊關係

の衝突であり、そのためには一國を賭しても戦はざるべからざるものなるがためである。かくして何時かは再燃して爆發すべき危険が包蔵されてゐるものといつてよい。

ところが西地中海を挟んで佛伊間には更に重大なる外交問題が横はつてゐる。それはイタリヤがイ・ス・バ・ニヤに勢力を握ることに關してである。イタリヤがファッシ的なるフランコ將軍を助けてイ・ス・バ・ニヤと交驛し、更に西地中海にあるバレャレス諸島 (Balearic Is.) に軍事的根據をもつことは、イタリヤの空軍海軍を強大ならしめて西地中海の覇者たらしめ、イ・ス・バ・ニヤ・フランス・モロッコ・アルジェリヤ・ジブラルタルを指呼の間に眺めて英佛に最も大きな脅威を與ふるものであるが、就中フランスにとつては (一) 若し西地中海及びイ・ス・バ・ニヤにイタリヤの勢力が伸ぶるときは、從來東部獨佛國境にのみ全力を注いで夢想だもしなかつた西部國境に西伊兩國の脅威を被つて、國防上の大缺陷を暴露するに至るべく、(二) フランスとアフリカ植民地との聯絡を中斷せられてその經濟的・軍事的交渉に一大支障を來すべく、(三) 更にフランスの人口減少のため、將來は百數十萬の植民地部隊を必要とする關係から、その輸送道路を絶たるることもまた國防計畫上大なる苦痛である。従つて西地中海上へのイタリヤの進出はフランスの最も神經を尖らすところであつて、茲に佛伊國際間の重大問題が存在するものといつてよい。

(四) **イ・ス・バ・ニヤの統一** イタリヤと接近してムッソリーニ外交の一焦點となれるイ・ス・バ・ニヤは、三

イ・ス・バ・ニヤの
國情

左右兩派の闘
争

共產黨政府

蘇聯の魔手

フランコ將軍
の跋扈

年間に互る内亂より脱却して愈、フランコ政權の勝利となり、日獨伊樞軸側を狂喜せしめた。元來イ・ス・バ・ニヤは世界大戰後一時リヴェラ (Llivia) 將軍の獨裁政治に歸してゐたが、一九三一年アスナール (Asnaler) 内閣の時共和黨が歴倒的に進出せるため、ブルボン家のアルフォンゾ十三世 (Alphonso XIII) は同年四月十四日退位し、共和派の首領ザモラ (Alcara Zamora) が共和政府を立てて大統領となつた。けれどもそれより右翼派・左翼派の抗争は益、甚だしく、各地に放火・掠奪・爆破・暴動・暗殺等が頻發した。かくて一九三二年にはカタロニヤ (Catalonia) 地方に共產黨政府が樹立され、一九三六年よりは人民戦線派が盛に活躍してイ・ス・バ・ニヤ政府を乗取り、王黨の首領にして政界の大立物たるソテロ (Carbo Sotero) 等を暗殺し、更に到るところに暗殺・襲撃・暴動等が行はれて社會人心の不安動搖は極度に達した。かくてイ・ス・バ・ニヤは完全に赤化してコミンテルンの暗躍甚だしく、蘇聯の魔手に屈服するかに見えたが、茲にフランコ (Don Francisco Franco) 將軍が現はれて右翼派軍人派等を率ゐる國權を回復せんとするに至つた。

フランコは若くしてモロッコ駐屯軍に入り、外人部隊(暗き過去を清算して志願せる外國人の部隊)を編成してその精銳を謳はれ、モロッコの叛亂を鎮定して偉勳を立てたが、本國政府に仕へて後、人民戦線政府のために多くの軍人と共に左遷せられ、カナリヤ群島司令官となつた。その時(一九三六年七月)モロッコに反政府軍(外人部隊長テリヤ中佐が奮起し、フランコを迎ふ)が起つたので、フランコは急遽飛行機によつてモロッコに至り、ラヂオを以て

イスパニヤ全國に騷起の旨を傳達した。これに呼應してブルゴス (Burgos)・セウリヤ (Sevilla) 等に反政府軍が起つた。續いて各地に王黨軍人等がこれに呼應して立つに及んで、フランコ將軍は飛行機にて本國に渡り、セウリヤ放送局から命令を發して軍部獨裁を宣し、全軍を統率して北軍はイルン・サンセヴァスチアン (Irn, St. Sebastian) より首府マドリッドに、南軍はトレド (Toledo) マドリッドの南にある舊都) に向つて進軍した。トレドにては一千の反政府軍義勇兵及び六百の婦女子がモスカルド (Moscardo) 大佐を中心として、市内の一角にある舊王城に立て籠り、猛烈な砲撃、三十回にあまの爆撃にも屈せず地下室の堅壁によつて抗戦し、籠城六十九日にして遂に南軍モロッコ部隊によつて救出せられた。ついで南軍はマドリッドを攻撃したが、ここは蘇聯の援助をうくるため容易に陥落しなかつた。

國民政府の樹立

かくてフランコ將軍は新政府を組織するに當つて、政見を發表し、新政府は全體主義の下に最も權力ある政府を樹立し、カトリック教と協和してイスパニヤの傳統を保持し、蘇聯を文明の敵として絶対に排除することを宣言し (一九三六年九月)、やがて彼はブルゴス (Burgos) に移つて益々政治組織を鞏固にした。かくてフランコは統領となり (一九三七年十二月)、更に一九三八年一月には國民政府を組織してその首相となつた。これをブルゴス政府と通稱してゐる。これに對して政府即ち人民戦線派はマドリッドに本據を置いたけれども、暗殺闘争相ついで動搖極まりなく、イスパニヤ最初の極左共産内閣

カバエロ (Caballo) も内訌のために倒れ、遂には戦況の不利と共にバルセロナ (Barcelona) に移轉することとなつた。

蘇・佛對獨・伊の抗争

この内亂には蘇聯・フランスが政府軍を援助し、獨伊兩國は反政府軍を助けた。特に蘇聯は積極的に援助してそのマドリッド駐在武官ゴレウ (Golev) 少將は、政府軍の總指揮に當つて軍隊を蘇聯化し、飛行機飛行士をも送つてこれを助けた。獨伊もまた武器を供給しフランコ政府を助けたので、イスパニヤの内亂はヨーロッパ戦争の縮圖の如く、勝敗は容易に決せられなかつた。茲に於て一九三六年八月英・佛兩國が主唱して不干涉協定が成立し、武器彈藥軍需品航空機軍艦の直接間接の輸出を禁止することを規定した。しかしながら内面に於ては蘇聯が多數の義勇軍を送つて共産政府軍を援助し、英・佛は不干涉に名を籍りて獨伊の援助を防衛するに努め、獨伊兩國は國民革命の勃發せし年十一月早くも國民政府を正式承認して公然と援助を與ふるに至つた。中にもイタリヤは西地中海を制覇して英・佛に對せんことを目的とし、ファシシ的な國民政府のフランコ軍を援助すること深く、盛に坦克その他の近代兵器飛行機等を供給し、義勇軍として十萬に近き兵を送り、

不干涉協定

なほ政治的軍事的顧問をも多く派遣した。かくして内亂二箇年半に亙り遂に一九三九年一月フランコ軍は猛進して共産政府軍の本據たるバルセロナを攻略占領し、更に三月二十八日には首府マドリッドもその手に收めて完全にイスパニヤの全權を握るに至つた。かくてイスパニヤはフランコ將軍

イタリヤの援助

フランコ側の完全なる勝利

獨・伊勢力の
擴大

の下に全體主義國家となり、同年四月八日には日獨伊防共協定に参加し、國際聯盟をも脱退するに至つた。茲に於てコミンテルンと蘇聯が歐洲赤化運動の第一線と頼んだイスパニヤ内亂は、同國をして骨肉相食み同胞相殺の慘劇を演ぜしめたが、遂に平定して赤色政權は完全に崩壊することとなつた。従つて獨伊の勢力は大いに扶植されることとなつたが、特にイタリアとイスパニヤとの緊密なる關係、即ちイタリアのミノルカ島占領(佛とアフリカとの交通を抑へ、ジブラルタルを制壓し、西地中海の制覇地である)、義勇軍の不撤退、ムッソリーニの前進政策(イスパニヤと軍事同盟を策せんとす)等は英・佛の最も脅威を感ずるところであり、イスパニヤの内亂は治まつても、イスパニヤを繞つて今後伊佛伊英の抗争は益々激化してゆくものと見るべく、ドイツの東方進出と共にイタリアの西方進出即ちバルト海と地中海とは歐洲諸列強勢力の二大焦點としての白熱化せる抗争舞臺となるものといつてよい。

英・佛・蘇の接近

日獨伊の進
出と英・佛・蘇
の接近

舊秩序の崩壊 世界大戰と平和條約によつて成立した舊世界秩序が、日本・ドイツ等の進出によつて崩壊し始め、國際聯盟はその效力を減殺され、ヴェルサイユ・ロカルノ條約による安全保障は次第に崩れ、ワシントン條約の英米優越體制は打破せらるるに至つたが、更に日獨伊防共協定三國の活躍により、獨塊は合併し、チェッコスロヴァキヤは分割され、エチオピアはイタリアの併合するところとなつて、英・佛・蘇聯は焦眉の間に非常なる脅威を感ずることとなつた。特にドイツの進出は、

蘇・佛・英を直接・間接に脅威し、イタリアの進出は英・佛に對し致命的の打撃である。従つて三國は夢寐の間にも安閑たる能はず、或は英佛會談が行はれ、或は英伊・佛獨等の協定・聲明等が發表せられ、他方には軍備を充實しながら次第に英佛蘇樞軸結成へと進展したのである。

イギリスのド
イツ恐怖

英・佛・蘇の危機

イギリスはドイツの進出によつて脅威をうけてゐる。イギリスの傳統的大陸政策は自國を大陸諸國の何れよりも優勢を持せしめながら大陸諸國の現状維持を策して一國の特に強大なるを制御し、相互に鬭争せしめてイギリスを窺察する隙を與へざることにある。従つて自國を優越に導くヴェルサイユ體制を維持し、佛・獨・蘇・伊などの一國が特に強大なることを制してゐたのである。この意味から言つて獨の領土併合と軍備擴張には常に神経を尖らし、且つフランス・ポーランド等を支援してその銳鋒を挫くことに努めたのである。のみならずドイツの舊植民地返還要求によるアフリカ及び大洋洲に於ける經濟的混亂と面目の失墜は最も危惧するところである。次にイギリスのイタリアより受くる脅威はドイツよりも更に大なるものがある。イタリアのエチオピア占領は、イギリスの勢力範圍たるエジプトを脅かすのみならず、スエズ・紅海による印度への船路を脅威し、而もアルバニヤの併合によつて、東地中海の制海權を奪はるる時は、マルタの防備が無價値となるのみならず、ギリシヤ・トルコ・イラクの方面への勢力伸展を阻害することとなる。更にイタリアの西地中海への進出は、ジブラルタルの價値を失はしめてイタリアの大西洋進出を自由ならしめ、引

イギリスのイ
タリヤ恐怖

イギリスの日本恐怖

いては本國が脅威をうくることとなるのである。かくの如き地中海上の風雲はイギリスの決して妥如たり得るものではない。更に極東に於ける日本の進出は、支那に於ける經濟的權益の放棄を促す意味となり、印度・馬來半島・濠洲・ニュージールランドが脅威をうくること必然である。かくして大英帝國をめぐつて極東と地中海と北海とに危険地帯の發生を見るに至つたのである。

獨・佛關係

伊・佛關係

フランスの外交上に於ける危機は、對ドイツ・イタリアの間に包藏されてゐる。ドイツとの國境には難攻不落を誇るマチノ要塞線があるけれども、ドイツがオーストリアを併せ、チェコスロヴァキヤを保護下におき、増強せる土地と人口と武器との勢をもつて迫つたことは、その東方國境が正に危険にさらされてゐるといつてよい。のみならずイタリアの勃興は、從來の佛・伊國境に脅威を感ずるばかりでなく、特にイタリアとイスパニヤとの握手は從來夢想だにせざりしビレネー國境に恐るべき強壓を被ることとなり、更にイタリアの西地中海制覇は、フランスとアフリカ植民地との聯絡を切斷さるると共に戰時に必要なるアルジェリヤ兵の動員をも不可能ならしむることとなり、對獨以上に重要な外交的狙上に乗つたのである。しかしフランスは自力をもつて到底これに對抗することが出来ないため、進んでイギリスと親交し、協調協力をもつてこれに當らんとするに至つた。蘇聯は極東に於て日本赤化に失敗し、支那の赤化に稍、成功しながら、再び日本のために排撃され、滿洲その他への極東進出は完全に阻止さるるに至つた。歐洲に於ても大戰直後に於ける獨・伊の

フランスの對策

蘇聯の赤化失敗

日・獨・伊の脅威

赤化に失敗し、更にイスパニヤに於ける二箇年半の赤化擾亂も遂には不成功に終つた。その間にイタリアの東地中海・アルパニヤ進出は傳統的南下政策たるバルカン及び地中海への進出を阻止され、バルト海及びウクライナに對するドイツの進出は、直ちにその心臓部を抉らるる如き脅威をうくるに至つた。これらは何れも過去に於ける蘇聯が世界赤化の魔手を伸ばしたる積惡の報ではあるが、蘇聯としても日・獨・伊に對して何等かの對抗策を講ずる必要のあることはいふまでもない。かくして茲に英・佛の自國本位なる國際機構と蘇聯の主義宣傳による世界擾亂が破れて、逆に日獨伊三國より非常なる脅威を感ずることより、相共に語らひ協同防衛の陣を張らんとし、先づ英佛樞軸が現はれ、ついで英佛蘇樞軸が結成せられんとするに至つたのである。

英・佛・蘇の接近

英・佛の動き

三國の防共協定に關して、イギリスの輿論はこれを世界平和の保障たらずといひ、また何等の新國際情勢を伴はずと見縊り、フランスの輿論は現状に變化なしといひ、本質的に脆弱なりと稱し、または國際ファッショの陰謀なりと批評したが、事實は何よりも雄辯に協定の効果を物語つて、ドイツのオーストリア併合となり、チェコ問題の紛糾となつた。獨塊合併に關して英・佛二國は何等手を施すこと能はず、寧ろ既定の事實としてこれを傍觀するの態度に出た。けれどもドイツの強化が兩國に與へたる狼狽は覆ふべくもなく、一九三八年七月十九日(獨塊合併後四箇月日)イギリス皇帝及び皇后兩陛下がハリファックス外相等を隨員としてフランスを訪問し、上下の熱烈なる歓迎をうけ

英・佛の脅威と接近

英佛會談

たが、これを機会に英佛親善と英佛會談の行はれたことはいふまでもない。即ちイギリスの新聞紙は一齊にフランス政府の周到なる款待振り、國民の衷心よりする歓迎振りを感謝して後、これは英佛間の親交を更に強化し、精神的には英佛同盟以上の價值あることを述べた。のみならず英佛首相は互に友好的書翰を交換して、中歐に於ける對ドイツ策、イスパニヤ問題等に關する兩國の理解と信頼とを高め、一致の態度をとらんことを希望し、ついで英外相等と佛當局のバリーに於ける英佛會談に於て、兩國の提携は一層確實鞏固となり、平和確保工作に協力することとなつた。かくて茲に獨伊に對して英佛の共同戰線が成立することとなつたのである。

かかるところへチッコ問題が尖鋭化してきた。しかしながらチッコの敗退はドイツを再び強化せしめ、英佛の外交政策を崩壊せしむるものなるが故に、英佛は一戰を覺悟して戰備を整へたが、九月二十七日(一九三九)のミュンヘン協定によつてドイツの要求を容れ、相互に協調して戰亂を回避することが出來た。そのために一時歐洲には平和工作が進められ、既に締結されてゐた英伊協定が效力を發生して、エチオピア併合による東地中海の勢力不均衡を調整し、中歐・バルカン・イスパニヤに於ける協調、地中海の平和等に關して友好的關係をとることとなり(同年十一月十六日)、また佛獨は共同宣言を發して、兩國の平和及び親善を確保し、兩國の國境は現に確定せられたるものが決定的のものなることを嚴肅に承認して、ドイツは西部國境に進出する意味なきことを明らかにし(同年十二月六日)、更に英佛

ミュンヘン協定後の列強關係

英佛の軍事協定

會談が行はれて特に國防問題に就いて協議し、イギリス陸軍の相當數に上る大陸派遣(フランソワ)を示唆し、イギリスの空軍擴充後に實施すべきを述べ、後日軍事専門家の間に共同國防に關する細目協定をなすべきを約した(同年十一月二十五日)。これは英佛兩國の軍事協定として極めて注目すべきものといふべく、更に軍事専門委員會に於て、イギリスはフランスを援助するため十九箇師團を準備するとまで噂され、茲にドイツに對する英佛の共同國防計畫は益々強化されるに至り、英佛樞軸は完全なる成立を見たものといつてよい。特にフランスのドイツに對する陸軍、イタリヤに對する海軍が何れも劣勢なることより、外交交渉に於ては英佛共同の形式はとつたが、その實イギリスに縋り、殆どイギリス追隨の形態をとるに至つた。大戰直後の華やかなりし時代に比べて、フランスには著しき衰落の兆のあつたことは見逃がせない。

英佛蘇樞軸の態勢 一九三九年一月イスパニヤのバルセロナ陥落は、共產政府軍を助けたる蘇

佛英の敗北であつたといつてよい。蘇聯は佛英の干渉を難じ、佛英は獨伊の援助を批難したけれども、事實は如何とも致方がなかつた。それよりもフランコ政府の勝利によるイタリヤのイスパニヤ進出は、西地中海を中心として彼等の生命線を侵すものであつた。従つて何時までもフランコに反對してイタリヤの進出を傍觀するよりも、進んでこれを正式承認すべきであると考へ、イギリスは二月二十七日(一九三九)フランスもまた同日これを通達した。これは次第に平和的・經濟的にイスパ

列國のイスパニヤ承認

ニヤを懐柔することにより、イタリヤの勢力と抗争せんとする執拗な意圖を有するものである。ついで三月十六日(一九一九)、ドイツはチェッコを保護領としスロヴァキヤを保護國とし、更に三月二十日にはメーメル地域を歸屬せしめた。これは英佛のミュンヘン協定に於ける軟弱政策の結果であり、そのためにポーランドは異常なる衝動をうけ、蘇聯はウクライナを顧みて脅威を感じ、英佛はヴェルサイユ體制の崩壊とドイツの強大とを見て自國への危険と歐洲平和の破壊とを恐れた。従つて茲から生れ出たのが英波協定であり、英佛蘇會談の成立である。英波協定は四月六日(一九一九)に調印せられたるものといはれ、兩國政府は永續的且つ相互的協定を結ばんとし、茲に暫定的に兩國の何れかの一方の獨立が直接または間接に脅威をうけたる場合は相互に援助すべき旨を規定したものであり、このためにイギリスはポーランドの獨立を保障し、その侵略をうくる場合にはこれを援助すべき義務を負ひ、以てヴェルサイユ體制を維持せんとしたのである。ポーランドがダンチヒ問題に對するドイツとの交渉に於て、頗る強硬なる態度に出たこともこの理由に基づくものといつてよい。英佛蘇會談は四月十四日(一九一九)英外相が駐英蘇聯大使を招致し、佛首相が駐佛蘇聯大使を招致して交渉を始めたものであつて、獨伊に對する英佛蘇の三國同盟提唱である。即ち三國のうち何れか一つが第三國より攻撃をうけたる場合、またはフィンランドより黒海に至る東歐諸國及び英佛側が重大なる利害關係を有する西歐諸國に對して攻撃が加へられたる場合、これに對して相互

英波協定

英佛蘇會談

に援助することを約せんとするものであり、換言すれば三國の何れか及びリトワニヤ・ラトヴィヤ・エストニア・ポーランド・ルーマニヤ等の東歐諸國及びオランダ・ベルギー・スイス・イスパニヤが侵略を

三國の利害關係

交渉渉らず

うけたる場合相互に援助せんとするものであり、獨伊兩國を包圍してその進出を防衛せんとするための廣汎な相互援助同盟である。けれどもこのことは極めて重大事件であり、今後歐洲に何等かの外交的紛争あらば、三國はみなこれに關係する義務をもつものであり、且つ蘇聯はトルコをもこれに含めんとしてイギリスに嫌はれ、また極東國境の日滿支をもこれに加へんとしたが英佛が賛成せず、自らもまた利害關係少き西歐諸國に交渉をもつことを肯んぜざる傾向あり、會談は遅々として進捗しなかつた。けれども蘇聯を直接目標として進む獨伊防共協定に對しては、英佛と協力することを得策とするものなるが故に、英佛蘇樞軸は何等かの形に於て成立し、やがて軍事同盟にまで發展するであらうと一般外交消息通の間では考へられてゐた。

アメリカの態度

アメリカに對して日・獨・伊の防共協定國は最初何らの敵性をもつてゐなかつた。然るにアメリカはその國民の自由主義國への同情と、全體主義國に對する政治的・感情的反感、及び太平洋極東政策に對する自己的打算から、常に英佛を助けて日・獨・伊を排斥せんとした。

三國防共協定に關するアメリカの輿論は、これを以て民主主義の敵なりと稱し、持たざる國の持つ國に對する共同戦線なりといひ、その要求は過大なるが故に満足せしむるに由なしとて反對した。

防共協定に對する輿論

英・佛への援助

従つてドイツのオーストリア合併には嚴正中立を標榜したが、その後は次第に英・佛の援助に傾き、一九三九年初頭には「アメリカより出來得る限りの援助を得ざればフランスはドイツ空軍に對して防戦し得ず」といふ佛大使の申出により數百臺の飛行機を賣り渡したが、その祕密暴露によりて了解を求めんとせし上院陸軍委員會にて「アメリカの國境はラインにあり」と説明して物議を醸したといはれ、更にドイツがチェコスロヴァキヤ保護を斷行した後に、ルーズヴェルト大統領は對獨覺書を發してその武力行使を難じ、正義・人道・道德によつて國際關係を正し、非脅威國たることを希望したが、これは獨伊の猛烈なる反對をうけた。しかしながらそのためにアメリカの外交方針は「武力を用ひざる範圍に於て、英・佛その他の自由主義國に最大の援助を與ふる」ものなることが闡明され、茲に有形・無形に英・佛の背後には必ずアメリカの存在することが明らかとなり、また英・佛も努めてこれを誘引せんとする態度に出た。

英・佛の背後にアメリカあり

我が國に對する非友誼的態度

かくてアメリカは我が日本に對しても極めて非友誼的な態度に出た。これは既に述べた如く、日本の興隆がアメリカの太平洋及び極東政策と衝突するためであつて、歐大陸にはモンロー主義をとるアメリカが極東に對しては容喩干渉して事毎に反對せんとし、支那事變以來常に日本を誹謗して止まざるは勿論、軍縮條約廢棄後例へば一九三九年度に於ては四萬五千噸級主力艦二隻を建造する外、四十一箇所の海軍根據地と、太平洋中十六箇所の航空根據地、グム島の防備等を計畫し、以て日

アメリカの敵性

ミラノ會談

獨・伊の軍事的協定

本に當らんとし、更に支那事變に對する日本の戰闘力・經濟力を滅殺せんがために、對日武器・軍需品の輸出禁止、中立法の發動等を策し、一九三九年七月には遂に日米通商條約の廢棄を通告し來つた。これは明らかに我が國に對して敵性を有するものといふべく、以て我が聖業を妨害せんとしてゐるのである。なほかかることは既にドイツに對しても通告したものであつて、アメリカが日獨伊樞軸に對する共通的な態度といつてよいのであるが、特に我が國には威嚇的態度をとつてゐるのである。

日獨伊樞軸の強化 英・佛・蘇に對して獨伊兩國はミラノ會談を行つた。即ち英佛蘇會談が開始されて間もなく、五月六日(一九三九)獨伊外相は、アメリカの後援により英・佛兩國が實行しつつある獨伊樞軸包圍政策に對處するため、兩國の緊密關係を更に一層實質的に明確ならしむるため協議し、そのコミュニケを發表して「本會談に於ては現下の一般政情を詳らかに検討して後、改めて獨伊兩國政府の完全なる意見の一致が確認せられ、樞軸兩國の關係を政治的及び軍事的協定を以て決定的に規定するに決した」と公表した。これは既に發表せられた英佛軍事同盟に對抗するものであり、獨伊樞軸が茲まで到達すれば、最早如何なるものも破棄し得ざるほど緊密な結合と強力な國際集團とが成立せるものといつてよい。この協定の結果、獨伊は東北歐及びバルカンに於ける英佛の牙城に對抗し得べく、またこれらの地に於ける紛争の激化はやがて兩樞軸を軍事的行動にまで誘導すべき可能性が極めて濃厚となるに至つたのである。

日・獨・伊の經濟的提携

日滿伊三國通商協定

日獨通商假協定

三協定による三國提携の強化

日・獨・伊三國は更に經濟的結合を緊密にした。獨・伊間に於ては既に獨塊合併のありし直後（一九三八年五月）、兩國代表者間に於て貿易・財政・海陸交通等の各般に互る通商協定が調印せられた。これは從來兩國間に存在せし種々の經濟問題を一掃して、兩國將來の對外通商關係に模範を示すものであるといはれ、經濟上に於ける獨伊樞軸の強化を圖るものとなつた。また日・伊兩國に於ても、ついで滿洲を加へたる日・滿・伊三國通商協定が成立し（一九三八年七月）、日・滿兩國とイタリヤとの貿易を一對一の求償の基礎に於て増進し、且つその均衡を計らんとした。更に日・獨兩國に於ても翌年（一九三九年）七月日・獨通商協定の假調印を行ひ、ドイツよりは戰時平時を通じて必要なる軍需並びに生産力擴充資材の供給をうけ、ドイツに對しては水産物・農産物その他の重要物資を豊富に供給することとした。茲に於て三國間には最も實質的なる經濟的依存が成立し、盟邦關係は愈々強化さるるに至つた。

かくして日・獨・伊三國に於ては防共協定によつて政治的・外交的關係が鞏固にされ、文化協定によつて兩國の精神的・國家的・文化的理解が深化され、通商貿易協定によつて實質的なる經濟關係が最も強く結合され、この三協定を巧みに緝ひ合はせて三國は最も密接なる相互の扶助協力をなすに至つたのである。これは現代に於ける最も強靱なる國際集團であり、また最も強力なる外交ブロックである。三國は共に旺盛なる國民精神と潑刺たる民族力を持ち、國情・國民生活・文化・經濟等にも共通するところ多く、共に防共の一線に於て共通の利害關係を有し、共に舊國際機構に反對し、これ

二大國家群の對立

世界戰爭の危機

獨・伊對英佛の對立激化

を破棄して世界の新秩序を構成せんとしてゐるのである。これに對立するものが英・佛二國を主として米・蘇を加へた四國樞軸であることはいふまでもない。彼等は過去の強大と横暴から、世界に莫大なる植民地を擁して到るところに勢力網を張り、それらを聯繫して所謂自由主義國の國際ブロックを形成し、聯盟の國際機構によつて自國の地位を安固にせんとしてゐるのである。その不合理なる國際集團を破壊せんとしていま各地に國際問題が起りつつある。東洋に於ては日本が赤化の魔手を撃退し、英・米・佛の經濟的妨害を排除してゐる。歐洲に於てはバルト海とバルカンと地中海とイスパニヤとに一觸即發の危機を孕んでゐる。その根源は日・獨・伊樞軸が英・佛・米・蘇の舊機構を是正せんとするために起されつつあるものといふべく、従つて東西兩洋何れの一角に起る紛争も、それらはやがて世界的波紋を描いて相互に深き關聯をもつのである。いま極東に於ては新秩序建設のための聖戦が行はれ、日本が壓倒的大勝利を博して防共國のために萬丈の氣を吐いてゐる。歐洲に於てはアメリカに援けられ蘇聯を引き入れんとして英・佛が軍事同盟を結び、獨・伊がまたミラノ會談によつて軍事同盟を結んだ。兩ブロックの衝突すべき地點は東・南・西・方・到・るところに介在してゐる。歐洲の天地は何時第二の世界大戰が勃發するやも測られざる状態におかれてゐるのである。

第七章 世界の現情（下）

ヴェルサイユ
條約の裏面

○國際關係の急迫 一九三九年九月三日、イギリスの首相チェンバレン (Chamberlain) が、ラヂオを通じてドイツと交戦状態に入る旨を宣したことは、現代歐洲の國際關係を破局に導いた直接第一聲と見ることが出来るけれども、その源は遠く二十年前のヴェルサイユ條約と國際聯盟にあり、重慶を被りたるドイツの憤起と勃興がこれを摘發したものといふことが出来る。いふまでもなく、ヴェルサイユ條約は戰勝國英・佛を中心として締結され、その新國家設立・新國境決定も表面上は民族主義・自由主義を標榜しながら、裏面に於ては獨逸露の勢力を殺ぎ、英・佛の國際的地位を確保せんとするものであつた。即ちチェコスロヴァキヤ・ユーゴスラヴィヤの新設及びルーマニヤの膨脹は前者がオーストリアの解體を、後者が蘇聯の南下防止を策しながら、共にこれらと提携することによる英・佛の優越を確保し、ポーランド・リトワニヤ・エストニア・フィンランド等の新設は、蘇聯の弱體化とドイツの包圍態形を策せんとしたものであつて、國際聯盟を舞臺としてこれらの諸小國と提携し、以て英・佛が歐洲外交界を支配する機構を形成してゐたのである。従つてそこには歴史上政治上國民感情等より見て多くの無理があつたことはいふまでもない。徹底的に抑壓されたドイツに悲憤の恨があり、顧みられざるイタリヤに滿々の不平があることは勿論、オーストリア・チェコ・ポーランド等のドイツ人は本國に併合されんとする希望あり、特にただポーランドのためにドイツと絶縁せしめられたダンチヒ等は最も強き不平を抱いてゐた。これらのことに促されてヒトラーを中心とする

國際聯盟の欺
瞞

各國の不平

獨逸の奮起

ドイツの外交
的勝利

るナチスドイツが奮起し、防共協定を媒介とする獨逸樞軸が結成せられて、國際聯盟を舞臺とするヴェルサイユ體制の破壊に向つて挑戦することとなつたのである。これは確かに英・佛外交陣營の恐るべき強敵であつて、そこに既に述べたるが如き華やかなる外交戦が展開された。けれどもドイツがオーストリアを併せ、チェコスロヴァキヤを保護化する鮮かな現實的成功の前には、會議と協定による紙の上の交渉は何等の効果をも齎らさず、結局ドイツの勝利と英・佛の敗北を意味するものでしかなかつた。従つてダンチヒ問題に對して英・佛は再び紙上協定の失敗を繰り返さざるやう、十分なる用意を必要とするに至つたのである。

○ダンチヒ問題

ダンチヒはヴィスツラ (Vistula) 河口にあるハンザ同盟時代以來の自由貿易港

ダンチヒの地
位

で、一二〇〇平方軒、人口四十二萬の都會であり、ヴェルサイユ條約によつて自由市となり、聯盟保護の下にポーランドが貿易權・外交權・關稅權・交通權等をもつものである。しかし人口の九七パーセントはドイツ人であつて、ナチス黨が全勢力を占め、聯盟派遣の聯盟外交委員に對抗してドイツ復歸を叫び、ドイツもまたこれを後援してゐた。然るに若しもダンチヒがドイツに復歸する時は、ポーランドはその外港を失つて大打撃をうくると共に、やがては西プロシヤの廻廊地帯を奪はれ、ドイツの侵略は一層強烈となる。のみならずドイツはポーランド進出によつて英・佛側の對獨包圍政策に破綻を生ぜしめ、その東方政策進展によつて國力を益増進せしめ、國際聯盟の面目を潰し、歐洲

同市を繞る各
國の利害

英・佛の對策

英波協定

の勢力均衡を破つて、英・佛に不安を與へることとなる。従つて如何なる犠牲を拂つても英・佛はこれを阻止しなければならぬ。そのためポーランドを後援してドイツに對抗せしむることとし、一九三九年四月英波協定を結んで「その獨立を何れか一方が直接・間接に脅威せらるる時は、兩國は相互に援助する」旨を約した。更に英・佛は一方に於て對獨政策を強化すると共に、ドイツの東方進出を恐るる蘇聯を引き入れんとして、英・佛蘇會談をモスコウに於て行ふに至つたのである。

英・佛の援助

ポーランドの
強硬策

然るに一九三九年七八月の頃より、ダンチヒ問題は次第に悪化し、それと共に獨波關係は次第に緊張するに至つた。即ちこの頃イギリスは八〇〇萬磅、フランスは六億法の借款をポーランドに提供して軍需品を供給することとなり、兩國船舶がグデニヤ港に武器・彈藥の大輸送をなしたといはれた。かくてポーランドは一層對獨政策に強硬なる態度をとり、武力を以てもこれに對抗せんとするに至り、在住獨人を大いに壓迫するに至つた。八月六日にも、ポーランドの元帥スミグッ(Smigly)は武力にかけてもポーランドの都市ダンチヒを確保すると揚言し、諸新聞もまたこれに呼應してダンチヒのポーランド歸屬か、然らざれば戦争かといふ論説を掲げた。これに對抗してダンチヒのナチス黨は大いに憤激し、八月十日にはダンチヒのナチス黨指導者フォルスター(Forster)は直ちに支部大會を開き、數萬の聽衆を前にして歴史的大演説を行ひ、ポーランドの戦争挑發行爲には斷乎たる決意を示し、「戦争は我等に何等の脅威をも與へない。我等は臆病ならんよりは寧ろ死を選ぶであらう。而もダンチヒは決して孤立せず、我等の背後には我等の祖國大ドイツ國と我等の指導者ヒトラー總統があつて、直ちに我等を援助するであらう。我等もまた全力をあげてこの神聖なるドイツ國土に對する攻撃を退け、ヒトラーの命に服してその目的の完遂を期することを誓ふ。我等は抗議的示威のためではなく、大ドイツ國歸屬を祝福するために、再び茲に諸君と相見ゆるの日の近からんことを祈る」と述べ、更にドイツのナチス黨本部に對しメッセージを送つて、十日のナチス大會に出席せる市民二萬はポーランドの軍事的脅威に對して斷乎抗議を行ふと共に全幅の信頼をもつてヒトラー總統に従はんことを誓ふと宣言した。さればポーランドはダンチヒの周邊に攻撃準備を整へ、各地に於けるドイツ人壓迫は益々強化され、かくて兩國國民の神經は益々尖鋭化するに至つた。

フォルスター
の演説

事態重大化する

然るに、かかる兩國の關係を益々悪化せしめたものは、ダンチヒのナチス黨支部大會と同じ日より行はれた獨伊會談である。即ちチアノ(Ciano)・リッベントロップ(Libentrop) 兩外相はザルツブルグ(Salzburg)に會して現下の外交問題に關し隔意なき意見の交換を遂ぐることとなつたが、就中ダンチヒ問題についてはポーランド政府の積極的行動により情勢が著しく悪化しつつあるため、ドイツはこれを速かに解決すべく最後の態度を採らざるべからず、そのためイタリヤはドイツを支持してその復屬を承認せんとする好意を示し、而もポーランドの挑戰が英・佛と呼應して獨・伊を

ザルツブルグ
の獨伊會談

持してその復屬を承認せんとする好意を示し、而もポーランドの挑戰が英・佛と呼應して獨・伊を

獨・伊の共同
發表

イタリヤの態
度

ドイツの態度

ダンチヒ問題
の紛糾

敵とするものなることを批難して兩國一致の下にこれに對處せんとする傾向を見せ、かくて會談は益、順調に進展して遂に次の如き共同コミュニケが發表せられた。即ちダンチヒ問題の解決は現下の政情に應じて速かに解決を要すること、獨・伊兩國ともダンチヒが歴史上、民族上に於てドイツ領なることを確認し、更に英佛の煽動、ポーランドの抵抗等により不測の重大結果を招來する時は兩國は完全に一致の行動をとること、好んで武力を用ひざるもポーランドの態度や英佛の出様如何によつてはその必要あるやも測り知るべからず、その場合は共同動作をなすことの諒解が成立したと宣言した。かくてチアノ外相がローマに歸つて後、ドイツが武器をもつて立たざるべからざる場合、イタリヤは先づドイツに對して好意的中立を守り、更に事態が悪化して英佛が干渉し戰爭に訴へんとする場合は、即時ドイツ側に加擔して共同行爲をとるに決したといふ意味の談話を發表した。従つてこの時既にドイツの決意は固く、國境には大軍を集結して命令一下直ちに進撃し得る態度をとるに至つた。かくてダンチヒ問題は遂に獨波戰爭にまで及ばん形勢となつたのである。

かかる情勢の逼迫を見て、ダンチヒ駐在の國際聯盟高等辨務官ブルクハルト (Burckhardt) は大いに奔走するところがあつたけれども、獨波兩國の強硬なる態度によつて成功せず、四國會議(ヘン會議の如く獨・伊・米・佛の四國)を開かんとする説もポーランドの拒絶によつて立消となり、それと共に英・佛兩國も事局の益、重大化を知つて眞劍に對策を講じ、その解決に苦慮することとなつた。かくてイギリス

英の兩道外交

英・佛外交の
失敗

三國會談進ま
ず

獨蘇通商協定

は一方に於てポーランドに對し現に行はれつつあるポーランド・ダンチヒ會談が國境に於けるドイツ軍二百萬の脅威の下に開催されつつあるけれども會談不調のためにこれが導火線となつて歐洲大戰が惹起さるることなきやう深甚の注意をなすべきことを希望し、更にまた他方には英佛蘇會談を督促して外交上より英佛陣營を有利に導きその結果として對獨・ダンチヒ問題を平和裡に解決せんと計つた。然るにこの英佛蘇三國會談中突如として獨蘇不侵略協定の締結が發表されたので英佛外交は完全に失敗し、茲に英佛側は愈々ドイツに對し一戰をなすべく最後の肚を定むるに至つたのである。

獨蘇不侵略協定の成立 モスコーに於て開催された英佛蘇會談は遅々として進捗しなかつたが、次第に形態を整へて七月末には蘇聯の要求により政治會談と並行して軍事會談をも行ふこととなり、英佛ともに國防軍事委員を送つてウオロシロフ (Wolostov) 將軍と八月十一日第一回會合を行つた。しかしその内容及び進行状態については一切外部に發表されなかつた。然るにこれらとは全く反對な事實が八月二十日に至り發表せられた。それは獨蘇通商協定が十九日ベルリンに於て締結せられたといふことである。從來獨蘇間の通商關係は大戦後次第に好調に向つて一九二五年には總額七億七千萬マルクに達してゐたが、ナチス政權出現以來急激に減退して一九三五年には二億五千萬マルクとなり、引續き低調を續けてゐたのである。けれども兩國間には蘇聯がその重工業政策及

協定の内容

び軍需品に對してドイツの機械工業・化學工業に期待すること頗る多く、ドイツもまた蘇聯の石油農産物等に多くの望をかけ、従つて兩者の間には提携すべき可能性があつた。ただナチスの防共政策及び蘇聯の反獨政策がこれを阻止してゐたのである。然るところ今回突如としてドイツは期限七箇年五分利附二億マルクの借款を許し、それだけの商品を蘇聯に提供すると共に、蘇聯は一億八千萬マルクの商品をドイツに輸出すべく協定が成立した。それによつてドイツは蘇聯に對して技術・資本・機械類及び特に蘇聯の重工業設備及びその運営を助け、蘇聯は鐵・石油・農産物及び工業用原料資材をドイツに輸出せしむるものであつた。これはドイツ經濟外交の一大成功であり、英・佛・米等の通商代表を出し抜いてこの協定を成立せしめたことは列國をして茫然たらしむるものがあつた。のみならず更に英・佛を愕然たらしめたものは、かくの如き經濟提携は從來の國際情勢より見てそこに政治的提携の可能を意味するものたることであつて、これによつて對獨包圍陣及び三國會談に多大の障害を來すことを懸念した。而も獨蘇兩國の新聞紙が共にこの通商協定によつて更に政治外交關係にも好結果を齎らすであらうと論じたことに、益、その神經を尖らさざるを得なかつたのである。

然るに更に驚くべき事實がその翌日發表せられた。即ち二十一日午後十時二十分、ドイツ政府は突如ラヂオを通じて今回獨蘇兩國間に不侵略協定が締結されることに決定し、そのためリップペン・ロップ外相は飛行機により二十三日モスコウに赴き、同條約の正式調印をなすであらうと放送した

經濟提携の次に政治提携

不侵略協定成立の發表

蘇聯の求むる所

ドイツの求むる所

ことである。蘇聯もまた兩國政府がかねて意見の交換を行つた結果同協定の成立せる旨をその機關紙によつて發表した。これは正に驚くべき歴史上の大事事件である。これまで兩國は全體主義と共產主義との思想的對立から互に批難排斥し、氷炭相容れざる關係に於て惡化の一途を辿つたが、かくの如く掌をかへして親密關係を結ぶに至つたことに關しては、そこに何等かの十分なる根據がなければならぬ。これを蘇聯にしてみればドイツは元來科學と工業と軍需品の發達せる國であり、蘇聯の重工業と軍需資材特に機械化部隊の充實にはドイツの援助なくしては到底不可能のことといふべく、そのため蘇聯の經濟的・軍事的發展のためドイツを迎へたのである。また外交上に於て英・佛は人民戰線を敵視してこれを彈壓せるのみならず、ミュンヘン會談以來蘇聯を遠ざくる傾向あり、更に兩國とはバルカンに於て衝突する運命にあり、且つバルト海沿岸及びポーランドの失地回復をなすためには英・佛と敵對せざるべからず、従つてドイツに接近するを得策としたのである。次にドイツに於ては若し英・佛を相手として戰備を整ふる場合、經濟上及び軍需資材獲得に於て蘇聯と結ぶことは極めて有利であり、而もポーランドと戰爭し更に英・佛と戰ふ場合、蘇聯が敵國に廻るよりも味方となることが不利なる二面作戰を一面に止むるものなるが故に遙かに有利なりといふを得べく、そのためバルト海沿岸・ウクライナへの進出を一先づ放棄してこれを蘇聯に譲り、ポーランド攻略に満足して主力を對英・佛政策に傾注せんとしたものである。かくして蘇聯と結べば、無言のうちに英・佛及

びポーランドを威壓して、或はポーランドをオーストリア・チッコ等の如く無血併合し得るか、或は譬へ戦争するとも今後の歐洲外交界に大勢力を得るに至るのである。従つてこれはドイツにとつて一國の運命を左右する死活問題といふべく、そのため仇敵關係を捨てて一夜のうちに盟邦となるの離れ業を演じたのである。

協定書全文

獨蘇兩國政府は兩國間の平和を強化せんとする希望に基き、且つ一九二六年四月獨蘇兩國間に締結せられたる中立協約の基本的條項より出發して次の協定に到達せり。

第一條 兩締約國は互に相手國に對し、單獨たると他國と共同たるとを問はず、一切の暴力行使、侵略的行動並びに攻撃を拒否するの義務を有す。

第二條 兩締約國の一方が第三國より軍事行動の對象となりたる場合、他の締約國は如何なる形式に於ても右第三國を支援せざるべし。

第三條 兩締約國政府は將來兩國の共通利害に關係ある諸問題につき相互に情報交換のため、常時協議し接觸を保つべし。

第四條 兩締約國の何れも相手國に直接または間接に對抗する如何なる國家群にも參加せざるべし。

第五條 兩締約國間に諸般の問題につき紛議乃至紛争の發生せる場合に於ては、兩締約國は同紛

議乃至紛争を友好的意見交換或は必要の場合には紛争解決を目的とする委員會の設立により専ら平和的に解決すべし。

第六條 本條約の期限は十箇年とす。但し兩締約國の一方が期限終了一箇年以前に廢棄を通告せざる限り、本條約の有効期限は自働的に五箇年延長されたるものと見做すべきものとす。

第七條 本條約は可及的短期間に批准せらるべきものとし、批准交換はベルリンに於て行はるるものとす。

本條約は調印と同時に效力を發生するものとす。

本條約原文は一九三九年八月二十三日モスコに於て獨蘇兩國語を以て各一通宛作製せられたり。

ドイツ政府代表　ヨアヒム　リップントロップ
蘇聯邦政府全權　ヴァアチスラフ　モロトフ

この協定は兩國政府が軍事同盟を結んで第三國の侵略に對し共同して軍事行動をとるといふ程積極的なものではない。ただ相互間に於て侵略せず軍事行動を行はざること、即ち所謂不侵略關係を結び、第三國との間に於てそれが相手國を攻撃する場合これを支援せずまた相手國に對抗する國家群にも加盟せざることとを約した消極的なものである。しかしながら茲には重大意義の含まれてゐる

協定の内容と意義

第一條の包む意義

ことを見通してはならない。(一)最初に第一條の兩國が互に侵略せずまた軍事行動を起さざることを協定せることは、將來兩國間に於て起り得るかも知れない問題について完全な諒解が成立せることを意味するものといつてよい。即ちウクライナ問題に對してドイツは年來の希望たる侵略とその獨立援助を中止断念せるものといふべく、また當面のポーランド問題に對してもドイツが最後の手段をとる場合、蘇聯との間に分割または境界決定等の如く何等かの默契が成立せるものといふべく、またバルト海沿岸諸小國問題についてもドイツは蘇聯の自由行動に黙認を與へたものと見ることが出来る。而もそれらの場合は直ちに歐洲列國間に大問題を惹起するものなるが故に、對英佛關係を考慮に入れて協定されたものであり、従つてこれは極めて重大な條約であつたといふことが出来る。(二)次に第二條に於て第三國よりの軍事行動に對して第三國を支援せずといふことは、これまで蘇聯が極東または中央アジア等に於て戦ふ場合、その機會を睨つてドイツが蘇聯に侵略することを常に憂慮したのであるが、その危険を除去すると共に、更に第三國を援助せざることを規定し、またドイツが英佛等と戦ふ場合、蘇聯は第三國を援助せざることを規定したのであつて、これは兩國の外交及び作戦上極めて意義深きことといつてよい。(三)また第四條の兩國が相手國を直接間接に目標として敵對する國家群 (Grouping of Powers) に参加せずとは、現實に於てドイツに對抗し英佛米の自由主義國家群が存在して現に蘇聯をもその中に加入せしめんとして、政治的・軍事的三國會

第四條の意義

蘇聯の利點

談がモスコで進行中であり、蘇聯に對しては日獨伊が防共協定を結んで對抗中である。従つて兩國はこの何れもの國家群に加入せざるかまたは脱退することとなる。その結果ドイツは蘇聯が英佛と協定を結んで對獨陣營に加入することを防いだので、外交上最大の成功を得たものといふべく、それが政治上・軍事上及び將來の發展に極めて重大な效果を與ふることは論を俟たざるところである。蘇聯もまた防共協定によつて東西兩方面に敵をうけ、所謂二面作戦によらざるべからざること、最も不利益であつたものを、ドイツと結んでこれを一面化することを得たことは、最も策を得たものであり、而も英佛陣營の侵略をドイツによつて防衛しながら獨りバルト海その他の經營に専念し得ることは、また外交上の大成功といつてよい。従つてこの條項は今後の兩國發展に極めて重大な關係をもつものである。元來ドイツは防共協定の主動者であり且つヒットラーは反共產陣營の急先鋒であつたのであるから、その防共協定國に反して蘇聯と握手したことは、歐洲外交界の複雑怪奇なる一面を暴露したものであつて、また國際信義を無視したことは大いに批難さるべきではあるけれども、ドイツ國家の存立と發展のために斯くせざるべからざる境地に立ち至つたもので、國際上極めて遺憾のことながら、また止むを得ざりしことといふべきであらう。かくてこの協定成立の波紋は遠く我が國にも及んで、平沼内閣の總辭職を來さしめたのみならず、歐洲に於てはバルト海諸國、バルカン諸邦及び英・佛二國にも異常なる衝動を與へ、ポーランド問題は益々紛糾を重ねるに至つ

協定の描く波紋

獨・波關係の
急迫

たのである。

④ポーランド問題を繞る獨英交渉 獨蘇不侵略協定の結果、ドイツの對波政策及び對英佛政策は完全に確立してその軌道に乗つた。従つてドイツは愈、一戦を賭してもポーランドに對して強硬なる態度を持し、以て一舉にダンチヒ問題を解決せんとするに至つた。ドイツは國境に兵備を固めて萬全を期し、その對波行動は數日を出ずして決行さるるであらうといはれ、ポーランド在住ドイツ人にはすべて引揚げ命令が發せられ、ワルソーは實に物情騒然たるものがあつた。ダンチヒ市もまたこれに呼應して自由市參議院はナチス黨支部の指導者フォルスターを市の統領に選舉してポーランドとの絶縁を宣言し、ポーランド軍もまたダンチヒ市の包圍態勢を完了して、茲に全く一觸即發の危機を出現せしむるに至つた。

英・獨交渉

この急迫せる情勢に驚いたイギリス首相チェンバレンは駐獨大使ヘンダーソン (Henderson) を通じてポーランドに關してイギリスは重大關心をもつことを述べ且つ問題の紛糾はやがて歐洲に數箇の戰爭を起さしめ而も長期戦となるの虞ある故に速かにこれを平和裡に解決すべく、獨波間の直接交渉によつて處理せられんことを慫慂した(八月三)。これに對してヒットラーは同問題がイギリスの容喙援助によつて紛糾を重ねつつあること、ポーランドが強硬なる態度を持して盛に同國在住ドイツ人に壓迫を加ふること、従つてポーランドに對しては頗る強硬なる態度を持して戰爭をも敢て辭

ヒットラーの
回答

せずといひ、更に八月二十三日附文書をもつて「余はイギリスに對して常に友好關係を續けたけれどもイギリスはこれを拒否して止まず、而も今日と雖イギリスに對して何等の反感なし。ただダンチヒと廻廊地方とは歴史上、民族上、國家上ドイツの死活問題として當然主張せざるべからざるところであり、而もポーランドの壓迫は到底堪へ忍ぶべからざるものなるが故に、斷乎排撃せざるべからず。更にこの問題に對してドイツは他國の容喙干涉あることを欲せず、イギリスが陰にこれを援助しつつかあるは甚だ遺憾である」旨を言ひ送つた。

英首相の下院
に於ける演説

茲に於てイギリス政府も愈、最後の肚を決め、八月二十四日イギリス首相は下院に於て歴史的重大演説を行ひ、「國際情勢は着々として悪化の一途を辿り、今や吾人は直接戰爭の危機に直面してゐる。英佛蘇會談の進行中獨蘇不侵略協定が發表されたことは吾人にとつて誠に不愉快なる驚愕である。この際イギリス政府が第一に義務とするところは、ポーランドに對するイギリスの義務が何等の變更をうけないことである。吾人は飽くまでもポーランドを援助しなければならぬ。ヒットラーは予に對して東ヨーロッパ地域はドイツが自由に手を伸ばし得る範圍であり、若しイギリスその他が干涉を加ふるならばそれによつて惹き起さるべき戰爭の責任は干涉國にありといつたが、吾人は飽くまで理性(國際的)が解決の道を見出すことを希望する。戰爭か平和かの問題は吾人の決定すべき問題ではない。若しも平和を見出さんとする吾人の努力が失敗して全人類の苦惱と悲惨とを齎らした場合、

イギリスの戦時態勢成る

吾人はその破壊せられたる根本諸原則擁護のため破壊者に對して戦を宣するであらう」と述べた。かくて直ちに駐獨イギリス總領事に對して在獨英人總引揚げの緊急訓令を發すると共に、ロンドンその他の重要都市に燈火管制令を發し、婦女子を地方に避難せしめて敵國の空襲に備ふることとした。ついで二十六日には國防全權法を制定して、皇帝は勅令をもつて公共の安全、國土の防衛、秩序の保全のため參戰を餘儀なくさるる場合、その戰爭目的の有效なる遂行並びに社會生活に必要な物資供給及び諸事業遂行のため必要と思惟する法令を發行し、財産及び企業の徵用乃至統制、船舶航空機等を徵用し得るの權限を政府に與へ、これによつて軍事・政治・經濟・防空及び前線・銃後に互つて總動員體制の計畫實行を期することとなつたのである。

フランスの戦時態勢成る

フランスもまた首相ダラヂエ (Daradiez) は常にイギリスと緊密なる聯絡をとつて行動し、二十五日には英・佛共にポーランドとの間に相互援助條約を締結して、對波援助の決心を固め、ポーランドがドイツ軍に侵略せらるる時は、英・佛共に立つてドイツに對することとなし、國內に於ては二百萬の動員計畫を完成し、更に六十萬の豫備兵召集を行ひ、またブルム (Brun) 社會黨 (Marin) 等の反政府黨首領をも招致して舉國一致内閣を組織し、以て異常なる緊張を示すこととなつた。

かくの如き國際情勢の急迫につれ、世界各國はやがて來るべき大戰亂を未然に防がんとし、平

各國の平和的斡旋

和的調停・斡旋をなさんとするもの出で、アメリカ大統領ルーズヴェルト (Roosevelt) は二十四日ヒットラー總統・モジチスキ波大統領及びイタリア皇帝エマヌエレ三世に對して親書を送り、平和的解決を勸告して調停せんことを述べ、ローマ法王ピウス十三世 (Pius XIII) もヴァチカン宮よりラヂオを以て平和的解決を勸告し、二十八日にはベルギー皇帝レオポルド三世 (Leopold III)・オランダ女王ウィルヘルミナ (Wilhelmina) もまた英・佛・獨・伊・波の五國を加へて國際會議を開き平和的解決を議せんことを提議した。しかし何れも當事國の容るるところとはならなかつた。

最後の獨・英交渉

なほ同月二十七日より三十日にかけて、獨・英間には最後の交渉が續けられてゐた。即ちイギリス政府はなほ平和的解決の希望を捨てず、難局打開の工作をすすめ、ヘンダーソン大使をしてドイツ政府に交渉せしむるところあり、ヒットラーもポーランドの強硬なる態度と不法なる獨人壓迫を批難しながら、獨・英間には友好關係を繼續する用意ある旨を述べ、ヴェルサイユ條約によつて失はれたる植民地返還要求は數年間これを延期し、ダンチヒの復歸と廻廊を通ずる道路建設を條件としてポーランド問題を解決すれば、獨・英間に不侵略條約を結ぶ用意あることをも提議した。これに對しイギリス政府は慎重審議の結果、ダンチヒのドイツ復歸がポーランド及び英佛の忍び得べからざる致命的なものであるから、(一)ポーランドが受諾し得ざるが如き要求は考慮し得ざること、(二)武力を背景としての外交交渉を回避すること、(三)ポーランド援助は既定事實として飽くまで嚴守すること

とを根本方針とし、ドイツに對しては戦闘準備の即時停止を要求し、獨波間に直接交渉を開くことを勧告し、更に獨英間にも懸案解決の用意あることを解答した。イギリスは一方に於て強硬なる態度を持しながら他方に於て妥協協調の意を閃かし、和戰兩様の態度を持し、而も議會に於て和戰の鍵はドイツの出様如何にありと宣傳した。

しかしながらドイツは飽くまで所志を貫徹せんとし、イギリスの申出に従ひポーランドと直接交渉を開かんとし、十六箇條の要求(ダンチヒの即時返還、迴廊地帯は人民投票によつて所屬を決定すること、ゲヂ通を確保すること、迴廊地帯がポーランド領となりたる時は治)を發表し、且つドイツはダンチヒ復歸に鞏固な外法權を有する自動車道路、複線鐵道、道路を建設すること等を發表し、且つドイツはダンチヒ復歸に鞏固な決意を有するが、ダンチヒ獲得の曉はイギリスと不侵略條約を締結する用意ある旨を明らかにし、の國境軍備を益、充實した。かくてポーランドは獨蘇協定の成立以來東西兩國境に大敵をうけて愈、脅威を感じた。さればイギリスは斡旋による獨波交渉會議の不成立を見越して派遣代表を送ること

を濫り、漸く三十一日駐獨大使をしてドイツ外相を訪問せしめたけれども、全權としての資格に缺くるところありとてドイツの拒絶するところとなつた。

獨波獨英佛の宣戰布告 しかしながらこの時既にポーランドは全軍に對して戦闘準備命令を下し、七十萬といはるる軍隊が國境に於て進撃態勢をとつた。即ち三十日午後一時半、首府ワルソーに於ても同令が町の辻々に公布され、市内には防空壕の建設、婦女子の避難準備及び籠城準備が始

交渉益、紛糾

波軍の進撃態勢

波軍越境

獨軍の進撃

ヒットラーの議會演説

められて、慌しき戦闘氣分が漲り始めた。これはポーランドの軍部及び當局が最後の瞬間に於て獨英交渉に和平的空氣が漂ひ始めたことを看取し、先手をうつて英佛の自國援助を確保し、以て對獨強硬政策を強行せんとしたものといはれてゐる。この形勢から翌三十一日午後八時にはその不正規軍が越境してドイツの上シレシャ州グライウィツ(Glawitz)に於て放送局を占據した。このことがヒットラーの對波戰爭を決せしめた最後の動機であつた。

九月一日午前五時四十五分、ヒットラーは國防軍に對し「ポーランドは既に善隣友好關係を捨てて武力に訴へ、國內のドイツ人を壓迫して流血暴虐を敢てせしのみならず、更に國境を突破して帝國内を占據した。武力に對して吾人は武力を以て對抗せざるべからず」と稱して實力行使を命じ、全線に互つて進撃命令が下された。續いて午前七時半ダンチヒに於てはフォルスターがドイツ復歸を宣言し、ヒットラーに電報を以てその承認を求め、ヒットラーは直ちにこれを容認して彼を同市の民政長官に任命した。かくてヒットラーは同日午後國會を召集して演説し、今日に到るまでに於けるドイツの公正なる態度を明らかにし、以て開戰に至らざるべからざりし理由を説いて後、國民を鼓舞激勵して「余もまた一兵卒として前線に赴くであらう。『勝利か死か』が余のモットーである」と述べ、更に外交政策を宣明して獨蘇不侵略條約はドイツ外交上の一大轉回であり、且つ決定的なるものとして今後これを永久に持續すべく、またフランスに對しては領土的野心なく、従つて友好關

係を希望し、而も對波戰爭はイタリヤの援助をうけず獨力にて完遂するの意志を明らかにした。これはポーランド問題に對して蘇聯と完全なる諒解を遂げ、佛伊を渦中に投ぜしめず、専らイギリスを相手とすべき旨を明らかにしたもので、極めて注目すべきものである。

イギリスの對
獨最後通牒

イギリス政府は緊急閣議を開いて後、ドイツに最後通牒を送り、ドイツがポーランドに對して侵略行爲を止めざる時は、イギリスは武力を以てポーランドを援助すべく、従つてドイツはその軍事行動を停止すべきことを要求し、而も期限を附して三日午前十一時までにその返答を求め、同時に午後議會に於てヒットラー政權を打倒せざれば歐洲の天地に平和なきことを強調して戰爭の決意を示し、若し必要な場合に於ては五億磅(我が八十億圓)の戰費を支出すべく可決した。しかしドイツ政府は元よりこの最後通牒を受諾するの意志なく、ラヂオを以て拒絶する旨公表した。従つてイギリス首相チェンバレンはダウニング街首相官邸よりラヂオを以て對獨戰爭を世界に向つて放送した。その中に於て彼は「イギリス政府はドイツ政府に對して直ちにポーランドより軍隊を撤退することの意志表示を今三日午前十一時までに通達せざる限り、兩國間には戰爭状態が存在すべしといふ通告に對し、ドイツ政府は何等の解答をなさざるが故に、當然の歸結として兩國は戰爭状態にあり。平和を勝ち得んとする長き間の余の努力は遂に水泡に歸した。ドイツの武力を阻止するものはただ武力より外にない。吾人はポーランドとの誓約を堅持してこれを保護するの用意をもつ。フランスもまた

英首相の開戦
放送

フランスの開
戦

ドイツの國內
布告

ドイツの戰爭
目的

その誓約を履行すべく、吾人と行動を共にするであらう。諸君もまた戰鬪行爲及びその他の部門に於て各自の任務を遂行せんことを望む。諸君の上に神の祝福あれ。神よ、正義を護り給へ。余は正義の勝利を信じて疑はない」と述べた。フランスもまたドイツ政府に對してドイツ軍がポーランドより撤退せざるに於ては三日午後五時を期し戰爭状態に入る旨を通告し、期限満了後また對獨戰爭状態に入る旨を宣した。ヒットラーもまた同日全國民に布告を發して打倒イギリスのために國民を激勵した。曰く「過去數世紀に互りイギリスの執り來つた政策は、勢力の均衡を名として自國に危険なりと思惟する國家の國防力を喪失せしめ、以てイギリス自身が歐洲制覇の野望を達成せんとする目的のものであつた。過去の大戰に於てもイギリスはヴェルサイユ條約を以てドイツ民族の自滅を來さしめんとするものであつた。従つて吾人の使命はドイツ國民をしてかかる強壓に抵抗して、ドイツ國民のパンと職業とを保障し、且つ平和裡にヴェルサイユ條約を改訂せんとするにあつた。然るにその事業が曙光を見出すや、イギリスは直ちにドイツ包圍政策を始めたのである。而も今やポーランド問題に對しても同一態度に出でんとする。ドイツの正當なる要求と平和的解決に對してそれをイギリスは不可能ならしめんとする。かくして遂に吾人をして止むなく武力行使に訴へざるべからざるに至らしめた。對波戰鬪行爲を起して二日、國軍は勇敢に行動して舊ドイツ領を奪回しつつある。國民はこの聖戰に對して斷じてイギリスの妨害を黙過すべきではない。ドイツはまた斷じ

國民の覺悟

て屈服すべきではない。第二のヴェルサイユ條約を結ぶことは吾人の斷じて承服し能はざるところである。前線も銃後も共に團結してこの大目的に向つて邁進すべし。一たび國民が團結を固くする時、曾つて如何なる敵もこれを打ち破ることが出来なかつた。團結を破るものは國民の敵である。かくて全國民が各、その義務を全うすべく決意する時、神は常に我等と共に在すであらう。」と述べた。チェンバレンとヒットラーの述ぶるところを見ると、その戰爭目的が那邊にあるかを明らかにすることが出来るであらう。

ドイツの作戰計畫

獨波戰況 ドイツの作戰計畫は、第一次世界大戰とは反對に、先づ東方を速かに制壓して然る後西方に轉ぜんとするものであつた。これは西方獨佛國境には堅固なる要塞があつて、戦線膠着の虞あり、故に先づ蘇聯との默契ある東方ポーランドを一氣に征服して、今次英獨抗爭の直接原因となるダンチヒ問題に徹底的解決を與へ、而して後英佛に向つて和戦兩様の態度を以て向はんとした。これはドイツの極めて巧妙なる作戰といつてよい。従つてポーランド戦線に對しては強大なる軍隊と最新科學兵器と快速部隊とをもつて大膽果敢なる行動により即戰即決の戦法に出たのである。

空軍の活躍

最初に空軍が活躍した。即ち優秀なるドイツ空軍は九月一日未明に出動命令をうくるや直ちに大舉出動して全ポーランドの都市軍事施設など十六箇所を空襲し、或は鐵道橋梁の破壊、飛行場の爆撃等を敢行したが、同日午前九時には早くも首府ワルソーの上空に現はれて巨彈の雨を降らせ多大

ドイツ制空權を握る

の損害を與へた。更に四日にはドイツ爆撃機の大編隊が數回に互りワルソーの大空襲を行ひ、またロツン (Lodz) 附近に於てはドイツ戦闘機部隊がポーランドの爆撃隊と壯烈な空中戦を展開して殆どこれに殲滅的打撃を與へた。従つてこの頃よりポーランド空軍は全くその活動を停止し、制空權は完全にドイツの掌握するところとなつた。そのためポーランド地上部隊の行動及び作戰は多大の不便を被るに至り、これに反してドイツ空軍は自由に敵國上空を航行しながら敵情偵察・敵陣爆破・都市爆撃・交通線破壊等を行ひ、地上部隊と呼應してその進撃に多大の貢獻をなした。制空權の獲得はドイツ軍作戰成功の第一歩であつたといつてよい。

機械化部隊の活躍

また地上部隊は快速なる機械化部隊を主力とした。最前線を行くものに重戦車・輕戦車等あり、步兵は精巧なる機關銃を用ひ、更に重砲・迫撃砲・對戦車砲・高射砲等がこれを掩護し、而もこれらはタイヤ自動車・キャタピラー車等に載せて迅速なる機動作戦に適せしめた。殊に強力極まる機械化裝甲部隊は戦車を主隊とした裝甲自動車化部隊と歩兵砲輜重兵及び大砲・彈藥等を載する多くの自動車化部隊とを併せ、猛烈な攻撃力を有する部隊が迅速なる行動の下に敵の背側面を衝いてこれを攪亂したので、ポーランド軍は忽ちのうちに潰滅したといはれてゐる。これらの地上部隊はポーランドの國境に百箇師團二百五十萬人が配置された。かくてその全軍を四箇に分ち、第一軍は東プロシヤの南方に集結してレナウ川・ヴィスツラ川方面に南下し以てワルソーに向はんとするものであり、第

全軍の配置

二軍は西プロシヤの東方に集結して直ちに廻廊地帯に進出し、ダンチヒを確保して後南に轉じ、以てワルソーに向はんとするもの、第三軍は上シレシヤに集結して直ちに東方に向ひ、ロツヅ地方よりワルソーに向はんとするもの、第四軍はスロヴァキヤ地方より北進してワルソーに向はんとするものであつた。即ちドイツはポーランドを北・西・南の三方より包圍進撃して首府ワルソーに向はんとしたのである。而もドイツ軍の戦闘作戦は快速部隊を利用して敵を包圍殲滅せんとするものであつたから、有力な機械化部隊と精巧な科學兵器とを所有せざるポーランド軍は如何に勇敢精銳なりとも策の施しやうなく、到るところドイツ軍のために撃破せらるるに至つた。従つて愈、九月一日の進撃令が發せらるるや東プロシヤ軍は直ちに國境を突破してレナウ河畔に出で、これを渡河してワルソーに迫り、西プロシヤ軍は廻廊地方に突入してダンチヒとポーランド軍との聯絡を絶ち、更に四日にはグラウデンツ (Glaudenzen)、六日にはブロムベルグ (Bromberg) を占領して南に向ひ、上シレシヤ軍及びスロヴァキヤ軍は北方及び南方と聯絡して九月六日には敵の主力軍をポーゼン (Posen)・ロツヅ (Lodz) 附近に包圍する體勢をとるに至つた。かくて九月六日よりの總攻撃に於てはポーランド全軍に大打撃を與へ、七日にはポーゼンが陥り、九日にはロツヅが陥落し、而も八日には四百五十臺の戦車隊がワルソー郊外に殺到し、その一部が早くも城内に突入するに至つた。その結果ポーランド全軍の四分の一は喪失し、十七萬の俘虜を生じたといはれ、ドイツ軍の大勝利に歸し

戦況

ワルソー攻撃

波軍潰滅

た。しかしドイツ軍はなほも追撃の手を緩めず、到るところに包圍戦を展開して殲滅的打撃を與へ殆どポーランド全軍を潰滅せしめた。かくてポーランド政府はワルソーを捨ててルブリン (Lublin) に逃れ、更に九月十七日ルーマニヤ國に遁走し、そこからバリーに向ふこととなつた。かくしてポーランドは支離滅裂の混亂状態となり、ドイツ軍はワルソー・レンベルグその他の各地にある殘敵掃蕩を目標とするのみとなつた。然るに九月十六日夜突如として蘇聯が通告を發してまたポーランドに向つて進撃を開始することとなつたのである。

◎蘇聯の参加とポーランド分割　ドイツ軍がワルソーを包圍し更に進んでルブリンをも攻撃して大體レンベルグ・ブレストリトウスク (Lemberg・Brestlithovsk) 線に進出してきた時、突如として蘇聯が蘇波國境全線に互つて大進出を敢行した。即ち九月十六日夜、蘇聯政府は駐蘇ポーランド大使に對して既にポーランドは獨立國としての存在を失ひたるものなるが故に、蘇波兩國間に締結された既存條約はその効力は喪失せるものと認め、而もポーランドの國情は騒然として秩序混亂せるが故に、蘇聯は自己の權益を擁護し、在波ウクライナ人及び白露人の保護に任ずるため、明日午前六時を期し蘇波全國境に互つてポーランド領に進出するであらうと通達し、直ちに軍事行動を開始するに至つた。全國境七百軒の間に百五十萬の蘇聯軍が前進を起し、何等の抵抗をうくることなく、十八日には既にブレストリトウスクに於て獨蘇軍が握手したので、ポーランドの運命は全く決定的

蘇聯の宣言

蘇軍進撃

蘇聯進出の眞意

となり、かくて二十七日には二十日間籠城を續けたワルソーも遂に陥落するに至つた。茲にポーランド全土は遂に獨蘇の手によつて征服せられてしまつたのである。

ここで問題となるのは何故に突如として蘇聯がポーランドに進駐したかである。蘇聯の進出をドイツが逸早く報道してこれを歓迎し、更にブレストリトウスクに兩軍が握手したことは、兩國の間に既に密接なる聯繫と諒解とが成立せるものなることは言ふまでもなきことであり、それがまた獨蘇不侵略協定の際に爲されたものであることも自明のことである。然らば蘇聯は何故にポーランドに侵入せしかといふに、ポーランドを全部ドイツ領となすことはドイツの勢力があまりに強大となつて、東方發展に益、威力を發せしめ、將來蘇聯の一大脅威となること、主として東部に住む在波白露人約四百萬・ウクライナ人約八百萬の保護に任ぜんとする民族的・國家的見地に立ちしこと、更にこの地方はヴェルサイユ條約後戰爭を生じて一九二〇年には蘇波戰爭を起し、國內事情のため蘇聯が敗れて多くの土地をポーランドに割讓せしところなるが故に、失地回復の意味もあつたのである。従つて蘇聯がポーランド東部を占領するや、ドイツとの間に交渉してポーランドに於ける兩國の勢力範圍を決定することとなり、かくて二十二日兩國の軍事的占領地域はピッサナレウ・ヴィスツラ・サン諸河の線に決定され、ワルソーのみは獨軍の手に支配され、その他の境界以東に進出せる獨軍は漸次西方に撤退することとなつた。この境界線は勿論暫定的のものであつて、これが永久に兩國の

兩國の軍事的占領

兩國軍事的占領の價値

國境線となるものでないことはドイツ政府の發表するところである。しかしながら一時的にもせよこの決定はドイツ側の大讓歩であること言ふまでもない。即ちドイツはポーランドに於てダンチヒと廻廊地帯とを占領し、且つ鐵・石炭・穀物等の産地たる中部・南部及び工業の中心たるポーゼン・ロツヅ等をその手中に收めたることに満足し、東部の廣大なる面積を蘇聯に讓つて速かに時局を安定し、以て蘇聯との提携を固くすると共に、英・佛との西部作戰に全力を傾倒せんとするに至つたのである。そのため蘇聯は殆ど何等の犠牲をも拂はず、而も數日の間に廣大なる地域を占領することが出来た。なほ蘇聯は英・佛が對獨戰備に全力をあげつつある間に、英・佛等が主となつて作り上げたるヴェルサイユ體制の北方に於けるバルト海岸諸國、東方に於けるバルカン諸邦に勢力を伸ばし得ることとなつたのである。かくしてポーランド問題の戰爭的終局によつて、歐洲に二つの大きな新らしき動きが見らるることとなつた。一は英佛對ドイツを繞つて外交上軍事上に於ける活潑な動きであり、他は蘇聯を中心とするバルト海黒海への進出である。先づ前者から述べることとする。

宣戰直後の状態

宣戰直後の異色 今回の獨英佛戰爭は前回のそれに比して多くの點に於て特異な所がある。既に大戰の發端に於て三國は互に相手國に向つて宣戰を布告することなく、何れも自國民に對して戰爭状態に入る旨を宣言することによつて始められた。而も開戰と同時に前大戰の如き敏速な戰鬪行

戰爭直後の動き

爲はなく、直ちに飛行機を以て敵國の都市爆撃と壯烈な空中戦が行はるるものとの豫想も全く外れて、戦闘は極めて緩漫に而もその底流には戦争回避の傾向さへ見え、只管宣傳戦と外交戦とに火花を散らしてゐた。

各國の軍備

ドイツの陸軍

獨・英・佛の戦備 いま開戦當初に於ける三國の軍備について検討して見よう。陸軍に於てドイツは正規兵・ナチス團・突撃隊等を合せて百八十師團二百五十萬人を有し、特に最新研究による機械化部隊に主力を注ぎ、兵器の科學化と機動作戦の敏速化を目標として六千五百臺の戦車に強烈な攻撃力を發揮せしめ、數千臺の装甲自動車に歩・工・輜重彈藥軍需の快速運搬を行ひ、精巧なる機關銃・戦車砲・高射砲・野砲・重砲等を備へ、かくて戦車五百臺宛を有する機甲師團五、戦車二百臺宛を有する輕自動車化師團または戦車旅團・自動車化銃兵旅團・自動車化砲兵聯隊等を有する装甲師團等の新兵器編成による強力快速部隊の精銳を誇つてゐる。これに對してフランスは第一回世界大戰直後に世界第一を誇つたこともあつたけれども、やがて獨・蘇のために第三位に墜ち、新兵器は到底ドイツに及ばずといはれてゐる。而も人員は平時に於て二十箇師團・植民地十箇師團にして四十五萬に過ぎず、戦時動員總數國內六百萬、植民地百五十萬といはれてゐるけれども、ドイツの九百萬に比してまた遜色ありといつてよい。従つてイギリス軍の援助を仰ぐこととなり、開戦後既に十五萬の輸送を終り、更に後續部隊を増加したといはれてゐる。けれどもそのイギリス陸軍は全く微力にして殆

フランスの陸軍

イギリスの陸軍

どその用をなさず、漸く開戦前風雲急なるを見て徵兵令を公布したる如き状態なれば、その勢力は殆ど言ふに足らざるものといつてよい。ただ獨・佛國境には有名なるマジノ線があつて、堅牢無比なる要塞が蜿々として連なり、ドイツ軍の進出を阻んでゐるのである。

マジノ線

その構造

マジノ線 (Maginot) は一九三〇年起工、一九三四年完成の五箇年計畫にて一萬人の労働者を用し、二十九億フランの巨費を投じて竣成したもので、フランスが次第に人口減少してドイツの人口増加と軍備再建に到底追従し能はざるを知り、世界第一の防禦陣を作らんとしてペタン (Petain) 將軍その他の智囊をあつめ陸相マジノが中心となつて築造せる一大地下砲壘である。その構造はルクセンブルグよりスイス國境に至るまでの間、各要所々々には數十基に及ぶ堅固な主砲臺を地下に設け、そこには多數の機關銃座・七五糧大砲・對空砲・擲彈砲・加農砲・觀測所・信號所等を設け、それらは頭部のみを僅かに圓く露出せるのみにて、殘部は深く地中に築き、更に深く六七層の段階を作つて將校室・司令室・軍務室・下士兵室・通信室・電氣室・彈藥室・軍需室・醫務室・傷兵室・食糧室・食堂・休養室等を設け、昇降器を以て各階を聯絡し、更に地下道・軌道車等によつて各主砲臺間も聯絡されてゐる。而も數十にあまる主砲臺の前面には更に支援陣地・抵抗陣地・前進陣地と三重に並列される無数の小砲臺がまた地下に構築され、そこには僅かに地上に現はせる銃砲口より銃砲彈が發射されることとなり、陣地の前面地上には鐵條網・戰車壕等のあらゆる障害物が配置されてゐる。かくしてマジノ線

ジークフリー
ド線

難攻不落の二
大陣地

は深さ十數軒より數十軒に及び、長さ約五百軒に亙る帯状の一大要塞地帯であり、その主砲臺の一つが前大戦に於けるヴェルダン要塞に數倍する堅固さをもつてゐるといふのであるから、誠に世界無比の難攻不落なる築城であるといつてよい。これに對してドイツは一九三六年ラインランド占領直後ジークフリード線 (Siegfried) を起工し、八萬五千の兵力と三十萬の労働者と十萬の労働奉仕團及び多數の工兵を使用して二箇年を費し、獨白國境よりスウイスまで約四百軒の間に地下要塞を構築した。その内容は略、フランスのマジノ線要塞の根本形式と大差なしといはれ、一軒當り四十箇のトーチカがあるといはれてゐる。かくして獨佛國境にはライン川を挟んで二大要塞帯が對立することとなつたので、この要塞の何れか一方を突破するには三百萬噸の彈藥と十萬の兵員を失ふことを覺悟せざるべからずといはるに至つた。従つて西部戦線に於ては開戦と同時にフランスが直ちに國境を越えてザールブリュッケン (Saarbrücken) 地方に進出したけれども、僅かに敵情を偵察するに止まり、ワルソー陥落後獨軍の西部進出により退いてマジノ線を守るに至つた。かくしてその損害があまりに大なるを虞れて兩軍とも敢て進出せず、自ら持久戦として戦線を膠着せしむるに至つた。

各國の空軍

次に各國の空軍を見るに、ドイツは第一線に使用し得る機數約六千臺、英佛は合せて四千臺、第二線の豫備機數はドイツの六千臺に對して英佛合せて三千五百臺といはれ、合計してドイツ一萬二

ドイツの飛行
機

千臺に比して英佛は七千五百臺であり、機數に於てドイツが遙かに優勢である。次に飛行機の性能を比較すればドイツは戦闘機及び爆撃機に重點をおき、イギリスは戦闘機を重んじてゐる。即ちドイツのもつ戦闘機メッサーシュミット一〇九型 (Messerschmidt, 109) 及びハインケル一二二型 (Heinker, 112) は共に平均最大時速五七〇軒、航續時一時間半にて優秀なる性能をもち、爆撃機ハインケル一一一カー型 (Heinker, 111. K) は時速五五〇軒を出して四千四百封度の爆弾を搭載するもの、またドルニエ重爆機 (Dornier) は爆弾二噸を携行して時速五五〇軒を出すといはれ、これらは何れも英佛 (ベルリンよりロンドンまで九三〇軒、ベルリンよりバリーまで八九〇軒) の空襲を睨つてゐる。これに對してイギリスにはスピットファイヤ型 (Spitfire) 戦闘機などあり、八門の機砲を有し、五六〇軒の時速を以て、イギリスに侵入する敵機を盡く撃墜すべく待機してゐる。即ち兩國空軍はドイツは攻撃性にすぐれ、イギリスは守備性にまさり、その國防計畫の特色を發揮してゐる。かくして先づ制空權を掌握するものは海上に於て海軍力を脅威せしむると共に食糧・武器等の輸送に打撃を與へて持久的經濟戦に勝を制すべく、陸上に於ては敵國都市の爆撃を可能ならしむる。しかしながら海軍力を伴はざる海空制覇、陸軍力を伴はざる陸空制覇は未だ完全なるものとは言ふ能はず、例へば地上の都市軍事施設等の爆撃も陸軍力による占領が伴はざれば威嚇または一部の損害に止まり完全な効果はあげ得られないのである。開戦の當初直ちに空中戦の行はれなかつたこともその一因は茲にあると見るべきで

飛行機の攻撃
能力

イギリスの飛
行機

各國の海軍力

あらう。

海軍力についていへばドイツは到底英・佛の敵ではない。イギリスの現有海軍力一六九萬噸三五五隻、フランスは五四萬噸一七六隻、合計二二三萬噸五三一隻に對して、ドイツは僅かに一六萬噸六九隻であり、その一割にも足りない。のみならずイギリスの主力艦ネルソン (Nelson)・レナウン (Lenaun) 等は十六吋砲六門を有する三萬噸級戰艦であつて、ドイツのドイッチュランド號等の豆戰艦に對して最大の脅威を與ふるものといつてよい。従つて開戦とならば北海の制海權はイギリスの手に歸すること勿論であり、ドイツ海軍はバルト海よりカタガット海峡に水雷を敷設し、これを防禦するより外に道がないのである。然るにドイツには潛水艦がある。その現有勢力はイギリス六萬五千噸六三隻、フランス七萬五千噸七七隻であるのに對して、ドイツは一萬五千噸三五隻に過ぎないけれども、祕密に建造せるドイツの潛水艦は極めて多數に上るといはれ、その性能も七百噸級にて約一箇月の航續力を有し、機雷その他の發射にも極めて優秀なるものがあるといはれてゐる。従つてドイツは前回の如く再び潛水艦戰を計畫し、以て敵國の軍艦及び商船を一つ一つ撃沈して打撃を與へんとしてゐるのである。

人的資源の比較

國力の比較 次に三國の戰爭に關して絶對的に必要なる人的・物的資源及び經濟力についての比較を見よう。人的資源について考ふるに、ドイツはナチス出現の一九三三年當時に於て漸く六五二

潛水艦

ドイツの人口

英・佛の人口

○萬たりしものがオーストリア(六七五萬)・ズデーテン(三六〇萬)を加へて七五五萬となり、更にチエコスロヴァキヤ(九六〇萬)を加へまたすべてに互る自然増加を加算して一九三九年には總人口八九三〇萬となつた。その一割を前線に送り得るとしても九〇〇萬の兵員を得るわけである。然るにイギリス本土の人口は四七〇〇萬、フランス本國は四二〇〇萬にて合計八九〇〇萬なるが故に二國併せて漸くドイツに匹敵し、一國のみにては到底對抗し得ざるものである。しかしながらイギリスの屬領及び大英帝國民四億六千萬、及びフランスの六三〇〇萬を合計すればイギリスは五億一千万、フランスは一億五百萬となる。けれどもこれらすべてより兵員をとり、または銃後の働をなさしむるに至るは容易のことでない。

ドイツの物的資源

次に物的資源について見るに、ドイツの食糧資源は第一次四箇年計畫以來次第に増産されたといへ、なほその主食物小麦は一箇年一〇〇萬噸の不足を來すものであつて、國內自給は望むべからず、漸く蘇聯との協定によつてこれを補給することにより英・佛の海上封鎖に對抗し得るものであり、また工業資源は鐵の六割、石油は七割、その他ゴム・非鐵金屬等を南北アメリカ・中歐諸國より輸入したが、海上封鎖の結果は中歐のポーランド・オーストリア・ズデーテンの鐵、ルーマニヤの鐵・石油、蘇聯の石油に望をかけ、更に從來の貯藏と石炭液化、人造ゴム等によつてこれを補給すべく、また國內工業は從來の工場に加へてポーランド・チェッコ等の重工業工場・軍需工場を増し、更に代用品工

英・佛の物的資源

業・化學工業の發達と相俟つてその自給自足に躍進してゐるのである。これに反して英・佛側に於て、イギリス本國には食糧と工業資源なく、フランスには工業資源を缺くけれども、海外にもつ廣大な植民地に於ける豊富な資源と、海上權の把握による世界貿易の自由により、食糧・石油・ゴム・非鐵金屬軍需資材等を得べく、この點に於て非常なる強味を有するのである。

ドイツの金融財政

次にまた金融・財政的資源について見るに、ドイツは極端に逼迫して國內流通高一〇〇億マルクに對して正金保有量は僅かに七千七百萬マルクに過ぎず、従つて對外決済はクレヂット設定による外債に求むるか、または輸出によつて補填するより外に道なく、この點に於て戦時となれば外國貿易及び外國よりの物資獲得は大いに困難を感ずるところである。従つてドイツは既に數年前より統制經濟によつて國民の經濟活動を國家的見地より統制すると共に、金融統制を行つて資金の統制、爲替管理等を行ひ、國內に於て正貨準備なくとも、紙幣流通のみによつて經濟運営を行はしめ、國外への正貨流出を防止し、國際貸借の均衡を保つやう適當なる統制管理を行つてゐるのである。従つて長期戦となりたる曉は、物と金との兩方面に於て經濟的破綻を來すべき危険少からず、ドイツの最も努力するところであり、また最も憂慮するところである。これに反してイギリスに於ては一九三九年三月の正金保有量五億九千四百萬磅(我が百億九千八百萬圓)と退職金三億五千萬磅(我が五十九億五千萬圓)ありと推定され、而も南アフリカ・濠洲・カナダ等よりの年産額は全世界の半を占めて一億五千萬磅(我が二十五億五千萬圓)といは

イギリスの金融財政

フランスの金融財政

れて毎年イギリスに補充されることとなり、この點に於て最大の強味を有するものといつてよい。フランスはまたフランス銀行所有の金塊八七〇億フランといはれ、世界第二位としてアメリカに次ぐものであるから、政府の財政的破綻はなく、また民間の財力も多額に上り、従つて國債消化力も大きく、經濟力は安全鞏固であるといはれてゐる。かくして經濟力を比較するとき、英・佛側は遙かに優越せるが故に、ここに持久的經濟戦によつて最後の勝利を得んとする英・佛側の作戰の根據が窺はれるのである。

戦争の動向

以上の國防力比較により結論せらるる戦争の動向を見るならば、陸軍・空軍共にド

ドイツの總力と即戦即決策

イツが絶対優勢を示してゐるが、海軍に於ては著しく缺くところあり、また人的資源に於ては國民精神の旺盛と、戦闘訓練の練達を誇つてゐるが、物的資源に於てその國內生産に缺くところあり、ただ國防國家體制の完備と作戰計畫及び戦争準備の整備とは完全に英・佛を凌駕してゐた。従つてドイツが開戦すれば即戦即決を企圖することは當然のことといつてよい。これに對して英・佛二國が完全に結合すれば、陸空軍に於ては稍劣るとするも、堅固なる要塞は鐵壁の防禦をなし、海軍力に於ける絶対的優勢は獨の最も缺點とする經濟・軍需の供給を封鎖し得べく、また人的資源に於てはイギリス國民の自由主義、フランス國民の社會主義等により士氣の振はざるところはあるが、由來フランス國民は祖國愛に燃えて勇敢なるが故に、敢てドイツ兵に劣らずと自負し、而も物的資

英・佛の總力と長期作戦

源に於ては海上の制覇と植民地の莫大なること等により最も有利であると見らるるに至つた。従つて彼等は開戦とならばドイツの鋭鋒をマジノ線に抑へて持久戦に移り、經濟封鎖によつてドイツを疲弊せしめんとする策をとるに至つた。

しかしながら宣戦後ドイツは直ちに戦闘行爲に移らず、宣傳戦外交戦に終始した。これは歐洲の冬季が戦争に適せざること、外交上なほ蘇聯・バルカン・イタリヤ等と交渉せざるべからざる點ありしこと、更に十分なる戦闘準備をなす必要ありしによるものと見らるべく、英佛側もまた得意の宣傳によりて自國を有利に認識せしめ、外交によつて第三國を味方に引き入れんとした。かくて一九四〇年三月までは主として宣傳戦外交戦が華々しく展開され、徒らに人心を刺戟して所謂「神經戦」を展開したのである。

宣傳戦 戦争の際に於ける宣傳戦は極めて効果的なものである。それは相手國の歪曲せる宣傳・中傷・譏誣・威嚇・虚構等を粉碎して自國の正しき主張を認識せしめ、また正確なる通信を發して自國の公明正大なることを容認せしめ、または敵國の不正と虚構と弱點とを指摘して彼等を精神的に挫折せしめんとするものであつて、所謂「紙彈(紙の彈丸)」は時に實彈よりも効果を發揮することがあるのである。従つて各國には早くも宣傳省・情報部を設けて書籍新聞紙・パンフレット・通信機關・映畫・ラヂオ・ピラ等を統制指導してゐるのである。即ちここではあらゆる發表機關を監視して消極的には新聞・

宣傳戦と外交

宣傳戦の效果

宣傳省・情報部

ドイツの宣傳省

イギリスの情報省

雑誌・出版物の檢閲統制または對内外ニュース・ラヂオ・文書等の檢閲禁止を行ひ、積極的にはニュースの提供、ピラ・ポスター・出版物の利用または發行をなしてゐる。ドイツの宣傳省に於ては嚴重なる出版物の檢閲と、外國ラヂオの聴取及び外國新聞雜誌の講讀禁止を行ひ、更にヒットラーの演説・重要國策・重要ニュース・重要指令等はみなラヂオを以て行ひ、特に國外的に重要なものはD.N.B局を通じて世界に宣傳放送し、それによつてドイツの政策・意見等を發表してゐる。新聞雜誌・パンフレット・映畫等にも所謂「デマ粉碎」のためや「宣傳」のためのものがあることはいふまでもない。イギリスに於ても情報省があつて盛に通信・放送等を利用し、戦争状態に入つては飛行機をドイツ上空に飛ばして「吾人の敵はドイツ國民にあらずしてヒットラーとナチス政権である」と宣傳し、また逸早く商船の撃沈を報じてドイツの横暴に對する世界の同情を得んとし、また青書 (Blue Book) といふ外交文書を出版して英佛外交交渉の顛末を公表し、自國の正義を述べヒットラーの野心を暴露した。かくして戦争により著しく民心が亢奮して暗示性と過信性と輕躁性に富むことを利用して、盛に宣傳戦を行ひ、かくして心理的に大きな打撃を與へんとしてゐるのである。今回の宣傳戦に於てラヂオと映畫の効果が極めて大きく、新聞・通信・寫眞等を遙かに凌駕することがあるのは時代特相といつてよい。

外交戦 英佛對獨戦争をめぐつて外交上最も重要な地位を占むるものは米・伊・蘇聯であり、それ